

山 ざ ら

第16号

昭和60年4月

関東氷上郷友会





渡辺紙工業株式会社

取締役社長 渡辺金三

本 社	大阪市城東区今福西 3 丁目 2 番 24 号 Tel 939—1281(代)
東京支店工場	東京都足立区中央本町 5 丁目 22 番 12 号 Tel 849—6611(代)
” 関宿工場	千葉県東葛飾郡関宿町大字台町 2192 番 Tel 0471—96—1721(代)
東京支店営業所	東京都台東区柳橋 1 丁目 20 番 4 号<久月ビル 8 F> Tel 861—2331(代)
名古屋支店工場	名古屋市西区又穂町 3 丁目 13 番地 Tel 521—8111(代)
大阪支店 工場	大阪市城東区今福西 3 丁目 2 番 24 号 Tel 939—1281(代)
九州支店 工場	福岡県粕屋郡久山町猪野小柳 884 番 1 号 Tel 09297—6—2211(代)



渡辺製袋株式会社

取締役社長 渡辺金三

本 社	大阪市城東区今福西 3 丁目 2 番 24 号 Tel 939—1281(代)
東京支店	東京都台東区柳橋 1 丁目 20 番 4 号<久月ビル 8 F> Tel 861—2331(代)
大阪支店	大阪市城東区今福西 3 丁目 2 番 24 号 Tel 939—1281(代)
藤岡工場	栃木県下都賀郡藤岡町内町 4938 番地 Tel 028262—3321(代)
兵庫工場	兵庫県加古郡稲美町蛸草 1438—1 番地 Tel 0794—95—0257(代)

山ざる 第16号 目次

表紙画Ⅱ常岡文亀『ざくろ』	47年10月作
ごあいさつ	伴仲信次 2
郷友会の皆さんに	有田喜一 3
二一世紀は丹波の時代	西山敬次郎 4
西山敬次郎君を励ます会	5
丹波と交通問題	梶原 清 7
ふるさとでは	谷口 務 8
郷土の名誉を	田中玲三 9
二一世紀をめざして	荒木真次 10
若さあふれる春日	杉本喜八郎 11
関東氷上郷友会の皆さんへ	内橋 昭 12
氷上農高・氷上高校と改名	森田信三 13
“米寿”大会に二五〇余人	14
ふるさと一色九段会館	17
総会・祝賀大会点描アルバム	17
記念大会 発起人名簿	32
記念大会 寄付金芳名録	33
記念大会のバックグラウンドミュージック	33

について	大岡照子 36
大任を果たして	若森敏郎 38
八八周年大会の裏方たち	渡辺隆男 38
氷上郷友会創立のころ	40
関東氷上郷友会の沿革	43
関東氷上郷友会会則	46
ふるさと紀行	常岡幹彦 47
上田三四二氏に文部大臣賞	48
日本女性の鑑「田捨女」	宮野 近 49
百歳青春	堀川萬次 54
幸世のルーツを	足立順治 57
今と昔 たとえば通信簿	吉住重造 62
私の食卓	田中篤郎 65
ゴルフと健康	谷垣正雄 66
食は命なり	足立かをる 67
駿河湾の初日の出に思う	坂本重雄 68
人生これ「初体験」	池田 忍 70
アジア瞥見	谷 達雄 71
中国残留孤児に思う	常岡 昭 72
寒の朝	井本義一 73
近況を和歌にのせて	音無太美子 75
カナダに旅して	秋元多美子 75
西崎祥さんの晴舞台	76
常岡幹彦氏個展	77
「山ざる」会	77
関東氷上郷友会 新春役員会	78
柏中第四八期生同期会	79
同好会報告	80
柏高第七回卒業 三〇周年記念行事	80
柏陵同窓会東京支部 総会のおしらせ	81
兵庫県人会だより	81
関西氷上郷友会会長に田季晴氏就任	82
大納言小豆考	83
丹波の四季をいかが	84
柏原農協から	85
出版	86
寄付金	87
会費領収報告	87
会計報告書	89
住所変更	91
新会員	91
お便り・短信	95
計報	97
84丹波の動き	97

ごあいさつ

関東氷上郷友会会長 伴 伸 信 次



昭和還暦といわれるおめでたい新年を迎え、会員の皆様には、お元氣にてご活躍の段、大慶の至りに存じます。

昨年は、わが郷友会の八八周年を迎えて記念大会を催しましたところ、多数のご来賓と、本会創立以来初めてのありがとうございました。また、この催しの実行委員の方々の熱心なご尽力にも改めて深く感謝致します。

「自分には故郷があつて、幸せだなあ」という思いがいつも心にあります。

私の人生では、良い時も悪い時も、どんな環境にあつても、まず故郷が浮かんでまいります。故郷は、私にとって常に無言のうちにあり、励みであり、大きな心の支えであります。その故郷を同じくする人々が異郷の空の下で生活している。これらの人々が相集つて心をかよわせ合う格好の場としてこの郷友会

をつくつて下さった先輩に対して感謝の念を禁じ得ません。

我が関東氷上郷友会は、その会則に示すとおり、氷上郡出身者及びその縁故者の相互の親善を図る団体であります。職業、地位、年齢の別なく、共に心を開いて語り合い、互いに故郷を思い浮べて、あるいは笑い、あるいは泣き、そこから自然に親交の輪が無限に広がってゆく場であります。時として、相談し、助言を受けることもあり、自己啓発の糧を得ることもあり、相互に鍛錬の場ともなり、心掛け次第で大きなメリットを生み出す場でもあります。

青雲の志を抱いて郷関をいず、というのは、私たちの若いころの思いであります。

男女の別を問わず、時の古今を問わず、一度故郷を離れる時は、なんらかの感懷なり覚悟を秘めて出発するはずです。

せっかく志を立てて出郷しながら、都会砂漠の中をさまよい、方向を見失つて転落するような悲劇を招かないためにも、本郷友会は必ず役立つものと信じます。

幸い、昨年の総会において、青年部と婦人部を設けることが決まりました。現在のゴルフ部、囲碁部のほかに趣味、同好の部を加え、ますます部活動を活発にして親交の輪を広げ、更に郷友会が発展してゆくことを念じてやみません。

終りに、会員各位の今後一層のご協力をお願い致しますとともに、ご健勝とご発展をお祈りしてごあいさつと致します。

郷友会の皆さんに

関東氷上郷友会名誉会長 有田 喜一



氷上郷友会が発足してから昨年で満八八年、人生でいえば米寿の祝いに当たるといので、昨秋の十一月一日、九段会館で記念大会が開催された。なんと、二五〇名以上の人が集まったとのこと、正に空前の盛会といふべきであらう。

西崎祥さんの踊りや福引き等多種多彩の催しもあり、本当に楽しい一日であった。郷土からも、県民局長さんや町長さんなど多数の名士もご来臨になり、丹波の近況を話してくださった。 vari ゆく郷土の様子が手にとるように眼前に浮かび、大変懐かしく拝承した。子どもの時からずっと丹波で生い立ち、官界時代を経て政界入りした後は、郷土の方々の格別のご支援を頂き、私も微力ながら、郷土の開発、発展と丹波の方々の福利増進のために全力投球をしてきているので、郷土とのつながりが深く、ひとしお、郷土に対する親しみと懐しさを強く感じるのである。

伴仲会長をはじめ、村上実行委員長その他の実行委員の各位に対して、そのご労苦に改めて深甚の敬意と感謝の意を表する次第です。

いざというときとあれだけ多数の方が集まられるのだから、毎年の総会にもせめてあの半数位は集まってほしいものである。最近、若い人や女性の出席が多くなってきたが、学生さんの姿があまり見受けられないのが残念である。私の学生さんのときは友人を誘って進んで郷友会の会合に出席したものである。郷土の先輩に接していろいろな話を聞き、また、自分の考えを遠慮なく述べられるのも同郷人同士なればこそ、という一種独特の味わいに浸ったものである。そうして、いつも「郷友会の会合に出席してよかったなあ」という思いを深くしていた。

おそらく、故郷を懐しく思わない人はいないだろう。総会への出席に誘っても、話相手がない、という人がよくある。しかし、それは出席しないから知人が少いのであって、出席さえすれば、必ずや故郷の思い出に花が咲き、自然に知友も増えてくるものなのである。そうして、会に出席してよかった、次回も友人を誘って出席しよう、というような雰囲気を作り上げたいものである。

私事を申して恐縮ですが、私は昨秋、急にめまいがして一カ月あまり東京通信病院に入院していました。病気は全快したものの、一カ月余の病床生活ですっかり足が弱くなってしまった

のです。このままじっとしては、ますます足は弱くなるので元の職場（日本海運振興会）に復帰し、いろいろな会合にも出席して、従来どおりの活動を続けています。余生は気楽に、といってくれる人もありますが、私の余生は余った命ではなく、例え政界の第一線を退いたとはいえ、微力でも世のため、人のために寄与する「与世」であると考えております。

私は、日本海運振興会会長を主軸にして、教育、科学技術、安全保障（防衛）など、いろいろな問題と取り組み、また、日本長老会（桜田武とともに代表理事）や協和協会（岸元総理が会長）にも出席して、天下国家を論じています。

郷友会の皆さん、なにとぞ本年もご健勝、ご多幸でありますよう、心からお祈り申し上げて、ごあいさつと致します。



記念大会で挨拶する有田名誉会長

二一世紀は丹波の時代

西山 敬次郎



なりました。

私は、この一〇年間の半分を丹波に居座って、来るべき衆議院選挙の体制づくりに全身全霊を傾けて頑張っていました。幸い皆様の絶大なご支援により、五八年暮から議席を得させて頂いております。

国会で仕事をするにあたって私は、まず我が国がただ今どのような環境におかれているかを考えました。その結果、第一には、戦争によって破壊された日本の経済力がすっかり立ち直り、今や自由世界第二位の経済大国になっている。この力を用いて今後は世界の平和のために貢献しなければならないこと、第二

第一次石油危機を契機に「全治三年」と予想された経済がその後遺症に悩まされ、「不透明の年代」とも「地方の時代」ともいわれて始まった昭和五〇年代も何とはなく終わり、ここに新たな希望に燃えた六〇年代を迎えることに

に、戦争直後の日本人の平均寿命が五〇年から、今や八〇年に伸びて世界一の長寿国となり、しかもますます高齢化が進もうとしている。いくら寿命が伸びても、日本民族が常に若々しい活力を持ち続けてゆくための医療、福祉などの体系を真剣に検討すること、でありました。

これら二つの重要課題に取り組むため、外務委員会と社会労働委員会に席をもって、昨年八月八日に閉会されるまでの二二七日の長い国会の勤めを果たしたのでございます。

その国会の会期中に大変大きな問題に遭遇致しました。それは「定数は正」の問題であります。いまさら申すまでもなく、衆議院議員一人に対する有権者の開きが、千葉県一区と兵庫県五区とは、四・五二対一もある。これでは有権者の意思が平等に国会に反映されているとはいえない、という問題であります。私は、この問題は基本的に「過疎」に起因するものと確信しております。いかに地元で働きたくても、丹波では若い青年諸君の職場が少ない。そのため職を求めて都会に流出して人口の減少を招いたのであります。この問題を解決するには、まず青年諸君が夢と希望を持って働ける魅力ある職場を丹波の地に造り出すことが肝要である。これをおさりにして、常に現象面のみをとらえて定数は正を論じても根本的な解決にはならないのみならず、際限のない繰り返しになるということを強く主張し続けてまいりました。

わが郷土、丹波は、戦後の高度成長時代の開発からとり残されはしましたが、あの当時の乱開発による公害や自然破壊を被らなかつたことは、かえって幸いであつたと存じます。近舞線の開通も近い将来に実現のめどもつきました。大きな市場である京阪神との時間距離も短縮され、二一世紀に向けての発展が大いに期待されております。

私は、公害なき美しい自然環境と豊かな暮らしとの調和のとれた理想的な丹波づくりを目指して直進致す覚悟でございます。郷友会の皆様、ご健勝にてますますご発展あらんことを祈りますとともに、今後、一層のご援助を賜りますようお願い申し上げます。
(衆議院議員)

「西山敬次郎君を励ます会」

昨年一〇月二日、元通産省貿易局長・現衆議院議員西山敬次郎先生を励ます会が、芝公園の東京プリンスホテルで盛大に催されました。政界、官界、実業界の名士多数が参集されたことはもちろんのこと、郷土丹波からは後援会の皆さんが、バス一二台を連ねて会場にかけつけられました。関東氷上郷友会からも約三〇名が参加し、終始なごやかな中にも熱気あふれる励ます会の雰囲気でした。

海部俊樹衆議院議員の開会の辞に続いて、発起人代表として、

元東芝社長の玉置敬三氏が「西山敬次郎君を励ます会」の趣旨を述べられ、来賓代表として河本敏夫経済企画庁長官の祝辞がありました。その中で、河本大臣は、名門兵庫五区について、斉藤隆夫氏、有田喜一氏その他の名指導者を輩出した歴史的、時代的背景や、丹波・但馬の人情の厚さにも言及され、丹波からは必ず住民の代表者である代議士が選出されねばならないのだと強く指摘されました。

さらに、坂本三十次労働大臣の祝辞や、堺屋太一氏の選挙よもやま話、大村襄治元防衛庁長官、元自民党総務会長の田中龍夫代議士、臼井日出夫代議士の祝辞が続き、乾杯の音頭は森山真弓参議院議員がなさいました。

これに対し、西山敬次郎議員ご夫妻の謝辞・謝礼があり、西山敬次郎後援会婦人部の「やよい会」会長・押野文子さんの万歳三唱で、名残りを惜しみながら盛況裡に散会となりました。

ところで、過去七年間、丹波では代議士不在の状態が続いたことは衆知のとおりです。私は東京からその模様を眺め断腸の思いでした。実にさみしい思いをしました。山紫水明の地、多くの文化財に囲まれた『丹波の人々よ・小異を捨て大同を執る……度量を持ってほしい』といくたび願ったことでしょうか。かりに今後二人区となっても絶対に丹波から代議士は選出されなければ……と自分自身に言い聞かせ、中秋の夜空に輝く東京タワーを見上げながら帰途についた次第です。

(宮野 近記)



丹波と交通問題

梶原 清



関東氷上郷友会の皆様にはますますご健勝にてご活躍のこととおよろこび申しあげます。平素はご無礼ばかりしておりまして恐縮に存じています。私もおかげで議員生活五年近くになり、現在、参議院の予算委員会委員、運輸建設委員会副委員長兼事務局長などのポストで、元氣いっぱい働いております。

運輸交通関係の最大の課題は、国鉄再建問題、特に国鉄の経営形態の問題であります。ご存じのように、国鉄再建監理委員会から、この夏までには民営分割案―日本列島を三つとか五つとかに分けた株式会社組織にする案が出されてくるものと思われれますが、採算のとれる見込みが全くない北海道、四国、九州が一体どうなるのか、膨大な累積債務、二、三万人もの余剰人員、資産評価等々がどうなるのか、極めて難しい問題があまり

にも多いので、国論が二分するのではないかと案じています。あえて私見を申しますと、現在の段階では民営化と分割案とを切り離し、まず民営化（特殊法人である株式会社）だけを一日も早く実現させ、幅広い再建方策を強力に推進する。分轄論はその過程のなかで考えていくのはいいいのではないかと考えます。

国鉄全体のこととさることもながら、やはり心配でならないのは、大先輩の有田喜一先生にも大変ご尽力いただいた、福知山線複線電化工事の促進です。私も運輸省の出身で、交通部会副部会長の立場にありますので、この数年一生懸命奔走してまいりました。国鉄の設備投資は安全対策費以外は原則として抑制するという政府の方針が決定されているなかで、福知山線の工事だけは正に例外的に、重点的に取り組んでいたが、年間百億円前後の投資を続けてもらっています。本当にありがたいことに、新三田駅までの複線化が昭和六一年度に完成し、同時に、大阪、宝塚間を走っている都市型の電車が丹波路を走ることになると思います。

福知山線複線電化と、これに続く近畿自動車道舞鶴線の完成は、わがふるさと丹波にいわば交通革命をもたらすものといえましょう。神戸、大阪への交通が大変便利になるのはもちろん、阪神都市圏からの都市化の大きな波が丹波に押し寄せてくるのは必至です。それを目前に控えて、美しく、のどかで、しかも

活力あふれるふるさとづくりをどうすればいいのか。以前には、「十年一昔」と申しましたが、昨今では「一年一昔」、早急に、真剣にふるさとづくりを考えるべきではないか、と思っています。

(参議院議員)

ふるさとでは ことし

柏原町長 谷口 務



関東氷上郷友会のみなさま、希望にみちた一九八五年の新春をご健勝で過ごしになられたことと存じ、ふるさとの丹波かいばらからお喜び申しあげます。

昨年は、関東氷上郷友会の米寿に当たる記念総会に出席させていただき、大勢の懐いお顔に接し、お話できましたことが何よりもうれしく、ありがたいことでした。

帰町後、早速ふるさとのみなさまにご報告致しました。

今年は誠におだやかな年明けで、今のところ昨年のような大雪は降っていませんが、恒例の二月一七・八日の三丹一を誇る

厄除大祭のころには雪をみるかも知れません。

ところで、柏原町も今年は町制施行九五周年と新町発足三〇周年の記念すべき節目の年を迎えました。

一〇月一日を中心に、年間のさまざまな行事を通して歴史の重みと足どりを省りみて、今後の発展への弾みをつけたいと考えております。

まちの農村地域では、昨年から、南多田、田路、母坪地域の県営排水対策特別事業を約五億円、全町の約二〇〇ヘクタールの農用地に対する県営ほ場整備事業を、約一九億円の経費で、年次計画的に推進すべくスタート致しました。これは農家だけでなく、年々発展し拡大してゆく市街地全体と住民の快適な生活環境を整備充実するためにも、山林と共に大事な緑の生活空間です。

商工面では、一三九〇〇〇平方米の新井工業団地が、今年、日本ワイス株式会社の第二工場、研究所等の着工により、すべて満杯・完成となります。

特に今年は、織田信長ゆかりの全国の市・町の関係代表者を招いて、昨年の安土町に続く第二回 織田信長サミットを秋ごろに開催し、歴史的えにしを通じて全国一八市町の交流を深め、新しい『まちづくり』に役立てたいと考えています。

郷友会のみなさま、ふるさとのまちづくりにつきまして、いろいろお気づきのことなどをご指導ご助言下さい。

今年もまたお出合いできる日を楽しみに……。
みなさまのご健勝とご発展を心からお祈り申しあげます。

郷土の名誉を

氷上町長 田中 玲三



近年、急激な社会情勢の変化や価値観の多様化が進むなかで、ややもすると自己中心に物事を判断し、行動しようとする人々が増えつつあるとき、希望と抱負に満ちた関東氷上郷友会のみなさんの躍動する雄姿は、さすが郷土のつわものぞろい、「丹波の山ざる」の名にふさわしく、感銘の一語に尽きます。

将来の日本を背負うみなさんの能力、気力、体力、さらには豊かな情操と隣人愛は、必ずや人々の模範として輝しい成果を収められるものと確信致します。

これは、みなさんの名誉だけでなく、県下の名誉であり、郷土の名誉であります。

中央に出張致して郷土出身のみなさんにお出合いする節には、

何にもまして親近感と安心感を覚えます。

どうか、健康にはくれぐれも留意されまして、郷友会が限りなき発展をとげられますよう祈念いたしましてごあいさついたします。

氷上町行政のとりくみと話題

① とりくみ

- (1) 氷上町発足三〇周年記念式典（十一月予定）
 - (2) 国道一七五号線（氷上町横田～春日町歌道谷）トンネル開通工事
 - (3) 南小学校校舎改築
 - (4) 火葬場新設
 - (5) 福祉センターの新築
 - (6) 甲賀山公園整備
 - (7) 中央地区（旧成松町）下水道工事
 - (8) 南地区（旧沼貫村）県営ほ場整備
- ② 話題——近畿自動車道舞鶴線の開通に関連して——
- (1) 工業団地埋立（二三ha）
 - (2) 長野メモリアルパーク（三〇八ha）
 - (3) 三原ゴルフ場（一〇〇ha）

二一世紀をめざして

市島町長 荒木 真次



春寒の候、皆様方におかれましては、ますます御健勝のこととお喜び申し上げます。

今年の冬はこのほか雪も少なく、しのぎやすいが続いていますが、一方、去年より続いております水不足が非常に心配されるところであります。

さて、今年は『昭和』も苦節の六〇年となりましたが、ここに還暦を迎えることができました。また、私たちの町『市島町』は今年町制を施行しましてから三〇周年を迎え、三月には町制三〇周年記念行事を盛大に開催いたしたく存じている次第です。そして、この年をひとつの節目として、また次へのステップとして、二一世紀のふるさとづくりの基盤をしっかり築いていきたいと考えています。

わが市島町としましては『特色あるまちづくり』を目指して、将来に向け、着実に前進しております。

まず、情報化時代に対応して、三月末に開局予定の防災行政無線システムの導入による町内の有線放送の一本化、及び四月の開設を控えて着々と準備が進められているコンピューターは、時代に即応した事務処理体制と住民サービスの向上を図る意味で、新たな一步を踏み出すものといえます。

一方、農業面においては、当町は全国的にもまれな圃場整備の先進地であり、今年度から、さらに整備された農地を効率よく利用するための新農業構造改善事業も開始します。

このほか、観光面や施設整備の面でも数多くの施策を抱えています。なかでも二一世紀に向けて『いいこの場』として、三ツ塚史跡公園の充実をはかりたいと考えています。情報がはんらんする世の中で何が必要かを見極めることが非常に困難になっています。「物から心へ」といわれて久しくなりますが、今こそ「精神的な豊かさ」に焦点をあて、ゆとりある町政を進めていきたいと思えます。人々が寄り、語らい、汗を流し、喜び、まさしく人間らしいこの場の創造がぜひとも必要なのではないでしょうか。そして、このいいこの場から対話が生まれ、私の基本理念としております『愛育』の輪が広がるものと信じています。

今年、淡路島では、くにうみの祭典が開催されますが、六三年には近畿自動車道舞鶴線の開通に合わせて「丹波まつり」が計画されています。これを機会に丹波地域のネットワーク的ま

ちづくりの推進を図り、市島町においても「澄んだ空気、豊かな緑、素朴な人情」をキャッチフレーズに『田園文化都市』を将来像とする新しい地方都市創造のため、鋭意取り組んで参る覚悟でございます。

どうか皆様方におかれましては御健康に充分留意され、御活躍されることを期待申し上げますと共に、二一世紀へ向かう市島町により一層の御指導・御協力を賜りますようお願い申し上げます。

若さあふれる春日

春日町長 杉本 喜八郎

故郷を離れて関東地方でご越年の郷友会の皆様、明けましておめでとうございます。丹波の元旦は雪もなく良いお天氣に恵まれました。

本日は正月行事もほぼ終了し、成年式も無事終えて、この稿に向かっていきます。はちきれんばかり、若さいっぱい成人諸君に接し、「ああ、若さはよいなあ」とつくづく老いゆく自分が情なくな

りもしますが、そこは氣の持ちようで、輝かしい我が春日町の未来を思い、移り変わる時代にふさわしい町づくりを考える時、老いの心は許されない自分の責務を省りみ、せめて気持だけでも青年のようでありたいと願っています。

昨年は郷友会も米寿を迎えて盛会であった記念の大会をしのびながら、改めて伴仲会長を初めこの行事を企画された方々のご労苦に感謝するものであります。私たちがこれというお手伝いのできなかったことを申しわけなく存じております。

冬田の広がる春日盆地に間もなく訪れる春に備え、農家は着々と土作りに励んでいます。完成間近の近舞高速道春日インターや母なる河、竹田川の大改修工事もますます進み、町の東部はダンブカーが砂煙をあげて往来する新年です。

若い春日町が、皆さんのご帰郷のたびに良くなっているように、更に微力を尽くして頑張りますのでよろしくご支援下さいますようお願いいたします。

皆様もニューメディア時代におくれをとることなく、ますますのご健勝とご活躍をお祈りし、本年の例会でお会いするのを楽しみにしています。

年頭に当り、関東の同郷の皆様へのごあいさつと致します。



★

★

関東氷上郷友会の皆さんへ

兵庫県立柏原高等学校校長 内橋 昭



昨年来、校長室の書棚の整理をしていましたら、昭和二十七年一月三十一日の日付がはいった山田耕筰先生自筆の校歌の楽譜と富田碎花先生の同じく歌詞が出てきました。

「霧の底より生れ出ずる……」とある美しい自然環境はそのままであり、よき校風と伝統の上に立って、来年の創立九〇周年記念式を機に、同窓会の皆さんのご協力を頂いて柏原高校の名声をますます高めていきたいと念じております。

さて、本校の近況を「山ざる」誌上をおかりしてご報告します。

昭和四三年に着工した校舎新改築工事（一号館・三階建、二・三号館・共に四階建）も五八年度の体育館、生徒集会所の竣工で完了し、三〇学級、一三四三名の在校生を擁する名実共に県立有数の高校としての威容を誇っています。

卒業者数も、今春卒業する高校三七回生を含めて、二七五〇〇名を超える人数となります。

また、地域社会の要望もあって、五九年度から商業科が募集停止となり、普通科定員がその分だけ増となり、六二年度から普通科単独校になります。

高校教育の多様化、特色化が進展するなかで、六一年度から普通科の中に理数コースを設置し、ハイテク時代に対応できる有為の人材を育てたいと準備を進めております。

六一年六月に予定している記念式典までに、記念館の修復や新時代にふさわしい校訓の制定等、二一世紀への展望に立って多彩な進展を期しております。

四一年から実施してきた、ケント・メリディアン高校との交換留学も二〇周年を迎え、国際化時代に対応して成果を挙げています。

清純で粘り強い気風を引き継いでいる生徒諸君の姿は、本年度の社会教育資料としてビデオに収録され、県下高校育友会の研修用に配布されました。

四一部（運動一四、文化二七）の活動も、ソフト部の県大会準優勝を筆頭に着実に実力を高めています。

今後さらに進取の気性を伸ばし、生徒諸君の稔り豊かな学園生活を支えていきたいと全職員が努力を続けております。

皆さんにとって思い出に満ちた母校の姿は校庭の樟の大樹以

外は一変しているものの、いっそうのご支援ご鞭達をお願いいたします。

あわせて関東氷上郷友会のご発展と、会員各位のご活躍を祈念する次第であります。

氷上農高は「氷上高等学校」と改名

人材の養成に躍進をつづけます。

兵庫県立氷上高等学校校長 森田 信三



「私達は絶対に勝つ、私達にはその力がある」——午後四時、今日も底冷えのする体育館から、女子バレー部員たちのかん高い声が兵主の森に響きわたってきます。

五八年度の赤城国体で念願の「高校女子バレー・日本一」の栄冠に輝き、氷上郡民の歓喜の中を凱旋してから一年、先輩たちの輝きき伝統を守ろうと、今日も新チームが春の選抜高校女子バレーの全国制覇に向けて猛練習をつづけています。

「氷上農高女子バレー部、はやくも県の新人戦で五連勝」と日本でもトップクラスのわがバレー部の活躍に刺激されて、他

の体育クラブも地区大会で入賞したり、また農業クラブ活動も活発となり、なかでも被服班は、伝統ある丹波布の技術を研究、綿の栽培から綿くり、綿打ち、糸紡ぎ、藍染めや草木染めなどの古法までマスターして織りあげ、本年度の「農業クラブ全国大会」に出場して『優秀賞』を獲得するなど、日ごろの学習効果を大いに発揮しております。

また五八年度から商業科が新設され、新築なった商業科棟では二五台のコンピュータによる情報教育を推進、また全員の簿記検定一級合格を目標として質の高い商業教育を実施するなど、地域産業の担い手を育成するために、幅広い教育を実践しつつあります。なお、氷上農業高等学校は今年の四月一日から「氷上高等学校」と改名、心機一転、学業はもとより、農業クラブ活動、部活動など学校生活全般にわたって着々と成果を積み、躍動するユニークな学園をめざして頑張ります。

本校卒業生のみなさん、ぜひ氷上高同窓会関東支部を結成してください。関東氷上郷友会のみなさん、今後ともどうかいつそうのご示教とご支援とをお願いする次第でございます。

★

★

* 西近畿で四年連覇を果たした氷上農高女子バレー部は、今春三月、「春の高校バレー・全国大会」に出場、第一回戦は日大山形高校に2対0で楽勝したが、第二回戦を大分の扇城高校と接戦、惜しくも2対1で敗れた。（編集部）

米寿^リ大会に二五〇余人 ふるさと一色九段会館

創立八八周年を迎えた関東水上郷友会は五九年一月一日、東京九段の「九段会館」に来賓、郷友二五〇余人が集い、米寿^リを祝う記念総会と祝賀会を開いた。

この日は好天にも恵まれ、受付開始の午前一〇時半を待たずに三々五々、懐しい会員の顔が集まり、さしもの広い三階の三つの部屋と廊下が、ふるさと丹波一色に埋まった。

来賓には、山本一兵衛、丹波県民局長、杉本喜八郎春日町長ら一六氏を迎え、会員は有田喜一名誉会長、田英夫社民連代表顧問らをはじめ、友を誘い、家族を連れ、郷友会八八年の歴史の中で初めての、実に二四〇余人が顔をそろえた。おみやげに用意した故常岡文亀画伯の「まつたけ」の複製色紙が足りないのでは——と、幹事をあわてさせるほどの盛会ぶり。

午前一一時、予定どおり「翡翠の間」で、昭和五九年度総会を開会。予想をはるかに超える会員の出席で会場が狭くなり、廊下にはみ出しての総会となった。

伴仲信次会長が挨拶に立ち、思いがけない多数の郷友会への

参会に謝辞を述べたあと、同会長が恒例により議長席について議事に入った。足立和己会計理事の会計報告、吉住重造監事の会計監査報告、足立正理事の会務報告があり、いずれも異議なく承認。さらに、会の活性化を図るため、青年部と婦人部を新設する会長提案を満場一致で可決、会のさらなる発展を誓い合せて記念総会を閉じた。

このあと、会場を大広間の「真珠の間」に移して、祝賀会に先立ち、午前一一時半から八〇歳の長寿会員をお祝いする吉例の祝寿会。

会場中央、一段高いステージには金屏風を背に、祝寿を受ける上山頭、藤尾ちゑ子の二氏を囲むように来賓の一六氏、そして会場は二四〇余人の郷友が埋めずめた。伴仲会長が記念品の目録をそれぞれ二氏に贈り、祝詞を述べ長寿を祝福した。このあと祝寿者を代表して上山氏が元気な声で謝辞を述べて祝賀会を締めくくった。なお、一〇二歳を迎えた中川四郎氏は医師の許可が得られず、「涙をのんで……」の手紙（別記）を寄せてこ

の日は欠席。

正午——。同じ真珠の間を会場にして、この日の最大のイベント、祝賀パーティに移った。まず、祝賀大会開催に至る経過を、病欠欠席の村上末吉大会実行委員長に代わって、渡辺隆男副委員長が報告、会員の多大の協力に感謝の言葉を述べた。次いで有田名譽会長が「就職で迷ったとき、当時の郷友会副会長だった田健治郎氏の『鶏口となるも牛後となるなかれ』という助言を得て、大蔵省より通信省を選んだ」と秘話を披露、若い人々に、郷友会に入って切磋琢磨するよう訴え深い感銘を呼んだ。

続いて、司会の雷門五郎さんから来賓一人一人の紹介があり、山本局長、杉本町長、小田丹波新聞社長らが挨拶に立ち、伸びゆく丹波、拓ける郷土の姿を、あたかも目のあたりにするようなその話の数々に、会員それぞれ望郷の念ひとしおの面持ちで耳を傾けていた。

ステージは一転——、薄暗くなった中を、スポットライトをあびて透立烏帽子姿のリリしい美丈夫が登場。祝舞「箏曲千鳥の曲」の西崎祥さんである。尺八・若森丹山さん（郷友）、琴・神田都美井さん（友情出演）の奏でる妙なる楽の音の中、西崎さんのあでやかな差す手引く手に会場はうっとり。空腹も忘れて魅了されたすばらしい一五分であった。

午後一時、足立三治前会長の音頭で声高らかに乾杯、祝賀パ

ーティに入った。西山敬次郎代議士、森田水上農高校長の挨拶があり、にぎやかな懇談の中、会員・岡田一男さん提供のザ・トップ・クラブ・ミュージック・サロンのお嬢さんたちの明るいコーラスが、会場の楽しい雰囲気をやがうえにも盛り上げる。

初めは出身町村ごとに出来ていた人の輪が、いつの間にか崩れ、あっちこっちで、十何年ぶり何十年ぶりの感激の再会、仕事や近況、それに懐しい昔話などに、いつ果てるとも知らぬ話の花が咲く。

時のたつのも忘れて語り合う人々の耳に、お楽しみ抽選会の開始を告げる司会・雷門さんのアナウンス。ステージに目をやると、ハッと息をのむような美人が二人、それもそのはず第一〇代日本さくらの女王として世界を駆けめぐっている渡辺優貴子さん（渡辺副会長のお嬢さん）と、西山代議士秘蔵の秘書小山千理さんである。両嬢をアシスタントに、雷門さんの軽妙洒脱な司会で、カラーテレビや時計、郷土産品など多彩豪華な景品の抽選が進出。当選番号がアナウンスされるたびに、当選者の周辺から大きなどよめきが起こる。特等のカラーテレビを射止めた〇〇〇〇さん（〇〇町出身）は、重いテレビを抱きかかえ、相好をくずして「いい記念になります」と大喜びだった。

四時、坂上理事の発声で、会のますますの発展と、会員の健康の祈りを込めて万歳を三唱、米寿総会の幕を閉じた。いつま

でも別れを惜しみ立ち去り難い人々……。故岡画伯の「まつたけ」の複製色紙と、ビッグな景品を手にしたに、来年の再会を約して、最後の一人が九段会館をあとにしたのは午後七時をたくに過ぎていた。

この日のパーティー会場入口では、切りイモ、黒豆、栗などふるさとの味の数々が展示即売されたが、たちまちのうちに売り切れ、相次ぐ予約申し込みに、係りの人々はてんでこ舞い、幹事も大きな見込み違いに嬉しい悲鳴をあげていた。

また会場前の壁面には「山ざる」の各号の表紙を飾った故岡画伯の名画と丹波の名所の写真、その前の机には、一号から一五号までの「山ざる」が陳列され、感慨深げな会員が引きも切らず、郷友会の「歴史」を手にし、ふるさとを懐しんでいた。

（小田富士夫記）

中川四郎さんからの手紙

拝啓 時下秋冷の候弥々御健勝の趣深くお慶び申し上げます。今回、氷上郷友会も八八周年を迎えるに当り大会に出席するよう御招待に預り有難く厚く御礼申し上げます。

なつかしき本会の記念会なり、発起人芳名中に有田喜一、田英夫両氏の御出席を知り、是非とも席末を汚したく医師に相談

致しました処、以ての外なり、外出厳禁とやかましく止められましたから、誠に残念ながら欠席の御諒承を願います。と申しますのは実は、老生頗る健康でありましたが、数年前突然狭心症にて倒れ、救急車の世話にて入院静養しまして以来、ややもすれば発作の徴候に接し、其の都度入院静居の厄介を繰り返すこと数回、心臓疾患が持病となり、外出に厳重な制約を受け、自動車ならば平地にて緩行三・四〇分、徒歩ならば徐行三〇分以内、電車・汽車は絶対禁止という生ける屍と同然の情けない体とて、昨今頗る元氣にて大丈夫なりと信じ、医師に相談致しました処、前記の如く大喝一声厳禁されました次第とて、誠に残念ながら悪しからず御諒承願いますと共に、衷心より本会の益々発展と会長様始め会員の皆々様の益々御活躍と御健勝をお祈り致します。拝具

（59・10・17）

*

*

拝啓 先日は思いもよらず老生百二歳の長寿を祝し、本会より美事なる伊万里焼の額皿御患贈に預り有難く拝受致しました。早速応接間に飾り一段と花を添えました。早速拝趨会長様始め皆々様に御礼申し上げべき処、御承知の通り心臓疾患の持病の為、一步も外出を許されず室内の起居に其の日を弄して居ります次第とて、心ならずも失礼致して居ります。悪しからず御諒承。会長様始め皆々様に厚く御礼申し上げます。拝具

（59・11・8）



こんなことは初めて。廊下にまではみ出した総会



祝寿会 会長から記念品の目録を受ける上山さん



西崎祥さんの祝舞 尺八は若森丹山さん、琴 神田都美井さん



小山千理さんから祝寿の花束をうける上山さんと藤尾さん



祝寿者を代表，謝辞を述べる上山さん



伴仲会長の挨拶



熱気あふれる祝賀会の会場



森田氷上高校校長



杉本春日町長



乾杯の音頭は足立三治前会長





山本一兵衛丹波県民局長

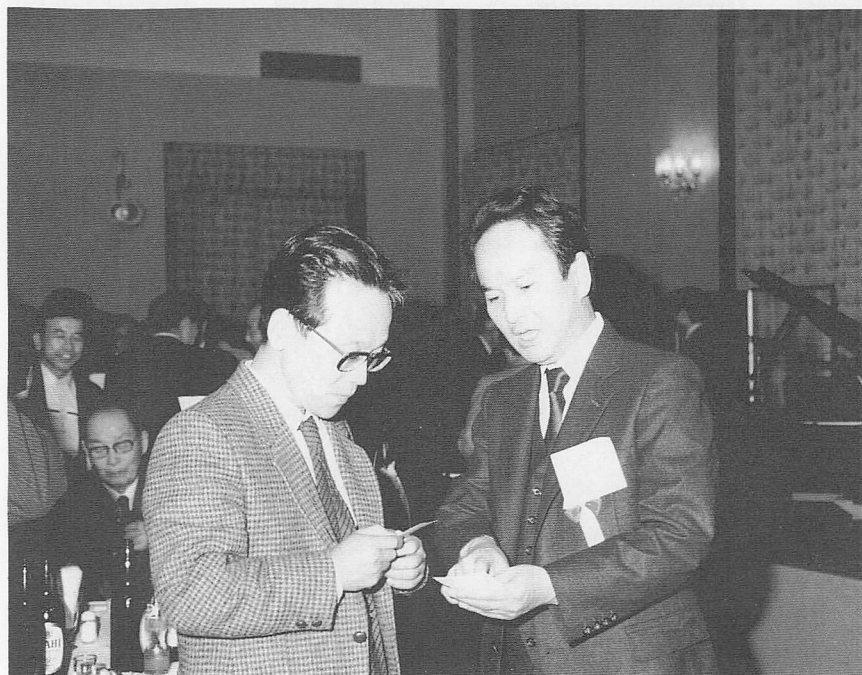


小田知尊丹波新聞社主



荻野武柏原農協組合長





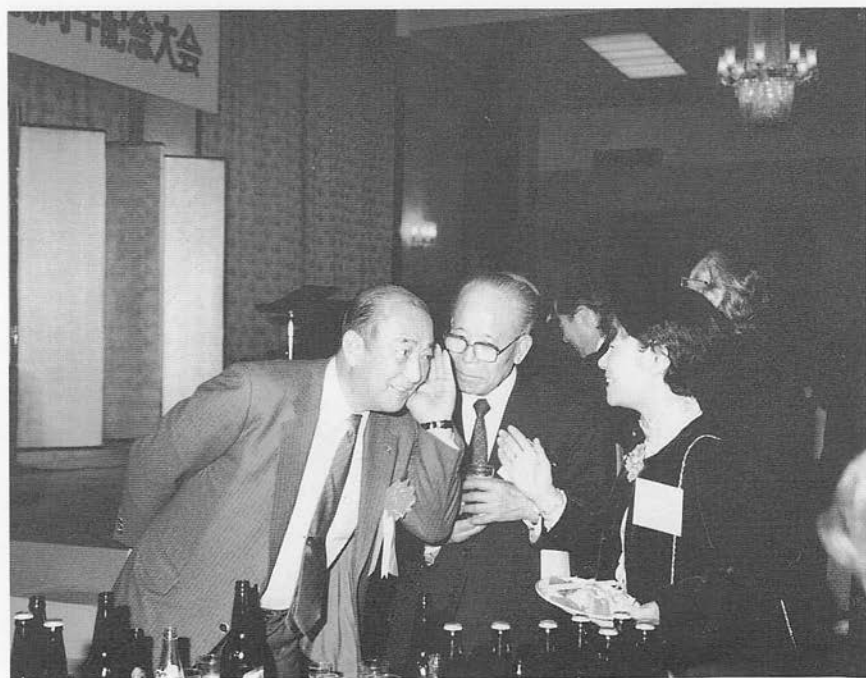


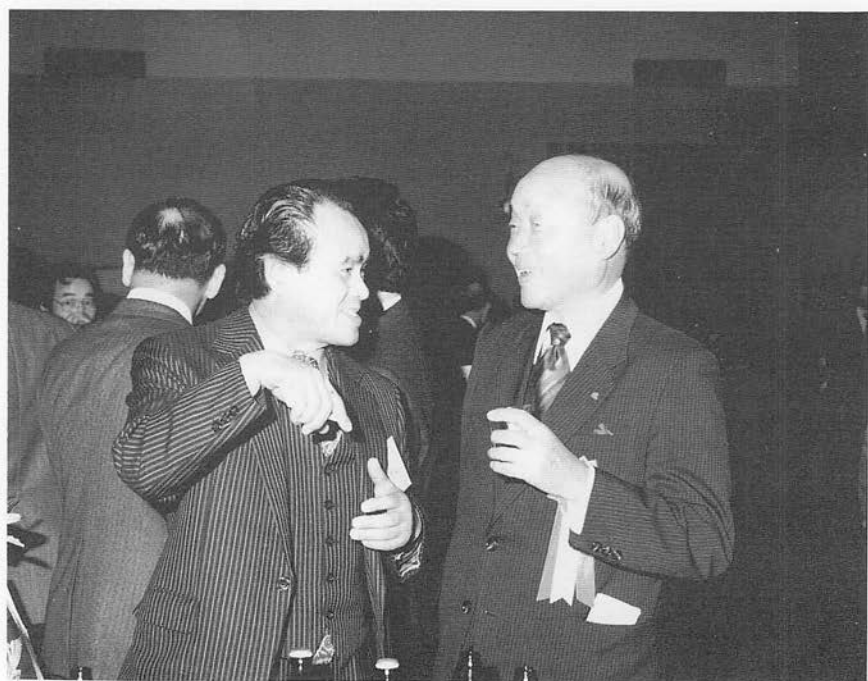














お楽しみ抽選会，期待の一瞬，アシスタントは渡辺優貴子さん，司会は雷門さん



火と燃えたライバルは今日の友，佐々木盛雄・有田喜一の両氏



大会に花を添えたコーラスグループのお嬢さん



当ったの私？ホント！？

関東氷上郷友会八八周年記念大会 発起人（敬称略）

足立かをる	安達葉子	大西修三	木呂子恵美子	坂上 豊	千種倫幸	畑 雅樹	村上末吉
足立和信	井上一也	大西三善	岸 喜彦	坂本正幸	千葉和子	畑 義則	村上大憲
足立和巳	井上雅次	大野富士夫	岸田 勇	笹倉良正	塚口 智	原谷洋美	村上良男
足立勲平	井本義一	大野善三	北山素純	志村勝郎	土田和博	伴仲信次	村上善英
足立謙悟	生田清弘	岡 吉明	久保知義	篠原よね子	常岡幹彦	伴仲秀彦	安原三智子
足立三治	生田正輝	岡田一男	久保良雄	柴田昭子	椿原延二	広内光正	保尾 明
足立誠一	池上亘泰	岡林逸男	久保善信	柴田 旺	鶴田ゆき子	広瀬靖典	山内健次
足立 正	泉 睿子	荻野 勲	黒田 貢	須田十史子	田 敏夫	藤田正雄	山内隆行
足立 徹	磯畑重蔵	荻野 武	小杉武生	須原 清	田 英夫	藤原涼子	山中一朗
足立 眸	鶴沢洋子	可部美智子	小杉仙生	直田 正	堂本 修	船越祥郎	山中岩雄
足立正春	上嶋一晃	甲斐玲子	小谷正雄	勢川武彦	徳義通夫	堀井隆川	山中人美
足立三男	上田鉄太郎	梶原やす子	小谷正己	瀬々妙子	富川清司	前田和市	山本一志
足立義雄	上山 頭	粕谷 進	小西甚右衛門	田中篤郎	中井良平	前田和子	山本喜則
足立由宏	植木一夫	片岡恭子	小林武治	田中憲雄	中島義則	前田高志	山本清士
青木 慧	植村章子	片山紀子	小山年博	田中 寛	永井貞子	前田 誠	余田 功
秋元多美子	牛込経世	桂 一郎	古倉克実	田原敏男	西尾久之	前田 守	横溝初子
芦田重秋	臼井謙三	金子幸雄	古倉徹夫	田村 豊	西川宣孝	前田 亘	吉住重造
芦田 坦	小川晴通	神田敏博	古寺修二	高見嘉都司	西川政一	松下文雄	吉田勇司
芦田律子	小沢敏彦	神野妙子	越賀史郎	高見修次郎	西崎 祥	松本栄二	若森敏郎
有田喜一	小田富士夫	木辻照男	近藤哲夫	高見孝男	西村嘉訓	三浦セツ	渡辺金三
有田興司	大江康嗣	木内実喜夫	近藤田治	谷 達雄	西山敬次郎	三觜洋子	渡辺隆男
安達健一郎	大木正徳	木下清史	佐々木盛雄	谷垣正雄	波多洋三	宮野 近	渡辺政子
安達陽一	大木道則	木村つた江	坂上勝朗	谷口 捷	生原富子	村岡 卓	（二八七名）

関東永上郷友会八八周年

記念大会寄付金芳名録

● 伴仲信次殿	一三〇〇〇〇円
● 渡辺金三殿	一〇〇〇〇〇円
● 渡辺隆男殿	五四〇〇〇円
● 岡田一男殿	五〇〇〇〇円
● 小西甚右衛門殿	五〇〇〇〇円
● 千種倫幸殿	五〇〇〇〇円
● 村上末吉殿	五〇〇〇〇円
● 西川政一殿	四〇〇〇〇円
● 足立謙悟殿	三〇〇〇〇円
● 足立三治殿	三〇〇〇〇円
● 足立誠一殿	三〇〇〇〇円
● 田中篤郎殿	三〇〇〇〇円
● 西山敬次郎殿	三〇〇〇〇円
● 松下文雄殿	三〇〇〇〇円
● 佐々木盛雄殿	二七〇〇〇円

● 足立 徹殿	二〇〇〇〇円	● 有田 毅殿	一〇〇〇〇円
● 片山日幹殿	二〇〇〇〇円	● 安藤繁夫殿	一〇〇〇〇円
● 竹村政雄殿	二〇〇〇〇円	● 生田清弘殿	一〇〇〇〇円
● 田辺輝一郎殿	二〇〇〇〇円	● 池田 忍殿	一〇〇〇〇円
● 谷垣正雄殿	二〇〇〇〇円	● 泉 睿子殿	一〇〇〇〇円
● 西尾久之殿	二〇〇〇〇円	● 井上和三殿	一〇〇〇〇円
● 波多洋三殿	二〇〇〇〇円	● 井本義一殿	一〇〇〇〇円
● 山本清士殿	二〇〇〇〇円	● 大木正徳殿	一〇〇〇〇円
● 梶原 清殿	一七〇〇〇円	● 大西俊治殿	一〇〇〇〇円
● 小林武治殿	一七〇〇〇円	● 大野善三殿	一〇〇〇〇円
● 高見嘉都司殿	一七〇〇〇円	● 岡 吉明殿	一〇〇〇〇円
● 鶴田 宏殿	一七〇〇〇円	● 岡林逸男殿	一〇〇〇〇円
● 谷口 捷殿	一六〇〇〇円	● 荻野晴一郎殿	一〇〇〇〇円
● 小田富士夫殿	一四〇〇〇円	● 荻野 武殿	一〇〇〇〇円
● 小谷正雄殿	一四〇〇〇円	● 粕谷 進殿	一〇〇〇〇円
● 岩村丈子殿	一二〇〇〇円	● 久米 裕殿	一〇〇〇〇円
● 植村章子殿	一二〇〇〇円	● 小谷正己殿	一〇〇〇〇円
● 坂上勝朗殿	一二〇〇〇円	● 小寺確郎殿	一〇〇〇〇円
● 秋山一男殿	一〇〇〇〇円	● 近藤哲夫殿	一〇〇〇〇円
● 葦田有功殿	一〇〇〇〇円	● 近藤 勇殿	一〇〇〇〇円
● 足立かをる殿	一〇〇〇〇円	● 菅野きぬゑ殿	一〇〇〇〇円
● 有田喜一殿	一〇〇〇〇円	● 祐安夏恵殿	一〇〇〇〇円

●須原逸郎殿
 ●須原 清殿
 ●高見秀史殿
 ●田中 寛殿
 ●谷 達雄殿
 ●葛川てる代殿
 ●常岡幹彦殿
 ●常岡 昭殿
 ●中井良平殿
 ●中島義則殿
 ●畑 義則殿
 ●畑 秀夫殿
 ●林田孝子殿
 ●菱田ふみ子殿
 ●堀井隆川殿
 ●宮野 近殿
 ●村上 昇殿
 ●村上 豊殿
 ●吉住重造殿
 ●若森敏郎殿
 ●渡辺 勉殿
 ●綾木 健殿

一〇〇〇〇円
 一〇〇〇〇円
 一〇〇〇〇円
 一〇〇〇〇円
 一〇〇〇〇円
 一〇〇〇〇円
 一〇〇〇〇円
 一〇〇〇〇円
 一〇〇〇〇円
 一〇〇〇〇円
 一〇〇〇〇円
 一〇〇〇〇円
 一〇〇〇〇円
 一〇〇〇〇円
 一〇〇〇〇円
 一〇〇〇〇円
 一〇〇〇〇円
 一〇〇〇〇円
 一〇〇〇〇円
 一〇〇〇〇円
 一〇〇〇〇円
 一〇〇〇〇円
 八〇〇〇円

●足立勲平殿
 ●足立 正殿
 ●足立和己殿
 ●生田正輝殿
 ●荻野一雄殿
 ●梶原やす子殿
 ●小杉武生殿
 ●田 英夫殿
 ●仲 一聡殿
 ●山内隆行殿
 ●山本権一殿
 ●池上亘泰殿
 ●片岡恭子殿
 ●金子幸雄殿
 ●木村つた江殿
 ●久保良雄殿
 ●勢川武彦殿
 ●田中憲雄殿
 ●広内光正殿
 ●東田 實殿
 ●前田和秀殿
 ●松本栄二殿

七〇〇〇円
 七〇〇〇円
 七〇〇〇円
 七〇〇〇円
 七〇〇〇円
 七〇〇〇円
 七〇〇〇円
 七〇〇〇円
 七〇〇〇円
 七〇〇〇円
 七〇〇〇円
 七〇〇〇円
 六〇〇〇円
 六〇〇〇円
 六〇〇〇円
 六〇〇〇円
 六〇〇〇円
 六〇〇〇円
 六〇〇〇円
 六〇〇〇円
 六〇〇〇円
 六〇〇〇円

●村上栄宏殿
 ●山中人見殿
 ●若栗すぎ子殿
 ●足立昌彦殿
 ●植木一夫殿
 ●音無太美子殿
 ●古寺修二殿
 ●近藤勇夫殿
 ●鈴木和栄殿
 ●田村 豊殿
 ●婦木一男殿
 ●青木 潤殿
 ●秋元多美子殿
 ●芦田重秋殿
 ●芦田 坦殿
 ●安達健一郎殿
 ●安達葉子殿
 ●足立源治殿
 ●足立 治殿
 ●足立順治殿
 ●足立 勝殿
 ●天野清子殿

六〇〇〇円
 六〇〇〇円
 六〇〇〇円
 五〇〇〇円
 五〇〇〇円
 五〇〇〇円
 五〇〇〇円
 五〇〇〇円
 五〇〇〇円
 五〇〇〇円
 五〇〇〇円
 四〇〇〇円
 四〇〇〇円
 四〇〇〇円
 四〇〇〇円
 四〇〇〇円
 四〇〇〇円
 四〇〇〇円
 四〇〇〇円
 四〇〇〇円
 四〇〇〇円

● 石田修三殿	四〇〇〇円
● 井田悦子殿	四〇〇〇円
● 伊藤まち子殿	四〇〇〇円
● 上田三四二殿	四〇〇〇円
● 上野重喜殿	四〇〇〇円
● 大石佐代子殿	四〇〇〇円
● 大木健次殿	四〇〇〇円
● 梶浦浩二郎殿	四〇〇〇円
● 可部美智子殿	四〇〇〇円
● 岸本眞輔殿	四〇〇〇円
● 木呂子恵美子殿	四〇〇〇円
● 小糸イキ殿	四〇〇〇円
● 小西 保殿	四〇〇〇円
● 佐伯盾比古殿	四〇〇〇円
● 笹倉良正殿	四〇〇〇円
● 澤田みさを殿	四〇〇〇円
● 篠原よね子殿	四〇〇〇円
● 志村勝郎殿	四〇〇〇円
● 瀬々妙子殿	四〇〇〇円
● 高見安亮殿	四〇〇〇円
● 谷垣 博殿	四〇〇〇円
● 田村克典殿	四〇〇〇円

● 千葉淳子殿	四〇〇〇円
● 出町京子殿	四〇〇〇円
● 田 健一殿	四〇〇〇円
● 中野正義殿	四〇〇〇円
● 西川宣孝殿	四〇〇〇円
● 原谷洋美殿	四〇〇〇円
● 広瀬靖典殿	四〇〇〇円
● 藤田かね殿	四〇〇〇円
● 藤田正雄殿	四〇〇〇円
● 藤原岩市殿	四〇〇〇円
● 安井三義殿	四〇〇〇円
● 保尾 明殿	四〇〇〇円
● 安原三智子殿	四〇〇〇円
● 山本博正殿	四〇〇〇円
● 久保田元子殿	三〇〇〇円
● 足立明子殿	二〇〇〇円
● 市原このゑ殿	二〇〇〇円
● 井上英人殿	二〇〇〇円
● 植木十和子殿	二〇〇〇円
● 小林剛殿	二〇〇〇円
● 坂上豊殿	二〇〇〇円
● 村上善英殿	二〇〇〇円

会員寄付者 一六九名

寄付金総額 一、九二三、〇〇〇円

● 来賓祝儀一四名一五八、〇〇〇円

(会場で抽選、その他)

● 小田富士夫氏贈(読売新聞社刊)

画集「日本の四季」……二冊

● 山本清士氏贈・子供靴下……一〇足

● 吉住重造氏贈・高級腕時計……一個

〃 トレーナー……一〇着

● 西山敬次郎氏贈

「小鼓酒」二合瓶……五〇本

● 渡辺紙工業株式会社贈

記念品用手提袋……三〇〇枚

右記各氏のご芳志に厚くお礼申し上げます。なお、祝舞にご出演いただいた西崎祥さん、若森敏郎氏、またコーラス団のご提供をいただいた岡田一男氏、その他のご協力者にもこの紙上で深く感謝申し上げます。

記念大会の福引き景品と記念品

特等	カラーテレビ	一本
一等	カメラ	二本
二等	山の芋ニクロ入り	五本
三等	丹波の黒豆・栗の蜂密煮	各五本
四等	あまご佃煮、丹波漬	各一〇本
五等	丹波黒豆煮袋入り	二〇本
会員寄贈特別賞四件	(35ページに記載)	三〇本
記念品	常岡文亀画伯・松茸画複製	参加者全員

八八周年記念大会のバックグラウンドミュージック

の箏曲「丹波の町からこんにちわ」について

大岡 照子 (柏原町)

氷上郡の六か町には、それぞれ個性のある美しい音頭、小唄の旋律があります。そのメロディーを箏曲に乗せて、リズムを生かしてみたい……。箏の二重奏、一七絃の低音、尺八の音色、で味わいのある異った楽しい旋律を生みだしたいと思い、手がけることにしました。まず、各町の関係者に協力していただき、

レコード、五線譜、録音テープ等を取り寄せて、採譜、箏譜に直して、私の師である関西邦楽アカデミー講師で作曲家の前田和男先生に編曲を依頼し、私も勉強させていただきました。こうして昭和五十六年十一月二十九日「丹波六つの町からこんにちわ」として、市島音頭、青垣音頭、柏原小唄、氷上町音頭、山南音頭の順に(調絃の都合でこの順になりました)演奏し、おかげさまで好評でした。弾いていても楽しいです。なお昨秋、多紀、氷上納税協会三〇周年記念式典の節、祝儀曲として演奏するに当り、ぜひ「でかんしょ節」も加えてほしいという希望があり、「丹波六つの町から」に「でかんしょ節」も加えて合奏することになりました。題名も、氷上、多紀をあわせて、「丹波の町からこんにちわ」にしては、ということになったのです。

「丹波六つの町からこんにちわ」||新箏社創立三〇周年記念演奏会のための作品

*

新箏社主宰、箏・三絃教授 大岡照子略歴

昭和二二年 新箏社創立

毎年秋に定期演奏会開催、昨年で第三三回米国ワシントン州ケント市(柏原町と姉妹都市)をはじめ、同州各地、ハワイ等へ親善演奏旅行、女子留學生に教授、中国上海市で公演
昭和五九年度、神戸市芸術文化団体「半どんの会文化賞」の今年度県民感謝賞受賞(十二月) 註・略歴は本人自筆のまま。

大任を果たして

若森 敏郎（山南町）

本誌第一五号に投稿したのが縁で、関東水上郷友会八八周年記念大会に尺八を演奏するはめになった。西崎祥さんの舞踊の地方（じかた）を務めるという大役である。

初め西崎さんから話があった時には無分別にお引き受けはしたものの、よくよく考えてみるに相手様は踊りの専門家であり、その方の地方を務めるということは、素人の尺八吹きにとつてはまさにおおごとではあった。

しかし記念大会に会員が出演するところに意義がある。ここは一番、ベストを尽して務めようと決心した。

曲目は西川さんの指定で「千鳥の曲」と決まった。郷友会の米寿を祝うのにふさわしく、またなによりも多くの人に親しまれてきた曲である。

箏の地方については、ここ数年来指導して頂いている藤崎哲矢さんが多忙のために、都山流尺八の演奏と作譜の大家である鈴木健一郎（朋山）さんに相談することにした。鈴木さんは医者で、大宮市で病院を経営されている。ご本人は「尺八楽部、尺八楽科」出身と自称されるほどの名手で、わが国の邦楽界周

知の方である。鈴木さんのご配慮により、埼玉県の三曲界の重鎮である山田流箏曲の演奏家、神田都美井先生に出演を願い、幸いにして快諾して頂いた。

一般に山田流と生田流では、演奏に微妙な差異があり、尺八奏者もその差異を十分に心得て合奏することが肝要である。

幸いに鈴木さんは神田先生とは長年共演されており、山田流「千鳥の曲」との合奏用尺八譜も公刊しておられる。従って鈴木譜で神田先生と合奏する場合は尺八奏法に何の不安もなく全く幸運であった。

しかし、合奏練習は双方の都合で容易にできないまま九月下旬になった。

最初の練習には鈴木さんに神田邸にご足労願って指導を受けると共に、両先生の合奏をテープに収めた。このテープを繰り返して聴いて緩急強弱をつかみ、間を会得できた。

神田邸へも三度参上して相對のけいこをして頂いた。また、テープのコピーを西崎さんに送って聴いて頂くと共に東京の教授所に参上して、私の演奏で本番の予行をお願いした。かくて十月末になってなお一抹の不安は残っているものの、私なりに自信がついてきた。

演奏会場の下見は大会の前々日に済ませた。なにぶんにも特設舞台であるから、演者には不便は免れない。西崎さんには申訳ないが、箏は立奏台を用意してもらうことにした。

八八周年大会の裏方たち

渡辺 隆男 (氷上町)

当日は十時に控室に入って気分を整えると共に、最後の練習をして竹を湿した。神田先生にも十一時に来てもらい、装束を着け終った西崎さんと打合わせて頂いた。私にとって誠に力強かったのは、鈴木さんが当番医を交代して応援に駆けつけて下さったことであつた。

式次第は滞りなく進行し、いよいよ私達の出番を迎えた。西崎さんの舞踊、神田先生の箏の演奏の妨げにならないことを念じつつ、一管に生命を吹き込むつもりで演奏した。幸いにもあまり両所に負担をかけないで、全曲を終了し得たように思つた。舞台を降りて伴仲会長から賜った握手により初めて光榮ある任務を果し終えたという実感が湧き上るのを感じた。

今、振り返ってみると、私としてはまずまずの演奏ができ、地方の任が果たしたのは、西川祥、神田都美井、鈴木朋山の三先生の温かい励ましとご親切な指導のたまものであると同時に、郷友会会員各位の絶大なご支援によるものと思ひ、改めて深謝の意を表します。

なお、昨年五月ごろ、拙文を読んで頂いた会員から電話を頂きましたが、仕事に追われていてお名前の確認もせずに失礼致しました。当時にこの出演の話が出ていましたならば早速に箏の出演をお願いできたものをと残念でした。話があつて後、名簿で心あたりを探しましたが見付からずに失礼してしまいました。電話を頂いた方に心からおわび致します。

伴仲会長から「八八周年を記念して何か郷友会の歴史に残るような行事を考えたい」との提案があつたのは、たしか一昨年秋のことだつた。昨年二月九日の理事会では「郷友が多数相つどうことにこそ意義がある、この際全会員に呼びかけて数百名の大集会を実現したい」という会長案が決定し、その後、左記一〇名の実行委員が指名、組織された。

八八周年記念大会・実行委員長 村上末吉、同実行委員 足立和巳、足立かをる、足立正、小田富士夫、坂上勝朗、西崎祥、宮野近、吉住重造、渡辺隆男

伴仲会長を含む一〇名の実行委員会は、直ちに活動を開始、四月九日に第一回会議を行い、以後毎月額を集めて対策を練り、大会の直前まで文字どおり東奔西走した。

会場は九段会館に決定、西崎さんに祝舞を踊ってもらおう。尺八は若森さん。岡田さんとのコーラス嬢にも出演してもらおう。宴会のバックミュージックは丹波の民謡がいい。山ざる誌は第一号から並べよう。常岡画伯の表紙画も展示したい。郷里の風光をパネル展示できないものか。栗、松茸、キリ芋、大

納言小豆など郷里の物産の即売会もやりたい。福引きを盛大にやって後半を盛り上げよう、となると司会はやはりプロに限る。おみやげに松茸はむりだろうから栗にしよう。等々アイデア・企画が次々に出て夢がふくらむ。

とはいえ、それらを一つ一つ実現するのは容易ではない。村上実行委員長は気が重かった。第一、何人集まってくれるだろうか、一二〇〜三〇人が限度ではないか。第二に、資金源はどうするか、郷友会の資金は乏しい。そこでは会計担当の足立和巳さんも気が気ではない。予算を組んではみたものの、取らぬ狸。肝心要は、何人集まってくれるか、いくら寄付金が集まるかだ。それがようとしてつかめない。

しかし会議はいつも前向きだった。会長の「郷友会の歴史に残る大会にしたい」という切なる願望を、何としても実現したい。各実行委員は進んで仕事を分担し、持前の丹波のねばりを発揮した。

伴仲会長は再度郷里に出かけて各町長の招聘、物産展の交渉。宮野さんもまた郷里に走って民謡、パネル展等々の交渉のほか坂上さんと組んで会場の設営。坂上さんは会場、司会者の交渉のほか発起人のリストアップ、通信事務の一切、さては当日の名札から司会のシナリオまでつくった。会員への通知や寄付金依頼文等の起稿、印刷等は私が担当し、福引きプランを吉住さん、出しものを西崎さん、女性会員に出席の根回しを足立かを

るさん、当日総会の司会と大会記録を小田さん、そしていざというときの資金集め（ついに出版がなかったが）に足立正さんといった分担で進めたが、企画や進行等については全員の文珠の知恵が結晶した。

おみやげに考えた松茸は今年も出が極めて悪いし、栗は虫がついてもたないという。何にしようかと迷ったあげく、私が文亀さんの松茸画（山ざる3号の表紙画）を思い出した。この松茸なら何年でも持つというわけで、私が日頃開発した複製技術を使ってつくらせた。お持ち帰りいただいた色紙がそれである。この複製画は本物の絵と全く見分けがつかないほど精巧な出来、どうか額に入れてとくと鑑賞されたい。念のため。

かくして十月、実行委員会は大詰めを迎えた。そんな矢先に村上実行委員長は腰を痛めて入院、それにもめげず委員たちはそれぞれの連絡網を使って出席を八方に勧誘した。

二〇〇人を超えそうだが、続々と寄付が集まっている。さすが丹波の友垣、よかった。大会当日、郷友会には必ず出席する愛郷の士・西川老がいち早く現れた。「どうかね」「二四〇人ほど集まります」「ホー／＼生けつとてよかったナー」と。

裏方のみなさん、ご苦労さまでした。この大会はまちがいない郷友会の歴史に残りましょう。語りぐさともなるでしょう。ご寄付をいただいたみなさま、有難うございました。みなさまの温い郷土愛のある限り、郷友会は永遠です。

氷上郷友会創立のころ

大阪の丹但人社、余田貞雄氏が、「氷上郷友会々報」第二号から第七号までを送って下さった。当会創立時からの貴重な資料である。当会は昨年十一月創立八八周年記念大会を開催したが、創立時から五〇年位の歴史が、今まで資料不足のためあいまいであった。このたび、余田氏より送られて来た資料はその内最も貴重な創立時以降初期の記録であり、これで当会の歴史の初期の部分が明らかになる。会報第一号は明治三四年に発行されたものと思われるが、残念ながらそれは無い。第二号以下は次の年順に発行されている。

- 第二号 明治三五年五月
- 第三号 明治三五年十二月
- 第四号 明治三六年十二月
- 第五号 明治四〇年十二月
- 第六号 明治四四年十二月
- 第七号 大正一〇年十二月

第二号

明治三五年四月二〇日、柏原町崇広小学校に於て、氷上郷友

会の創立総会が開催された。創立総会に於る田健治郎氏の挨拶には、会の創始は明治二八、九年ごろとある。当時東京帝国大学の学生、安藤広太郎（後農学博士）、田昌（後大蔵次官）氏らによって結成「春秋二季郷友一所ニ相会シ相互ニ親睦ヲ重ネ情意相通スルヲ目的トセシニ過キサリシ云云」。この前年、明治三四年二月、会則を改め、組織作りのため、臨時委員を置き、田健治郎氏（衆議院議員）を委員長に推し、中川一郎（農商務省山林局）安藤広太郎（農事試験場技士農学士）田辺勉吉（住友銀行京都支店員法学士）足立泰治（東京高等工業学校助教）田昌（帝大学生）五氏を委員とした。同年十月大阪氷上郷友会を合併して氷上郷友会大阪支部と名称を改めた。会の目的を親睦のみに止めず、主に育英事業に積極的に向かわんとしたものである。総会に於て決せられた会の組織とその重要な役員は左記の通りである。

会長 子爵 織田信親（宮内省主獵官）

副会長 田健治郎

大阪支部 支部長 田 艇吉（住友倉庫支配人）

京都支部 支部長 津田 要（公証人）

神戸支部 支部長 野添宗三（弁護士）

氷上支部 支部長 穴戸秀策（氷上郡長）

東京ではその年、三五年五月一七日、上野公園無極亭に於て第一四回大会を開催。参加者二九名。春秋二回の会合を重ね、

三五年春が第一四回となると、第一回は明治二八年秋となる筈だが、別稿「氷上支部設立を祝う」文書中には、創始の会合として、明治二九年十一月、東京神田青柳亭に於てなされたと明記されてある。第一号が現存すればその辺の消息はあるいはもつとはつきりするのかも知れない。会員については、普通会员Ⅱ一時金、五円、年会費、五〇銭。学生は会費不要。名誉会員Ⅱ一時金一五〇円以上或は一〇年間に三〇〇円以上寄贈の者。特別会員Ⅱ一時金二五円以上或は一〇年間に五〇円以上寄贈の者。別に基本金規定があり、これが即ち育英資金である。募金目標を約一万円としている。三五年五月一日、柏原中学校第一回卒業生より三名、東京開成中学校卒業生一名に、学事奨励のためとして「チャンバー氏英語辞書」を贈っている。会員名簿をみると、現在当会最高齢者、百三歳の中川四郎さんの名がある。東京商船学校航海科学生である。尚、会員数は左の通り。

東京	八三名
大阪	四八名
京都	二一名
神戸	六四名（御影師範学生二一名を含む）
氷上	一〇一名
地方	二九名
合計	三四六名
第三号	三五年十一月二二日、第一五回大会開催。（会場は

前回と同じ）参加者二〇名。基本金募集状況の報告があり、寄贈承諾額、一〇六四五円。払込額、一六〇一円五〇銭。大阪支部会員名簿に、前々会長、石橋治郎八氏の名がみられる。大阪私立商業学校学生である。

第四号 三六年五月一日、第一六回大会開催。（会場は前回と同じ）参加者二二名。名簿に京都女子氷上郷友会三三名が加わっている。東京では、石橋会長の時、会計理事をされていた梅垣作太郎さんの名がみえる。東京郵便電信学校学生である。第五号 四〇年まで発行がとんでいるのは、三七、八年戦後（日露戦争）の故である。この年、田健治郎氏男爵を授かり華族に列せられた。五月五日第一九回例会。三〇名。

会場は、田健治郎副会長の玉川村の別邸に於て、園遊会を催した。

十一月第二〇回例会、上野無極亭。二九名。

この号には特に会計報告が詳細になされている。その中から東京本部の各年末に於る資産をみると左の通りである。

明治三四年	一六六円一七銭
明治三五年	六二五円八〇銭
明治三六年	八九一円六五銭
明治三七年	一〇九四円三四銭六里
明治三八年	一一五一円三六銭一里
明治三九年	一一九七円五八銭一里

明治四〇年 一二〇七円九九銭六里

会員名簿に、芦田均（帝大法科学生）元首相

植木孝之助（東京高師学生）柏原中学十高校校長

植木憲吉（水産講習所生徒）日本水産社長

等がみられる。

第六号 四四年十二月三日第二一回例会を玉川村田副会長別邸で開催。四〇名。

年末資産残高 一五〇七円五六銭八里

会員名簿に、石橋会長当時副会長であった大槻喬さんの名がみえる。東京高等工業学校学生とある。

第七号 大正一〇年十一月二七日、年度例会開催。会場、玉

川村田副会長別邸。参加者八〇名と多数になっている。この例

会では、会則の改正と役員の改選があった。会長が織田子爵か

ら田男爵に引きつがれたのである。副会長制は無い。年会費が

二円、となっている。名誉会員、特別会員も無くなり、会則全

体が簡素化されているのが目立つ。会員名簿に、昨年十月亡く

なられた堀川万次さんの名がみえる。現会員では、梶浦浩二郎、

後藤豊次、足立順治の三氏の名がみえる。皆さん学生である。

年末資産残高、二二四七円三銭

その後、昭和一一年元旦に発行した「氷上郷友会会報」の一

冊が伴仲会長の手元にあった。それによると、昭和五年に没し

た田健治郎氏の会長席は空白のままで「本会は今や建て直しの

時期に直面している」とある。

昭和九年一月二七日、神田学士会館に於て年度大会を開く。

出席者三四人。なかに小谷正雄氏、松山幸逸氏の名がある。

昭和一〇年一〇月二二日、九段軍人会館に於て年度大会。出

席者五三名。なかに有田喜一氏の名が登場する。なおこの大会

は氷上郷友会と柏中会の聯合会となっていて、有田氏ほか柏中

会からの出席が半数を占めている。

昭和一〇年度基金合計 二五六八円五〇銭

*

*

以上が今回入手した、会創立当時から昭和一〇年までの会の

記録の抜き書である。大阪から送られて来たのが三月一日、「山

ざる」一六号に原稿を間に合わすにはいささか時間が短い。本

来ならば、編集委員全員で内容を検討し、会の歴史としての整

理をしてから掲載すべきものであるが、年一回しか出さない「山

ざる」である。一六号に掲載出来なければ、次は一年先となる。

折角八八周年記念大会の報告を特集としている今号に是非共間

に合わせたい。こんな思いで抜き書きをつづりました。読みづ

らい点多々あると思いますがご諒承下さい。余田貞雄氏の送り

状によると、大正一一年からは大阪支部が関西支部となり、別

の独立会報を出していて、東京本部の会報は第七号が最後だと

のこと。東京のどこかに誰かの家に第八号からの会報が保存さ

れているのではないか。新しい資料の出現は歴代会長の就任時

期や、いつから関東氷上郷友会と称されるようになったのか、などのまだ不明の事実を明らかにしてくれる筈です。

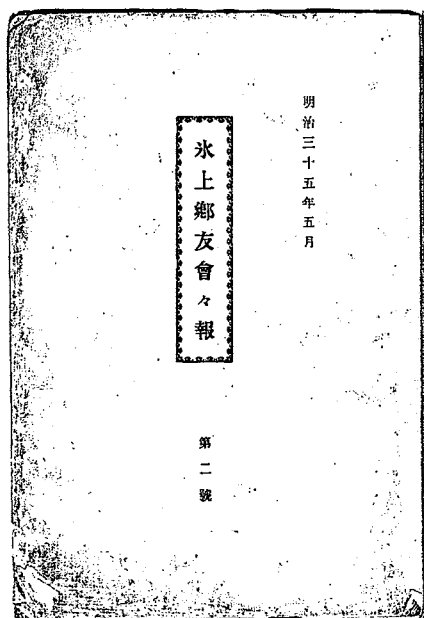
会員の皆様で古い記録をお持ちの方は資料をお持ち寄り頂き、歴史の空白をうめることにご協力下さい。（足立 正記）

* 「関東氷上郷友会」と改称されたのは戦後でしようか。

織田信大氏、安藤広太郎氏の各会長就任時は昭和何年か、昭和一〇年代の事情をご存知の方はぜひおしらせ下さい。

* 以下、前記の資料をもとに、氷上郷友会の沿革を箇条がきに整理してみました。（渡辺隆男記）

明治三十五年五月刊・氷上郷友会々報・第二号



関東氷上郷友会の沿革

明治二九年十一月 「東京氷上郷友会」発足。東京神田の青柳

亭に東京帝国大学学生・安藤広太郎、田昌氏らが会合して結成。春秋二季、在京者相互に連絡して相会し、親睦を厚くして情意相通ずることを目的とした。

その後会を重ねる毎に会員漸増し、発起の趣旨も逐次意慾的に展開する。「この会を郷里と連携し、育英の方法を確立し、将来の人物を養成し、郡人聚楽の設備を整え、政争を緩和にし、彼我の壅塞を啓き、里仁の美風を助長せしめ、我郡の進歩を助け、福祉を増進せんことを期せり」と、気宇壮大ではあったが、「然れどもかくの如きは容易の業にあらざるなり。此を以て歳月を期し徐ろに時期を待てり。

爾来三、四年、微々不振経営すこぶる惨憺なり。幸に会員不撓の忍耐と熱心は唯に本会の命脈をつなぐのみならず、本会の精神を発揮するに到り、漸く先輩の諸士の注意をひき、次で郷里有志の賛同扶翼する所となり、在郡外有志の協賛となり、初めて本会拡張の時運到来せり、云々（芦田哲造氏記）」とある。

明治三〇年四月 兵庫県立柏原尋常中学校創立

明治三四年二月 「氷上郷友会」と改称、その組織を変更して東京本部とし、大阪郷友会を合併して大阪支部、ついで京都、神戸にも支部を創設した。

東京本部会長・織田信親子爵、副会長・田健治郎氏のほか評議員、幹事に田辺輝実、林策一郎、松元剛吉、安藤広太郎、中川一郎、足立泰治、田辺輝雄、田昌、片山貫三郎氏らの名が列記されている。

大阪支部・支部長・田艇吉氏、京都支部長・津田要氏、神戸支部長・野添宗三氏

明治三五年四月 旧制柏原高等女学校発足

明治三五年四月二〇日 柏原崇広小学校において氷上郷友会の創立総会を開催。

東京本部委員長・田健治郎氏は帰郷の途次、大阪に田艇吉、小島友吉、芦田哲造、山本保次、田辺勉吉、野添宗三、三崎省三諸氏と田艇吉氏邸に会合して協議した後柏原に帰着、宍戸秀策、山下銀四郎氏に協議して同月二〇日の郷友会発起大会の準備を進め、郡内の有志者九八名にも参会を要請した。

四月二〇日の創立総会は、崇広小学校講堂に、東京から田健治郎、京都から津田要、田辺勉吉、本庄忠治、大阪から田艇吉、芦田哲造、山本保次、神戸から野添宗三の各氏が

来会し、本郡からは宍戸秀策、山下銀四郎氏ら三五名が参会した。当日、田健治郎氏は、東京学生の間には郷友会が発足し、請われて学生以外の郷友も参加したいきさつを説明、他府県では郷土出身学徒の奨学育英のために巨万の資本を投じていること、我々も他府県に負けず大いに育英の途を拓きたい旨を切々と説き、郷土にも氷上郷友会の設立を強く要望した。

氷上郷友会氷上支部設立。支部長・宍戸秀策氏に決定。

五月二〇日現在、郷友会基本金寄贈承諾金額

東京本部 四、二一〇円

大阪支部 一、六三五円

京都支部 三二〇円

神戸支部 七五〇円

氷上支部 二、三六〇円

総計 九、二七五円

明治三五年五月一七日 東京本部第一四回大会を上野公園無極亭に開く。尋常中学校優等卒業者に賞状並びに賞品を贈る。

明治三五年一月二二日 本部第一五回大会を無極亭で開催。

明治三六年五月一日 第一六回大会を無極亭で開催。その後

四〇年までは日露戦役の影響を受けて、例会も少い。

明治四〇年五月五日 田健治郎氏の玉川別邸で第一九回例会を開催。

明治四〇年一月 上野無極亭で第二〇回例会を開催。

明治四四年十二月三日 田健治郎氏玉川別邸で第二一回例会を開催。

大正一〇年一月二七日 大正三年以来初の年度例会を田氏玉

川別邸に開く。田健治郎氏、織田信親子爵から水上郷友会々長を引きつぎ、第二代会長に就任。会則を改正。

昭和五年 田健治郎氏歿。その後昭和一〇年に至っても会長は空席のままとなっている。

昭和六年 松柏会東京支部発足。毎年一回会合したが、第二次世界大戦中は中断。

昭和九年一月二七日 学士会館で昭和九年度大会を開催。

昭和一〇年一〇月二二日 九段軍人会館において氷上郷友会と柏中会の聯合大会を開催。(既存の柏中会の創設は不詳)

なおこの年、近畿の郷友会は既に東京本部を見捨てて独立躍前せり、云々と記されている。

昭和〇〇年 織田信大子爵、第三代会長に就任。

昭和〇〇年 安藤広太郎氏、第四代会長に就任。

第二次世界大戦中は中断。

昭和二八年一月二八日 戦後第一回の氷上郷友会を新橋駅の日本食堂で開催。来会者一〇〇余名。

石橋治郎八氏、第五代会長に就任。以後春秋二回の例会を再開し今日に至る。

昭和三〇年 柏陵同窓会東京支部発足。松柏会東京支部再開。

昭和四一年 会誌「山ざる」第一号創刊。

昭和四三年 関東氷上郷友会々員名簿創刊。

昭和四五年 会誌「山ざる」第二号発行。

昭和四六年 石橋治郎八氏歿。足立三治氏、第六代会長に就任。

昭和四七年 会誌「山ざる」第三号発行。以後毎年春に発行して現在に至る。

昭和五一年 郷友の満八〇歳の長寿を祝う「祝寿会」発足。以後毎年秋の総会で開催。

昭和五六年一月 足立三治氏、会長を引退。伴仲信次氏、第七代会長に就任。

昭和五七年一〇月 松柏会東京支部を解散して柏陵同窓会東京支部に合併。

昭和五九年一月一日 関東氷上郷友会八八周年記念大会を九段会館において開く。参加者二五〇余名。

(渡辺隆男記)

関東氷上郷友会会則

(名称)

第一条 本会は関東氷上郷友会と称する。

(目的)

第二条 本会は会員相互の親睦を図り、併せて郷土の発展に資することを目的とする。

(会員)

第三条 本会は氷上郡出身者及び縁故者を会員とする。

(役員)

第四条 本会に左の役員をおく。

名誉会長	一名	常任理事	若干名
顧問	若干名	理事	若干名内二名会計担当
会長	一名	監事	二名
副会長	若干名		

(役員の任務)

第五条 会長は本会を代表し会務を統轄する。副会長は会長を補佐し、会長事故あるときは副会長の互選により一名がこれに当る。常任理事及び理事は会務を執行する。監事は会務及び会計を監査する。顧問は会長の諮問に応じ本会の発展を促

進する。

(役員を選出)

第六条 会員及び役員は総会において選出する。

顧問は理事会の推薦により委嘱する。

(役員任期)

第七条 役員任期は二年とし、重任を妨げない。

(役員報酬)

第八条 本会の役員は総て名誉職とする。

第九条 会議は総会と理事会に分ける。

総会は毎年一回一一月に開き必要に応じ臨時総会を開催す。理事会は会長、副会長、常任理事及び理事を以て構成し、必要に応じ会長が招集して開催する。

(会費)

第一〇条 本会の会費は年額一〇〇〇円とする。

別に必要に応じ理事会の決定による額を徴集することができる。

(寄附金)

第一一条 寄附金は理事会の承認により受納する。

(会計報告、会則の改正)

第二二条 本会の会計年度は毎年一〇月一日より翌年九月三〇日迄とし、会計報告は一一月の総会において行なう。

本会則の改正は総会の議を経て決定する。



ふるさと紀行

常岡 幹彦（柏原）

①青垣町檜倉の高源寺

数年前の正月早々、毎日四時起きで夜明け前の高源寺に通った。

或る日、まだ暗い本堂前の急な石段の下に佇んでいた時、凍るような残月をうけて、石段の上面が闇の中をいぶし銀のようにかすかに光った。暫くして、そのまま曙光につながっていった。

何ともいいようなない底知れぬものを感じて、見呆けているだけであったが、私の忘れえぬ風景として心に残った。

一期一会。その折々一瞬の大自然の演出は、人智の及ぶところではなく、天から与えられるものとありがたく思う。現実を超えた世界を教示される思いであった。

——素描は高源寺楼門を望む——

高源寺縁起

高源寺は正中二年（一三二五）に遠谿祖雄の開創。天正年間（一五七三）の兵火に寺坊のすべてを失ない、寛政十一年（一七九九）弘巖和尚により再中興され、現在に至る名刹である。

上田三四二氏

小説「惜身命」で文部大臣賞

上田三四二氏は大正一二年、小野市生まれ。柏原中学校、京大医学部卒。医師のかたわら短歌の道に入り、宮中歌会始の選者もつとめた。歌集に「黙契」、「湧井」（釈超空賞）があり、文芸評論に「島木赤彦―人と作品―」、「斎藤茂吉論」（群像新人賞）、「眩暈を鎮めるもの」（亀井勝一郎賞）、「俗と無常・徒然草の世界」、「うつしみ」（平林たい子賞）、「深んど」などがあり、旺盛な文筆活動をつづけて名高い。

昨年は自伝的小説「夏行冬曆^{かきこうとうれき}」を河出書房新社から出版、九月には「新潮」に連載した五篇をまとめ、「この世・この生―西行・良寛・明恵・道元―」を新潮社から出版して読売文学賞を受賞、つづいて十月には「文学界」と「海」に短篇で掲載した一連の自伝的作品八篇をまとめ、「惜身命^{しやしんみこと}」を文芸春秋社より出版、当書で上田氏は今春「文部大臣賞」を受賞した。

「この世・この生」について山本健吉氏の書評を引用しよう。

上田三四二氏がこの書を書いたとき、間違いなく氏は、この世への遺言のつもりであった。氏は昭和四一年に癌研で一度観念の手術を受け、幸いにも成功して、その後の生を「たまもの」として自覚するようになったという。その後の氏の思索と創作

は、その時の体験から離れず、何時も人間の生死を、人間の第一の主題として中心に据えていた。その後二〇年近くを経て二度目の手術を受けねばならなくなり、いよいよ氏は絶体絶命の淵に立って、死について、さらにまた「死のむこう側の死」について、せかされるような思いで、自分のぎりぎりの思索を述べようとする。

このようなエッセイは、主題として選ばれた西行・良寛・明恵などの客観像を結ぶよりも、自分の死生観をそれら隠遁者たちの生き方に即した、自然の文学として輝きを發揮する。「花月西行」「遊戲良寛」「顕夢明恵」などと題された諸篇は、彼等が歌よみでもあったことと相まって、歌人三四二の永年の伴侶であり、それだけに氏の言々肺腑にしみる響きを持つ。

「西行を地上一寸とすれば明恵は地上一尺である。良寛の足は地についている」このズバリと言つてのけた論断はさわやかだ。そして彼等によつて、これまで「後生抜き」であつた兼好と共に地にほくする思想にとらわれていた氏は、死後の無は否定できないながら、生きたという事実が光芒を曳いて、無の上に懸かっているものと知る。この美しい自照の文字は、その独断を救済として、再出発の起点となるだろう。

以上、山本健吉氏の評するとおり、上田氏の死生観は「惜身命」にも一貫して流れている。医師の目と歌人の心とで、生と死の境界に投影する人々の内なる光芒を描いて美しい。（玄二）

日本女性の鑑「田捨女」

— ゆかりの地訪問記 —

宮野 近 (柏原)

ある日、柏原に住む兄が、氷上郡誌や柏原町誌など、田捨女に関する資料を送ってきた。それによると、捨女の御殿跡は筆者の実家の近くであったことがわかった。「燈台もと暗し」とはこのことで、急に捨女に親近感を覚え、彼女のことを知りたくなった。正月休暇を利用して、京都の妙心寺、姫路の不徹寺および竜門寺、柏原町本町の天箇山西樂寺（田一族の菩提寺）、高谷、屋敷、小倉など捨女ゆかりの地を訪問した。

田捨女は、日本女性の最も美しい面を持ち続けて生きた「丹波の女」である。

捨女は一六三二年（寛永一〇年）丹波柏原の本町に生まれている。六歳の時、あの有名な「雪の朝 二の字二の字の 下駄の跡」の句を詠む。一九歳で季成と婚姻し、五男一女をもうける。四一歳で寡婦となり、落飾して妙融と号した。子の長ずるに及んで自ら京に出て庵を結び仏道・歌道・俳諧を修学、この時期までは浄土宗。五一歳の時、播州の盤珪国師の弟子となり、禪宗に改宗、名も貞閑と改む。六〇歳で「不徹寺」を落慶。六

六歳にて示寂した。以上が簡単ではあるが彼女の略歴である。

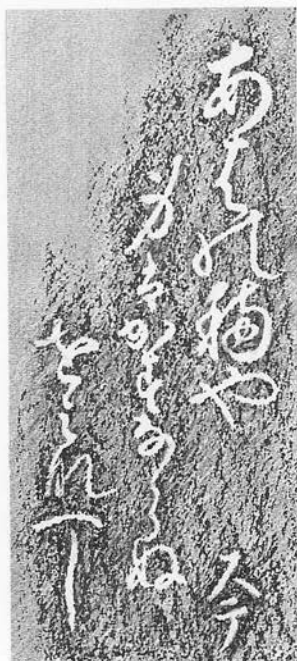
捨女は、二代目田助右衛門季繁（織田上野介に仕え、土籍に列し民事を督す）の長女である。季繁はステをこよなく愛した。ステが三歳の時、母は三八歳の若さで亡くなっている。従って幼いときより父と近所に住む尼僧に育てられている。可愛く利発であったステは周囲の寵愛と躰を一身に受けて育った。だからこそ六歳で名句「雪の朝…」が詠めたものと思われる。

岡本文夫氏の「丹波歴史のみち」によれば「ある冬の朝おかつば頭に肩縫いをした着物、ひぢりめんの帯、黒いつぶらな瞳、そんなステは門先に立って雪道を行く人を興味深げに眺めていた。ステはツボミのような唇を開いて先の句をつぶやいた」といわれる。そのあどけない少女像は柏原崇広小学校の校庭にある。初代磯尾柏里氏の作である。

私にはその像に格別の想い出がある。中学生の頃、新聞配達をしていた。古市場↓下町↓沖田↓本町と配って歩くのだが、本町の柏里氏のお宅あたりで漸く夜が白んでくる。濃い霧の中で誰かがさかんに石を刻んでいる。いったい何を作っているのだろう。先方も無言、当方も無言の毎日が続いた。ついに、特別に寒い冬の朝、顔中に汗がふき出ている柏里氏に声をかけてみた。「おじさん、それはいったい何ができるんや」と、「今に見とんなはれ、解りませ」と一言。あとは何事もなかったかのように無念無想の境地の手さばき、まさに名工の所作とはあ



あはの穂や身はかずならぬをみなへし ステ



のようなことを言うのであろう。校庭にあるその像は、見るものをして名工の息づかいを感じさせずにはおかない。

一〇歳で「酒一升 九月九日 使い菊」という句が詠める程のあたたかい思いやりのある少女に成長している。先の岡本氏によれば『ある日親戚の酒屋に遊びに行ったステは、帳場に座り「はい、ありがとうございます。」と大福帳に書くまねをして遊んでいた。ちょうどその時、近所のお菊さんが酒を買いに来た。大福帳に落書きしたこの秀句に酒屋主人は舌を巻いて驚いた』という。

一七歳の時、ある高貴な人に「かやはらに惜しや捨ておく露の玉」と誉められたのに対して「粟の穂や 身は数ならぬ女郎花」と謙虚な返歌を送っている。謙讓の美德の備わった捨て女の面目躍如たるものがある。この句から「清楚な丹波の女」の芳香を感じさせる秀句である。

私が崇広幼稚園児であった時、捨て女の末裔にあたる田貞江先生が担任であった。「アーンしてごらんないさい。肝油をあげましょうね」と言ってくれるあの笑顔の先生が大好きだった。背が高く歌唱好きで美人の先生だった。その声は鈴虫の音よりも美しかった。捨て女もおそらくあの先生のように心やさしい天才の超美人であったと思うのだが…。

季成の妻となり幸福な日々が続いた。けれども、四一歳で愛する夫と死別し人生の転機を迎えた。その心境は「草よ木よ



松寿山不徹寺の境内。正面は庫裡。右に座禪堂と地藏尊がある。

汝に示す今朝の露」「いまはさは いずれの雲にまじるらん 玉のいくえを知るよしもがな」「露の身の 消えぬも悲し諸共に 枯れゆく萩ぞ羨まれける」……といった句や歌によくあらわれている。

亡夫のために高谷の観音堂にこもり、千日間も回向をたむけたという。現在、人々はこの地を千日寺跡という。捨女をして智・徳・仁を植えしめたのはいったい誰だったのだろう。それは母がわりとなった高谷の尼僧ではなからうか。彼女は捨女を目に入れても痛くない程愛し、その教育に全身全霊をささげたという。今、目の前には尼僧の墓がひっそりとあるのみで千日寺はすでにない。「合掌」。願わくば捨女のような女性にこそ、みとられて逝きたい……と。捨女の心の美しさ、やさしさに想いを馳せながら、日暮れまで高谷公園にたたずみ、その面影をしのんだことであつた。猛そう竹の林だけが何事もなげに風に揺れていた。

その後、捨女は京都に出て写経と歌道に専念したという。妙心寺辺りを散策したが、おそらく紫式部が源氏物語を書きあげたような情熱を燃やしていたのであろう。

そんなある日、盤珪和尚の法話に接し、感動し改宗した。彼女の心を生涯とらえて離さなかった盤珪和尚とはどんな人物であつたろう。彼は「不生論」を説いたといわれる。即ち、「不生」とは「生まれながらの汚れなき心で万事に対処せよ」とい

うことらしい。

そこで私は姫路の竜門寺を訪ねることにした。竜門寺は京都の妙心寺と同様堂々たる寺院でそのたたずまいに圧倒されそうである。おそらく盤珪和尚は来訪者を一瞥しただけで全人格を



見ぬく眼力と仁徳を兼ね備えていた人であろう。境内墓所の奥まった大きな菩提樹の下に捨女は静かに眠っていた。墓碑には「不徹庵主嶺雲貞閑尼首座」とある「合掌」。写真向って右。

さらに、捨女が建立した「松寿山不徹寺」に足をのばす。東京・池上の曹禅寺に似た立派な禅寺である。宝篋塔（分骨塔）、座禅堂、大乗妙曲（地藏尊）などを拝観した。酒井大老の娘で京極高豊（丸亀城主）の妻女「松寿院」がこの寺に天神様を寄進したので「松寿山」というのだそうである。座禅堂の古ぼけたゴザに、全国から尼僧達が捨女の徳を慕って集い修行する姿を思い浮べると、襟をたださざるを得なかった。実に八〇数人の尼僧集団であったと聞く。多くの尼僧の墓石を見るにつけ、またしても「合掌」。

加賀千代と同時代に生きた捨女は、元禄の四俳女といわれ、歌仙であり導師でもある丹波が生んだ天才であった。願わくば娘も彼女のような美しい心の持ち主として成長して欲しい……
捨女よ！安らかに眠り給えかし。
（二九八五年一月）

ステ女発句

（元日）万歳のかめにささばや花の春

（鶯）紅梅にふかくしめてや匂ひ鳥

（桜）花をやるやさくらも夢のうき世もの

（郭公）なかぬ夜は枚をふくむか時鳥

雨は母、やしなふ花のちゝたがひ
 花の顔やわれもゑまるゝ児桜ちこくら
 花のあとは鶯笛もあを葉哉
 ぬれ色や雨のしたてる姫つゝじ



貞閑尼坐像・磯尾柏里作

水鏡見てや、まゆかく川柳
 春雨はあい染だすやなぎ色
 撫子の露の玉もやるりの君

春を夏に引のばしてやさがり藤
 なかせたや五月雨のふるほとゝぎす
 むらさめの夕はあやし恋し鳥

雲路にもちかみちあるや夏の月
 くる秋の、きりぎはみする一葉哉
 月や見るきぬはたの音のぬけ拍子
 紅葉ばにたはるゝ鹿や色ごのみ
 松茸はたゞ一秋を千とせ哉

けさみれば花ぞさくやの木々の雪
 姫松のかたびら雪やだてうすぎ
 岩かどもむつくりとなるや雪の綿
 ふるはうし雪にあとつく雨のあし
 夕霧や落葉衣をかさねづま

花は世のためしにさくや一さがり
 なけやなけやいまはいつなんほとゝぎす
 月や雲にいよげに見えつすだれごし
 夜明には露まで月のわかれ哉

* 捨女はまた和歌もよくし、文も書もみごとである。春秋社
 刊・藤本槌重著・貞閑禅尼―出家後の俳人田捨女―に詳しい。

百歳青春（拔萃）

堀川 萬次（柏原町）

この一文は昨年一〇月二五日、八八歳で逝かれた堀川萬次さんが、二〇年前（一九六四年）に書かれた小冊子から抜萃したものです。自から天下の性豪と称し、テレビ唄子啓助の「おもしろい夫婦」に出演されたのは一五年前のことでした。二年前には、雑誌「微笑」に『日本の絶倫おじいちゃん』として数頁にわたる特集が載りました。戦後、氷上郷友会の再発足には異常な熱意を示され、会の再建のため献身されたことです。ここに遺文をかがげ心からご冥福をお祈りします。（足立正）

私は病弱に生れ、私の体は、まるで病気の巢のように、ありとあらゆる病気にむしばまれ、いくたびか死生の境を往来してきました。この深刻な体験によって、独特の研究をかさねた結果は、真理は平凡に帰着したのであります。人間とは、森羅万象を象徴する小宇宙であり、猿の進化したものであります。四足動物から二足動物に進化した不自然と、文化の発達による不自然とが累積して、病気になる根本原因を作っておるのであ

ります。従って、首と肩、足と腰が、いかに重要な役割をもっているかを知り、病気を根治して真の健康体となり、潑刺たる青春をよみがえらすには、思いをここに致し、この根本原因にメスを入れて、宇宙の真理に活を求めなければなりません。

病気は、身心の過労、冷込み、飲みすぎ、食べすぎ、手淫過度、房事過度、睡眠不足、不純食物、汚れた空気、汚ない水、太陽の光に浴しない、不潔、などのことから発生してきます。人間の胃腸はキセルと同じで、ヤニ（毒素）がたまり、万病を作る原因となっております。この病気を治して健康を維持し、青春を持続させておけるものは、各自に備わる自然治癒力であります。この自然治癒力の活動を旺盛にして、万病を根治し、青春を旺盛にする第一の方法は、高熱の病気になった時、一切の小細工をせず、水だけ飲んで断食しておりますと、体内にある一切の毒素固まりが、燃焼材料になり、体内がきれいに掃除されて若返ってきます。腸チブスや、肺炎をわずらった人達が、病後丈夫になるのはこのためであります。内臓の病気こそ解毒作用であり、好機逸すべからずとして喜んでこれを受入れ、禍いを転じて福となすべきであります。片時も物を食べなければ、生きておれないというような無智な考えは、反省すべきであります。私は人間が病気を恐るがのが、おかしくてならないのであります。それは病気というものの本質を知らないからであります。あまりにも難しく考えすぎ、小細工を弄しすぎて、大

したこともない病気を重くしてしまつて、取返しつかないことにしてしまふのであります。

第二の方法は、風呂、アンマ、熟睡であります。人間は、自然なものであり、自然治癒力も自然なものであります。この自然なものを生かし、働かせる方法は、また自然なものでなければならぬはずであります。古来病気を治す方法として、手当てという言葉があることを考えて研究して行けば、自然に奥義である真理に到達します。いろいろな健康法に対し、敬意を表しますが、青春を持続させ、旺盛にする方法だけは、夫婦でアンマを仕合する以外にはないことを断言します。真理は平凡で簡単であります。

私が五九歳の春、自動車事故により、右半身は滅茶滅茶に骨折して死んでおりましたが、一四時間目に息を吹きかえし、その途端に吸う息、吐く息の苦しいこと、まさにこれ生地獄でした。一四時間死んでいた時の、何にも知らず、何の苦しみも、思うことも、考えることもなく、何でこの楽しい死を、人はいやがるのでしょうか。死はまさに極楽なりと徹底してしまいました。生きることが楽になってきます。つまり、それは、思ったり、考えたり、しなくなるからであります。一四時間目に息を吹きかえした私は、誰が何といつても水以外は、絶対口にしませんでした。医者や看護婦は、病院の出す食事をたべなければ死んでしまうといいましたが、私は「自分の体は自分が一番よ

く知っているはずである、他人の医者や看護婦に私の体がわかるはずがない」といいきつて泰然自若、医者や看護婦のことを退けました。ところが、この重病人の治りの早いこと、たしか二ヶ月目かで退院することになりました。医者は、退院はできても、おそかれ早かれ、いずれは神経痛になるだろうと申しましたが、以来一〇年、神経痛のシの字も出ません。

宇宙の真理であり、人生の根本である結婚は、家柄でもなければ、学歴でもなく、財産でもなければ、顔でもなく、スタイルでもありません。アンマの上手、下手こそが、根本であります。アンマの上手な人同士が結婚すれば、それは琴瑟相和す仲となり、夫婦のよさがしみじみと身にしみ、夫は妻の待つ我家への帰りを急ぎます。妻がアンマの上手な夫を持ったなら、しみじみと夫のありがたさが身にしみて、幸福な鴛鴦夫婦となるのは必至であります。夫の体は妻の責任であり、妻の体は夫の責任であり、子供の体は親の責任であります。アンマこそ、夫婦和合の、子供を育てる、電医電薬であります。アンマこそ、世界人類最高の幸福の象徴であり、医薬の神髄であります。夫婦でアンマの仕合をすることが、人生の根本であり、幸福の源泉である以上、もし夫婦の一方が死亡した時は、気分を一新し、再婚して青春を楽しむべきであります。結婚は若い人だけの特権ではなく、終生必要なのであって、むしろ老人になればなるほど大切なのであります。人間一人身の寂しさ、男でも女でも

同じであります。人間が生き甲斐のあった、幸福な人生であったと、喜びながら死んで行くようにするには、絶対に夫婦が必要であります。男でも女でも、一〇〇歳になっても一人暮しは自然に反する罪惡なりとの風習を徹底させ、極力、結婚を奨励し、協心協力する鴛鴦夫婦の実現を計るべきであります。青春を樂しみ健康を心がけるのは、夫婦の責任、この夫婦の生活を保障するのは、国家の責任であります。

男と女は同じ人間であっても、天分は相反しております。男の真似は女にできませんし、女の真似も男にできません。男の生命は剛であり、女の生命は柔であります。この男と女とは、どちらが上で、どちらが下というようなものではありません。夫婦關係において、仕事の上において、外見、男が上で女が下のように見えますが、これは考えがいで、男女各々その天分を生かしておるのであって、上下というものではありません。女は弱いもので、男の助けなくては生きて行かれるものでなく、男も弱いもので、女の助けなくては生きて行かれません。剛なる男と、柔なる女とが、一心同体となることによって、強い完全なものができるのであります。夫婦の意義は、ここにあるのであります。

人間は、人智によってしては解することの出来ない、不思議な運命に支配されて、各人各々その顔の異なるように、異なる運命を持って生れてきており、偉いから成功したとか、努力し

たから成功したとかいうようなものではありません。したがって、職業に貴賤などあらうはずがなく、ある運命を持って生れてきた人を、貴しとし、ある運命を持って生れてきた人を、賤しとする考え方は、罪惡であります。もともとこの世の中は、ちゃんと、喧嘩し合うように不公平にこしらえられております。この造物主のいたずらを克服して、喧嘩しないようにするとともに萬物の靈長である人間の価値があるのであります。理屈もへったくれもありません。人道、政治の根本は、弱肉強食、一将功成り萬骨枯るの弊風を改めて、萬民享樂による平等、自由にするということです。

人間は生れたからには、必ず一度は死んでしまわなければなりません。死なずに生きておるといふ人は、一人もありません。死ぬということは、極樂へ行くといふことで、何もそんなに嫌やがったり、恐れたり、心配する必要はありません。死に対して、徹底的な信念が得られますと、生はまことに、安心、氣樂であります。各自一番大切なものは、自分自身であります。この大切な自分自身は自分自身で大切にせねばなりません。自分自身を大切にするには、家庭を大切にしなければなりません。家庭にある夫婦こそ、お互いが、生神様であり、生仏様であります。これほどありがたい功德あらたかなものはありません。かくて、因習が骨のずいまでしみこんでいる哀れな人々を、壮年にもどらせ、青春と健康と光明を与え生き返ってもらい、生

き甲斐のあった幸福な人生であったと、喜んでもちょうようにして、身体障害者にも、病弱者にも、青少年にも、中高年者にも、老人にも、安心と希望と元気を与え、思う存分その個性を発揮して働いてもらうことが出来て、潑刺たる日本が生れ、気を世界に吐き、全人類の覚醒を促がさんとするのが、一〇〇歳青春であります。

百里の道も一歩より始まる。一〇〇歳青春の化身たるこの私が天意を受け、一字一句に心魂をこめて書きしるしました。

昭和五八年、
八七歳で皇居
一周マラソン
を完走した堀
川氏夫妻。

幸世のルーツを

足立 順治（氷上町）

私の生まれ故郷は、当時、氷上郡幸世村井中、奥地、といい、よくよくのいわれがあつての名前じゃないかなあ、と考えてみたくなるのであります。だれが、いつ、こんな名をつけ、またそれをとなえ伝えたか、そのルーツが知りたいものだと思うのでございます。丹波地史とか、里の話、というような書物でもあればぜひに拝見して、これらの土地の名のルーツを知りたいものでございます。

氷上とは氷の張った池の上、あるいは、氷川さんの上といっても、そんな所は見当りません。近い所に成松という名の集落がありますが、こんな名も不思議でなりません。佐治とてもそうです。神楽、遠坂、なんぞというのは少し分かるような気がします。石生（負）、柏原とてさっぱりで、小字に至ってはさらさら分らないのであります。

私の生まれ故郷、幸世とはなんともいえぬうれしい名であります。私の中にあつて井中とはまた困った呼び名、そのまた奥の奥地という山の肩みたいな所で生まれた私が、花の都で親友の松山幸逸と美人の取り合い、追いかけてこをしていたので



すから、面白いものでございます。

さて、私も八〇を過ぎたこのごろ、「山ざる」になにか投稿したらとふと夜中に目が覚めて、浮かぶままにこんなことを思い出したのでございます。

私が生まれたのは、明治三五年二月で、母は三五歳でございました。当時から柏原町が地域行政の中心で、郡役所がありました。

それから山東と山西に村や字、小字の集落があり、私の生家は幸せな良い村の中の井戸の中、そのまた奥の方の地にあったのでございます。

成松から佐治に通じる道路を新道とっていったように思いますが、新道の西側に「赤穂の野」というちよとした野原がありました。そこを更に西へ桑畑の中を山に向かって菜の花畑や茶畑をせり上りますと、左右に竹林があり、大きな古木の森の中にお宮があって、これが井中の氏神さんで、毎年一〇月十七日に祭礼がありました。この宮の森から更に奥の赤松林の山道を左に曲がり、奥山から流れてくる谷川の小橋を渡って大きな柿の木のある家を左右に見てなお昇って行くと初めて視界がひらけ、人里のにおいと申しますか、牛小屋やたい肥のにおい、柴をたくにおい、稲穂の香のする山すそに囲まれたお盆のような山里で、明るい傾斜地ながら田んぼもあり、わらぶきの家があちらにぼつり、こちらにぼつりと一〇戸あり、足立姓が七軒、

田中姓が三軒でありました。この山里のずっと奥には徳昌寺があり、更に山道を踏み入りますと、大きな大きな千年杉のある御霊さんという社があり、奥山に通ずるのでございます。このお宮はあまりにも山奥で、お参りに不便とでもいうのでしょうか。私の小学校二、三年のころに下の村の氏神さんの地内に移すことになり、大きな公孫樹の西側に遷宮なされたのでありました。ともかく、私が生れたのはこの奥地の、築後百数十年といわれる古い家の暗い部屋であつたのでございます。

この幸世村には、井中の外に次にご案内致しますような字地がありまして、役場からの指令や指示、例えば塩の配分、肥料の割り当て、養蚕や繭の集荷、兵隊の検査、兵隊送りの案内などのようなことを仕切っていたのでございます。

井中の北隣りに「御油の宮」があり、そこを御油と申しました。この北寄りにもう一つ北御油というのがあり、従いまして、宮さんのある方は南御油とっていました。北御油へ行く道の西の山肩に円通寺があります。

当時、円通寺は、それはそれは大変立派な寺院でございました。桜並木の道を昇りますと大きな山門があり、その先に石造りの橋があり、橋の両側は満々と水をたたえ、シーンと静まりかえった深い大池が広がっています。橋を渡って少し進みますと、石垣の上、右左に五条の筋がついた白壁塀が築かれ、石段を上り、小門をくぐるといよいよあの広い庭に出ます。庭の左

手には、日清、日露の両戦争の戦没者の招魂碑が建てられ、右手は多数の坊さんの庫裏の建物があり、正面の本堂は一段と高い所にありました。その本堂の左側に直径二メートルもあろうかと思える程の大太鼓やジャンジャンと鳴らして役僧の入座を知らせる、つり半鍾がぶらさがっていました。坊さん、小坊さん也大勢いまして、掃除はゆきときき、いつもピカピカに光って美しい荘厳な寺院でありました。有名な日置黙仙老師もこの寺で育った人であります。

しいの木の山を北に越えると北御油で、そこから佐治へ通ずる新道を行くと道に沿って小町並の続く沼という部落があり、ここが幸世村の北の端でございます。沼と芦田村（今は青垣町といひます。）の接する所にきれいな水が湧き出ていました。この「清水池」は多分、井中の奥山からの絞り水なんでございます。コンコンと湧き出る清水はかなりの量で、「沼の清水」と呼ばれ、沼や御油のたんぼの用水の元となっていました。

沼から南へ引き返しますとそのはずれで道はふた手に分れ、右は成松へ通る新道、左は方町、柳町へ通ずる県道なのであります。この県道が昔からあった旧街道でありましょう。これを進みますと、佐治川に架かる幸世橋があります。幸世村の中心を流れる佐治川には、徳昌寺橋、柳町橋とこの幸世橋との三つの橋があり、この橋は当時は黒塗りの欄干のある幸世随一の大橋でありました。この橋を渡って県道をそれて進むと日比宇部落、

更にその先に鴨内があります。ここには幸世村唯一の作り醬油屋さんがあり、また、金さんという魚屋さんがありました。私の覚えでは、その頃幸世では魚屋もここ一軒しかなかったのではないのでしょうか。塩鮭、にしん、数の子、塩鯖、昆布、などを車に積んで売りに回っていたのでございます。この鴨内の先の山端を回った小さい谷は、小谷といい、五、六軒の幸世でも一番小さい部落もありました。

幸世橋を渡って南の方へ県道を進みますと方町があり、方町から南東へ山すそを少し昇りますと伊佐口があります。方町の小町並を過ぎて県道を南下しますと、左手の山の方から流れてくる谷川があり、これに沿うて道を上れば香良です。ここ「香良の不動さん」は香良のシンボルで、奥の奥、谷川のどんづまりの水源の洞穴の中にはご本尊が鎮座しまして、そこには寺もありますし、その庭には大きなしだれ桜が一本あって、春ともなれば白桃色の花がいっぱい咲きそろいました。幸世尋常小学校の生徒が紫のはかまをはいた先生に連れられて、歌をうたい肩を組んで、わいわいと花見遊山に楽しい一日を過ごした日のことを思い出すのであります。そのころ幸世で桜の名所といえはこしかなかったものです。

今でも目の底に焼きついて忘れることのできないのは、あの不動さんのご本尊です。暗い洞穴の奥で、胸に宝剣を抱いて眼光も鋭くこちらをにらんで立っておられたのでございます。

有名な滝もございまして、谷川の源をなし、水量は殊の外多く、その頃この山寺にはここにこもって「滝に打たれる白衣の行者が常住しておられたのであります。

香良の不動さんの桜と滝は幸世だけでなく、氷上では円通寺とともに一番の名でございました。

香良から再び県道に出て南下しますと柳町があります。ここは幸世村の行政の中心で幸世尋常小学校があり、(高等小学校は田井の宮に移り、間もなく廃校さる)その隣りに黒塗りの柱に白壁造りの役場があり、ほかに西戸貯蓄銀行もあり、幸世村信用組合もやっと思きたばかりでありました。

恐らく私が小学校二、三年生のころだったと思います。千葉医学専門学校を出られたばかりの石井さんが、柳町のはずれに新医院を建てられて村医になりました。それまで幸世村は無医村で、石生の大塚医院が受け持っていて下さったのでございます。石井医院は美しい前裁のある家族同居の家で、少しは村も補助をしたのでしょうか、それは立派な医院で、ハイカラな奥さんを従えて石井さんは赴任されたのであります。その後、坊やが生まれました。この坊やは、過保護といえる程にチャホヤとだれにも可愛いがられました。白い顔の頭でっかちの子であつたことを覚えております。この子が後に幸世村の村医は無論のこと、村長となり、氷上町長にもなられて、氷上には無くてはならぬ名士となられたのであります。

柳町の南に棧敷があり、ここは柳町と違って静かな集落でありました。この先を県道から外れて山の方に参りますと由良があり、これは南北二つの由良に分かれていました。ここには寺が二軒あったと思います。南由良のお寺に私の同級生でいつも二番で、白い顔の平手憲道君がいました。その由良の奥から柳町の小学校へ通うのは私と同じ位の道のりでかなり遠く、恐らく四キロから六キロもあったと思います。由良から再び県道に戻って南へ進みますと、幸世村の南端の集落、氷上があります。なぜか氷上の氷上なのであります。この北よりの離れた所に三軒程家が並び、その一軒が畳屋さんで、私の同級生で一番の中川吾市君の家だったので。中川君も平手君もなかなか賢い子でありましたが、今も長生きしていられるか知れませんが、(八三歳)私にとって忘れることのできない思い出の同級生なのであります。

この氷上で、これまでずっと南下して来ましたが県道を直角に折れて、道を西方にとりましますと橋に出ます。むろん欄干などはなく、木を横に並べてその上に土を盛っただけの橋で、たしか成松橋といったと思います。この橋のたもとに西中部落があり、更に行くとな松の町並みが待っています。ここは幸世ではありません。幸世平野の南端にあつて、丸いもちを二つに切つて片方を盆にふせたような形の小山があつて(甲賀山といひました、そのふもとに恵比寿神社があり、その周辺に町並ができていま

した。この成松町は氷上郡の中央部の中心町でありました。氷上郡では柏原町と並んでにぎやかな町で、道に沿って家が肩を並べ、呉服屋あり、宿屋あり、魚屋あり、本屋、雑貨屋、小間物屋、薬屋、等々、いろいろな店がここにはそろっていました。私の父などは、お盆や正月には「町に買い物に行ってくる」といって、かごをかついでこの町へ出かけたものでございます。むろん自転車も自動車もない時代のことですから、一時間余も歩いて行ったのでございます。

成松を後に佐治に通ずる新道を北へ戻って幸世村に入りますと田井があります。この田井も南と北に分れていまして「田井の宮」のお社が北田井の北の端にあります。このお宮のお祭りはその頃にはそれは盛んなものでございました。田井の東を流れる佐治川の向う側に先に述べました柳町があります。この佐治川の手前の田んぼの中に田中があります。ここに田中の種雄さんという方がおられて、村一番の分限者だという評判だったことを子供心に覚えております。田中という所ですからむろん田んぼの中の集落でありましたが、ここに驚いたことに乳牛を二、三頭も飼っていた牛乳屋さんがあったのでございます。現在、酒屋さんでみる二リットル瓶をごく小さくしたような、首の細い牛乳瓶で、口のところは、太い針金をバネのようにかがりつけた陶製の白いふたがしてありました。これを恐らく乳の出ないおかみさんや肺病で元氣のない人たちに配達していたの

でございましょう。私などは兄弟が多かったせいか、母乳が足りないの、ぜいたくな牛乳ではなく、水を多めにに入れておいたおかゆの上澄み、つまり、おも湯で育てられたものでございました。

いろいろと幸世村の部落について申しましたが、まだこのほかに、小字、山や川なども伝来の呼び名がいろいろございます。

そもそもこれらの名がどこからきたものか、どんないわれが秘められているものか、それぞれの歴史や伝説を考えますと、床に入ってもますます目がさえて、なつかしい思いがつのつて参るのでございます。

実は、このねごとの本当の狙いは、これらの名のルーツを山ざる誌の手で探って欲しいということにあるのでございます。

間もなく遠いあの世に参る身ながら、心残りのする思いではありますわい。

望まれた原稿の期限ぎりぎりに忙しい話ですが、まずはこれにて……。

*

*

*

今と昔、たとえば、通信簿。

吉住 重造

(自由造)
春日・中山

青年のうちには、過去をふりかえることはなかった。けれども、しだいに年齢をとるにしたがつて「昔」は鮮明になつてくる。

人生というものが、若いころ考えていたほど明るくもたのしくもないと気づくのもこのころである。といつても、いまさらやり直しがきくわけではないから、いっそ諦めてしまふか、でなければ人生を別の目で見直してみても安心するか、その二つしかないように思う。

しかし、そのどちらも簡単なものではなく、諦めたつもりでいても、昔はもっと礼儀正しかったのに、このごろときたら乱れてしまった。教育がなっていないとか、人情こまやかな昔にくらべて、今は自己中心でいっただうなっているんだ、とくり言ばかりが先に立って、昔のユメばかり見ている。こういうのを年寄りというんだろうか。

だが、よく考えてみると「昔と今」は、どうやら比較からきていることに気づく。

「昔はよかった」とするのは、自分の青年のころはユメも希

望もあつたということを、ひきくらべて感じるものである。

といつて青年のころをふりかえてみると、挫折や絶望にうちひしがれていたことがあつたはずだ。とくに、私たちのような戦争世代にはとくにひどかつたはずなのに。

これは要するに老人になつてしまつたときに、今にひきくらべ、昔の挫折や絶望を美化してしまつて「昔はよかった!」といふことにしてしまふからだろう。

*

先日、さがしものをしていたら、セピア色に変色した古い通信簿が出てきた。

みると、大正一二学年とある。六二年前の私の通信簿であつた。

なつかしさのあまりひろげてみた。誰もが一度は通過してきた小学校一年生、そこには私の幼時の原風景がぎっしりつまつていた。

私は、その六二歳になる通信簿を眺めて、しばし時を忘れて思ひかえしていた。

それにしても、大正発の通信簿のおもしろさ。私は今の通信簿はどのようになつているのか興味がそそられ、孫娘の小一の通信簿を持ってこさせた。

だいいち、名まえからちがう。

「通信簿」に「あゆみ」今はぐつとやわらかくなっている。

私は、双方をひとしきり眺めまわしたあと、通信簿を読んでいった。

表紙は、大正一二学年、通信簿、大路尋常高等小学校、校長長谷川成器、受持教員 上山善兵衛、保護者 大路村中山 吉住鶴吉、児童尋常科第一学年吉住重造、大正五年十二月二十七日生となっている。

ひらくと「保護者への御注意」として、

「児童の教養は宜しく学校家庭が手に手をとって同一の方針で行わなければ出来ないであります」と、まるで演説口調ではじまり、

「時間で申しまして一日の中多くは家庭に居るので学校に居るのは僅か五、六時間に過ぎないのでありますから、如何様に学校で注意致しましても家庭で其の通り行わなかったり、又家庭で御注意に成って居ることと学校で注意して居ることと違ったりする様では児童を傷うことも甚しいのであります。因に次に書いて居りますことは必ず家庭で実行致しますよう申しつけて居りますから、其の行い方に就いては十分に御注意を願います」

ことばは丁寧ながら、かなり押しつけた表現をしている。

つぎに「家庭における児童の心得」として、

一、親や目上の人の言ひつけをよく守れ。

一、目上の人をうやまへ。

一、兄弟仲よくせよ。

一、自分のことは出来るだけ自分でせよ。

一、身体をきれいにし身の廻りをつづまやかにせよ。

一、言葉使いをきれいにしむだ口を言ふな。

一、物を大切にして使へるだけ使へ。

一、食物や着物の小言をいふな。

一、何事にもすねたりおこったりするな。

一、決して虚言を言ふな。

一、毎日ほどほどに復習や下調べをなせ。

一、家の仕事は出来るだけ手伝へ。

一、何時も下腹に力をいれて姿勢を正しくせよ。

一、毎朝歯を磨き眼をよく洗へ。

一、毎朝手水をつかったら神様や仏様に礼拝せよ。

一、夜は早くねて朝は早くおきよ。

一、なるべく間食はするな。

一、教科書や学用品を忘れるな。

一、往來の道は左側をさっさと歩け。

一、御社の前を通る時は敬礼せよ。(原文のまま)

とあり、なんともいかめしい。その命令形の言いまわしは、現在のPTAのお母さんたちなら、きっと目をむくだろう、と思うと、おかしさがこみあげてくる。

「毎朝歯を磨け」はよいとしても「眼をよく洗へ」は、この

ころ眼病がはやっていたのだろうか。「往来の道は左側を」は当然としても「さっさと歩け」とくると、今の小一の子なら泣きだしてしまうにちがいない。

しかし、これが当然とされていたのだからこの「通信簿」は、既に古典に入ってしまったのだろうか。

今の「あゆみ」もだいたい同じことをいっているが、そこはかなり気を遣ったところをみせているのも、通信簿にも時代の移り変わりははっきり物語っている。

つぎに、通信簿には学業及操行調査というのがある。「あゆみ」でいえば「学習の記録」ということになる。

まず、修身（このころは大切な科目であった）つぎに国語は読み方、綴り方、書き方、通評とあり、そして算術、図画、唱歌、体操、手工とつづき、総評のあと操行ということになる。

「あゆみ」の三段階（努力している、向上している、すぐれている）と異り一〇〇点満点で採点されている。つまり修身九二点、書方九七点といった「絶対評価方式」である。

今のような配分比率が定められている「相対評価方式」では、どんなに努力しても他人を追い抜かないことにはランクが上らない、という大きな欠点があり、それが子供達に必要以上に競争心をあおり、学校を暗くしているのではなからうか。

そして三学期が終れば認定があつて、「合格」とあれば、二年に進む。

操行というのは品行のことで甲乙丙で表示されている。出欠席調査は「あゆみ」と同じように出欠日数がつけられている。

つぎに身体状況には身長、体重、胸囲の発育状態と、栄養、脊柱、眼疾、耳疾、齒牙などが記入されている。

もっともおもしろいのは「年中一覽」というのがあつて、一年の行事が記されている。

今の祝祭日と休暇を示しているもので、

▼四月一日Ⅱ入学式、始業式▼三日Ⅱ神武天皇祭▼五月二七日Ⅱ海軍記念日▼六月二五日Ⅱ地久節▼自一五日至三〇日間ニ於テ七日間の挿稷休業（今の農繁休暇というところ）▼七月三日Ⅱ明治天皇祭▼八月Ⅱ夏季休業（児童招集Ⅱ三一日天長節）▼九月二四日Ⅱ秋季皇霊祭▼十月一日Ⅱ戊申詔書下賜日▼一七日Ⅱ神嘗祭▼一七、一八日Ⅱ氏神祭▼三〇日Ⅱ教育勅語下賜日、天長節拝賀式▼三一日Ⅱ運動会▼十一月二三日Ⅱ新嘗祭▼十二月一四日Ⅱ義士会▼二五日Ⅱ終業式▼自十二月二六日至一月五日Ⅱ冬季休業▼一月一日Ⅱ四方拝、新年拝賀式▼一月三日Ⅱ元始祭▼六日Ⅱ始業式▼二月一日Ⅱ紀元節拝賀式▼三月一日Ⅱ陸軍記念日、学芸会▼三月二三日Ⅱ春季皇霊祭▼二六日Ⅱ卒業式▼自二七日至三一日Ⅱ学年末休業。

とある。いまでは若い人はとにかく、熟年の方も既に忘れてしまった、あるいは忘れてしまいたいことが、ぎっしりと詰っているあたり「あゆみ」と大きく異なるところであつた。

通信簿から連想されるのは、当然のことながら、大路尋常高等小学校である。六年間雨の日も風の日も、尾の峠を越えて一里の道を通い続けた、学びの庭である。

国士のような風格の長谷川成器校長、お歳だったのか、白いものが混じっていた上山善兵衛先生、母のようにやさしかった余田はるえ先生、いつもヘソを出していた豪傑の高見俣八先生、雲助ヒゲの山本重五郎先生、等々。

同級生は今も、ちっとも歳をとらないで、わたくしの前にあらわれる。思い出は尽きないが後日に譲ることにする。

わたくしは、通信簿のなかに秘められた幼ないころの心象風景を思い出しながら、通信簿というものは、よしにつけあしきにつけ、その時代、時代の風潮を反映した「時代の証言者」に思えてならなかった。

私の食卓

田中 篤郎（市島町）

昨年の暮、生家から小荷物がとどいた。みかん箱から餅、小豆、黒豆の他に、黒い土をつけたままの桐芋が数個出て来た。まるい桐芋を手にとると、ずしりと重く、かすかに土の匂いがする。豊かな秋の稔りの桐芋をみていると水上勉氏の「土を喰

う日々」を思い出した。

軽井沢に仕事場を持つ氏が敷地の一角に野菜畑をこしらえ、寺の小僧時代に習い覚えた包丁をふるって日々の料理を工夫するところを月を追って述べた特異なクッキングブックがある。副題に「わが精進の一二ヶ月」とあった。

その中で、台所にある材料を使って（ここで材料というのは野菜・山菜のことである）、その材料の持ち味を引き出し、おいしく食べる工夫をすることが精進だと語る。だから、材料に粗末なものはない。どんなものにもその材料だけが持つ味がある。その味を見わけ、その味に合う調理をすれば豊かな味を味わうことができる。土に生まれたものをおいしく口にすることは、土の恵みを味わうことであり、土を喰うことだと語っている。

私には水上氏ほどの思い入れはむろんないが、幸いにも季節の旬の桐芋が手に入った今、私なりに工夫すれば何がしかの食べものが出来るだろう。氏は自分で作りたいと思いついたら素直に材料の前に立てともいつている。そこで私は私流のとうろ汁を作ってみることにした。

先ず最初にとろろをのばす「だし」を作る。煮干しの頭と内臓を取り除いて小鍋に水を張り、用意した煮干を入れ、火にかける。煮立って来て煮干が浮くと素早くすくい取って火を弱くする。薄口醬油を濃い目に入れてまた火を強くする。その方が味に嫌みがなくさらっと仕上がる。「だし」を冷ましている間

に芋を洗い、皮をむく。手に芋の粘りがなつかしい。皮を残さぬようにねいにむく。芋をすり鉢にすりおろす。ここで肝心なことは、すりおろしたところをすりこ木で白い小さな泡が立ち、ふつくらと盛り上るようになるまでよくすり込み練ることだ。こうしないと「だし」とうまくなじまない。ふつくらと盛り上がってきたところに「だし」をそいでのばしてゆく。桐芋は腰が強く腕が痛くなるが辛棒が肝心。ところ汁は舌とのど越しで味わうものだからのばし方が濃くもなく薄くもない丁度の加減が難かしい。ここが工夫であり、精進だ。「だし」を合わせおわってもしばらくすり続ける。これをやらないと「だし」ところろが分離する。さて、ところ汁ができあがった。お椀に入れ、青のりをふりかけて食卓に出す。薄黄色のところ汁に青のりの緑が散って見た目にも美しい。あの土くれた桐芋がこんな美しい食べ物になるのかと改めて思い、見入る。水上氏の語る精進の歎びとはこれなのだと言ふ。

ところ汁をすすると、我ながらいい味だ。口に含み、舌で味わいのどを悦ばせる。いま、古里の土を喰っているのだ。甘悲しいものが胸をつく、豊かな土の恵みのところ汁、丹波の土に感謝の杯を挙げる。

(註)きり芋とはどう書くか。桐の葉の形なので桐芋、包丁で芋ごとに切って植えつけるから切芋、晩秋にとれるから霧芋、諸説紛々、どなたかご存知でしょうか。編集部)

ゴルフと健康

谷 垣 正雄 (柏原町)

だれでも第二の人生に入ると次第に人間関係が少なくなり、趣味の少ないものには精神的な寂しさを感じるようになる。だから、この対策としては、健康にもよく脚腰を鍛えながらいくつになってもできるゴルフに勝る趣味はない、と勧めてくれた先輩に大いに感謝している。五六歳で初めて今年で二二年になる。途中で病気のため二年のブランクがあるが、その後も年齢に相応した健康管理のため、ホームコースに天候の好い日を選んで、下着をカバンに詰めて予約なしで出かけている。コースでは二〇年来の顔なじみやキャディさんに励まされながらゴルフを楽しんでいる。

一〇年程前に聞いた、松下幸之助翁の青春賦

「青春とは心の若さである。信念と希望にあふれ、勇氣に充ちて日々新たな活動をつづける限り、青春は永遠にその人のものである」

との座右の銘に刺激されて大いに発奮してその心がけを忘れぬようにしている。

ゴルフの上達は今のところ無理かと思うが、毎朝、健康体操

としてクラブを数十回振り回しながらスイングの研究をしたり、平均四キロ程の散歩をして、日日是好日の快適さを味わっている。

今はゴルフを始めたころの左記のうたのような情熱はないが、なんとか一〇〇をきることを目標としている。

ゴルフビギナーのうた

一、緑の芝生に 白球飛ばしや

ひびく快音 ナイスショット

空は青空 心も晴れて

なんでゴルフが 忘らりようか

二、あの手この手と打ってはみたが

スライス、オービーとバンカに食われ

またもブービーか 子供にやいぬ

俺らの心 たれか知る

三、明日はコンペに出て行くからは

初の栄冠 目指して夢に

みごとカップを 手にした時は

女房の笑顔が目に見え

(王将の替えうた)

食は命(胃の血)なり

足立 かをる (春日町)

昭和五七年五月末、知人より、シャクリー栄養補給食品の話をして、六本木のミーティングに参加し、すばらしい生きがいと出合いました。これこそ世界一の本物と思います。シャクリー博士は、一八九四年生れで現在なお元気で、「自然との調和」を説き、「世界中の人が皆健康で生きてほしい」と願っておられます。この食品は人間の持つている自然治癒力を高める効用があります。

私は、残された人生を健康で過すためには、この食品が不可欠のものと受けとめています。日本は世界一の長寿国となりましたが、現在の子供たちはこのままだと三・四〇歳位の寿命と聞いています。昭和五七年発表の厚生省の資料と、一〇年前のものとを比較すると、野菜等の栄養素は、 $\frac{1}{3}$ ないし $\frac{1}{4}$ に減少しています。化学肥料、農薬、ハウス栽培、食品添加物等の影響で多く食品に、「生命の鎖」である四五種類以上の必須アミノ酸、ビタミン、ミネラル、繊維、等が十分とれないことを知りました。新聞やテレビでバランスのよい食事についてよく見聞しますが、本当にバランスのよい食事がいかに取りにくい

か、また、取れないために起きている多くの事実を知り、びっくりしています。年順ならともかく、青壮年層の人がばたばたと亡くなつていくのを見聞きして、ひとりでも多くの方にこの情報伝えたいと存じます。

現代病は、食事の誤りに起因するものが多いといわれ、厚生白書も一億総半健康の時代といい、カルシウム不足を指摘しています。家庭用洗剤による水質汚染やそれに含まれている肝臓障害、催奇形成、癌促進等の成分についてもよく知られています。シャクリーの洗剤は、W H O の基準に合ったもので、七十二時間で九九%以上の微生物を分解します。先日知人の娘さんの友人に心臓に穴のあいた赤ちゃんが誕生後三月で亡くなり、暮には、友人の娘さんに赤ちゃんが生れた喜びもつかの間、二九歳の若さで癌で亡くなり、悲しみに明け暮れているとの便りが届きびっくりしました。

シャクリー栄養補給食品を毎日食べ続ければ必ずよい結果が得ます。

人の幸せと健康を願いながら、この食品を食べ続けて健康をとりもどされた方から頂く感謝のお言葉が私の生きがいになっているこのごろでございます。

駿河湾の初日の出に思う

坂本 重雄 (柏原町)

一九八五年正月元日の朝、妻と娘四人を伴い、車で五分の久能山東照宮下の海岸へ出かける。初日の出を見ようとする人たちの車で海岸道路は混雑している。六時五十分ごろ、駿河湾上に浮かんでみえる伊豆半島の上から真紅の初日が昇る。三保松原に近い海岸から眺める富士山の姿が一きわ雄大だ。オゾンを含んだ空気がおいしい。

静岡の地に移り住んで二〇年の歳月が流れた。気候は温暖、ミカン、お茶、海産物など物産が豊富であり、人情味のある土地つ子に全国各地からの転勤族を加えた人間集団のなかで楽しい生活を送ってきた。丹波で育ち、都会で学生生活を経験した私にとって、農村と都市の両面を兼ね備えたこの地は好適のようだ。新幹線、東名高速道が完成し、東京、名古屋間の時間距離が短縮されたこと、職場、住居と趣味の場の相互近接が何よりの有難味である。

長年住み慣れてくると、富士山の眺めも感動が薄らいでいるが、最近では、客の案内役で周辺の観光地を回るとき改めて静岡、清水の良さを再発見している。案内先は、静岡市内では駿

府城跡、臨濟寺（家康が幼時に居住）、登呂遺跡、芹沢銈介美術館（型絵染の人間国宝）、用宗海岸よりの活魚づくりやすし屋、郊外では丸子路からつたの細道（在原業平の時代の道路）、吐月峯の庭、とろろ汁に安倍川もちの食べ歩きがある。市内全域はむろんのこと、駿河湾、富士山から南アルプスまでの展望が可能なのは、静岡大学キャンパスの最上部（標高差一〇〇米）にある私たちの研究棟の屋上である。近年、国立大学でもなんらかの自己宣伝が必要となっている。

更に清水方面では日本平、久能山東照宮、三保松原、東海大学海洋博物館、竜華寺（高山樗牛の墓、大ソテツの名園）梅蔭寺（次郎長の墓）などがある。

私たちも出張すると、その土地の大学、官庁、会社の方たちの案内を受けて感銘することが多いだけに、つい案内にも熱が入る。

丹波のような人間関係を大切にする地域で育った者の習性か。郷土や隣人を愛する気持が居住する地域社会への関心や改善への意欲を深め、ひいては日本や国際社会の発展を念願する姿勢は、平和の存続、戦火の回避につながるはずのものである。

しかし、オリンピックにみられる愛国心や高校野球の応援をめぐる郷土愛が必ずしも防衛予算の突出批判や核兵器廃絶の運動にはつながらない現状である。

国際感覚が豊かで受験戦争に勤勉な若者たちも、社会や時代

の動きを自分や家族に結びつけて考える習慣が身につかない。こういう批判や感想をもちながら、時折、戦争体験を子供たちや若者たちに語るものの、私自身が地域社会や職場の秩序維持に関心が傾いて、最近における戦争拡大の危険に対し抗議すべき良心が鈍化してきているように思う。

「戦争になったら反対する」なんて、それこそ不可能なことを知っている。「一夜明けたら戦争が始まっていたあの寒い日の朝」を忘れかけているのではないか。



登呂遺跡を案内する筆者（左端）

人生これ「初体験」

池田 忍（山南町）

なんだかいわくありげな表題をつけたが、昨年、師走の声を聞いたときの驚きにも似た実感が忘れられないためである。

その実感とは、アレ、もう一年終わりか、ちよつと早すぎやしないか、まさか時間を無駄使ひした罰で神様に二カ月ほど天引きされたんでは……。毎年早く感ずるが、今年、格別そう思うのはなぜだろう。そうだ、これが「初体験」というヤツ、去年でもおとしでもない今年、四八歳の年末を迎えるのはこれが初めだからそう感ずるのだ。そうすると来年はもっと早く、再来年は更に加速度がついて早くなる。

たわいもないことと笑われるかもしれないが、こんなことを真剣に考えていると恐ろしくなつて、年明けから今までになく緊張した気分になつた。

そこで、「初体験」という言葉にこだわってみると、これまで若いころにやり過ぎて縁遠いものになつてゐるはずのこの言葉がいまごろよみがえつて、人生峠を下り坂に向かう自分に重くのしかかつて、身構えを起こさせる。

人間は生れおちて後は初体験の連続ともいえるが、これから

の出会いはい手ごわい。退職、老い、そして死に至るまで、初体験が待ち受けている。それとどう取り組むか、未知との遭遇は、これまでの生をかけて蓄積してきた人間としての総合力が容赦なく試される場面であらう。

こう考えると、残された時間の使い方が勝負になる。「しまつて行こう」という呼びかけがどこからともなく聞こえる。時の流れの速さを嘆いてばかりいないで、時を意のままに従えて充実の度を加えよう、と格好よくいきたいところであるが、凡愚の習性は一朝一夕には改まらず、相変らず悔いを残しての明け暮れである。

ともかく、これまでの人生「放漫経営」がたたつて、収支はひどいアンバランス。成人病にかかつて突然の終局を予感することもある今日、早いとこ人生の「帳尻」が合うようにしておきたいものと、焦りながらも律義に考えている。

終りに、あつかましくコマースヤルを付け加えさせていただきます。私が経営する出版社（俳ホンゴ出版）では、今はやりの自分史の自費出版を、より安く簡単に、しかし豪華愛蔵本に仕上げるシステムとして、人生記録、共著シリーズ「旅路」の出版を企画し、テレビなどにも取り上げられ好評を得ています。波乱の昭和史とともに生きて掛け替えのないあなたの人生記録を本書にお寄せ下さい。電話（六六六一一九二二）くだされば案内書をお送り致します。

アジア瞥見

谷 達雄（柏原町）

米の本職に関連して海外、特にアジアの米産国における米の收穫以後の流通技術の仕事にかかわっています。三〇年前、米を調べてタイ全土を三カ月歩きまわったのがきっかけです。今でもそうですが、当時のアジアの国ぐには本当に田舎で、丹波育ちの私の性に合い、なじみやすかったのかもしれない。

そうはいっても、アジアも随分変わってきました。なかでも ASEAN（東南アジア諸国連合）諸国は今後、世界経済上最も有望な発展地域としてとらえられています。

日本から飛ぶと先ずタイですが、首都バンコクはアジアの航空交通の基点になっています。他国の経済発展の多くが政府主導型であるのに、この王国は華僑が経済の実権をにぎっていますから、自由主義的で進歩への対応が早くてめざましい。タイの米は世界最高の品質です。近ごろでは日本の漫画「ドラえもん」が爆発的ブームになっていました。日本でも有名になった北部のチェンマイは今でも落ち付いた静かな情緒をたたえています。

その南のフィリピンは専ら政情不安が報道されていますが、

スペイン系の国柄はたいへん陽気で、限らない雑踏と喧騒のなかで、市民は全く自由に振舞っています。

シンガポールはミニ国家ですが、アジアの商業・貿易の中心が香港からここへ移ってきています。新しい空港と市内への並木道の美しさは世界有数で、成田よりずっと上です。道路にタバコの吸い殻を捨てると約五万円の厳しい罰金。日本から「輸入」した交番が治安維持に役立っています。

お隣のマレーシアは強い政府主導型の展開です。「ルック・イースト」東方、特に日本に学べ政府は有名で、目下、日本ブーム。緑いっぱいの首都クアラルンプールにも高層ビルが建ちはじめました。

インドネシアは、大小一万三千もの島から成るアジアの大国。バティック（ろうけつ染のジャワ更紗）が日本でも知る人ぞ知るで有名。それより日本ではバリ島でしょう。島内の無数の寺院とそのお祭り、観光で聞えていますが、私はむしろこの島の盛んな稲作に驚かされました。

タイの隣のビルマ。ビルマ式社会主義で鎖国状態を続けたので、他の国々よりたしかに遅れています。その代りアジア的色彩がいちばん豊富に残っています。入国は楽ではありませんが、この国も近年、国外へ窓を開きはじめ、急速な近代化をめざしています。有名なパゴダは観光化していますが、それでも全国に大小のパゴダ。国民は敬虔そのものの仏教徒です。

中国に次ぐアジアの大国インド。インドは半島ではなく亜大陸で全く広大、北と南では事情が大幅にちがいます。それぞれの家が独特の家伝のインドカレーの香辛料の配合と作り方をもっています。今年、日本では牛の歳。牛を神の使者とあがめるこの国びつりの歳です。

インドの東に浮ぶ島国スリランカ。国内の民族間の抗争が報道されています。「輝く島」という国名のように宝石の島として有名。すぐ近くの世界最後の楽園といわれる小さな島国、モルジブとともに観光地になりかかっています。日本からも観光客が入っていますが、目の肥えた日本のお客には、欧米にも響いている避暑地キャンディの他は、失望を与えるのではないかと思われます。

一三年後に中国の主権に戻る香港。日本ではあまりにもよく知られていますが、この国は土地開発と異常なビルの建築ラッシュ。住宅もオフィスも含めて高層ビルがすき間なく林立し、むしろ無気味な感じがさえます。

最後に中国。華北、華中は別として西南部の辺境の地、雲南。数年前からここへも入国が許されました。この地は世界の米のルートといわれ、三〇〇〇年ほど昔、揚子江を伝ってほるばる日本へ米が渡ってきました。私たちには全く魅力に満ちたところ です。

経済発展を続け近代化しつつあるアジアの国々も、日本のレ

ベルから見るとまだまだ遅れています。そうだからといって「見くだす」態度をとることは絶対に慎むべきです。欧米以上にアジアの隣人と親しくしないといけない、それが将来の日本が本当に生きる道と思われるからです。

中国残留孤児に思う

常岡 昭（柏原町）

四〇年前の悲しい記憶が、中国残留孤児の報道によって私の胸に現実のものとして当時をよみがえらせる。

私は医学生として昭和一一年渡満、六年余り奉天（瀋陽）に住み、その間、北満、北支、内蒙古へ旅をした。昭和一七年九月、大学を卒業して海軍軍医となり、満州から北朝鮮の元山に移る。翌年一月、東京築地の海軍軍医学校に、同年四月、病院船氷川丸にてラバウルへ出征した。その後、昭和二年六月に復員するまで彼の地にあつて、マラリア、デング熱、熱帯性かようななどの南方特有の熱帯病と戦っていた。

私は終戦時の満州は知らない。しかし多くの友人から終戦当時の状況を聞いて、悲惨極まりない同胞の死に心がうずくのを覚える。

当時の若者は広大な大陸にあこがれ、大陸への雄飛は男の心意気といわれ、満蒙への進出は国策でもあり、国民の多くがこれを支持した時代であった。当時の情勢を十分理解しなければ、残留孤児が直面した事情を正確に判断し、理解することはできないだろう。

太平洋戦争は、かかる多くの不幸な人々をひとり中国のみならず、戦火の及んだ各地に生ぜしめた。敗戦後の邦人処理の仕方が各地域の状況によりまちまちになったことは止むを得ないことであろう。

中国には、現在なお何千人かの残留孤児がいるといわれているが、今こそ国を挙げてその救済に組織的に乗り出すべきであり、特に政治に携わる人々の活躍と努力が熱望される。養父母は無論のこと、孤児たちもひとしく年を重ね、その記憶も次第に薄らいでゆくにちがいない。現地における徹底した調査により、一日も早く、一人でも多く探してほしいと念願している。

さて、帰国した残留孤児についてはその衣、食、住及び言語が当面の重要な課題となってくる。中国語が話せるという利点を生かすと共に、早く日本語を修得できるよう指導することによって、自分の国とはいえ見知らぬ国へ疲れ傷ついて帰ってきた人たちの心身の抵抗を少なくしつつ、社会に融け込めるような方策を考えるべきであろう。

敗戦を経験しなかった私たちは、初めて敗戦による社会の無

秩序という恐怖を体験した。孤児たちは自国の軍隊や警察の保護はおろか、最も頼みとする親族からも放り出された人々であったことに深く思いを致さなければならぬ。

民族、政治、宗教、信条の相違、経済格差などから、この世の中に争いの火種が尽きないことを残念に思う。

中国残留孤児たちの寂しい心中を思いつつ窓外に目を向ければ、寒風に揺らぐ木々の枝もじっと耐えながら春の訪れを待ち焦がれているようである。

寒の朝

井本 義一（柏原町）

年をとるにつれ、ますますつるのは故郷の年老いた両親への感謝の気持です。

*

耳を刺す 街路を駆けつ 寒の朝

ひび あかぎれか 父母の手思う

おはようと 散歩の老婆と 今日也會う

確かな足に 故郷の父母はと

近況を和歌にのせて

音無 太美子（春日町黒井）

英会話できれば車内に隣り合う

外人と話 交わせるものを

と思っていたら、先ごろ近くの高校で中学程度の英会話講習会があり、参加する。

若きらと共に学べる英会話

褒められてうれし 七十路のわれ

その会で、外人教師に日本特有のものについて語れといわれ、短歌について話すと共に自作を披露する。

抜け落ちし指輪をはめてまた抜きて

やせし手を見る 秋の独り居

なお、ユーモアのポエムもありとて

美容院も商魂たくまし コーヒー出し

ハンドマッサージとて塗ったりもんだり

身振り手振りで話をするに、教室は大爆笑なり

（昨秋、郷友会八八周年記念会に参加す）

郷友会 産物うず高く積まれていて

古里の名読みこころ帰る

郷友会にふる里の町長上京し

田舎の鉄路複線化を語る

故郷より送り来し栗 飯にたきぬ

松茸の吸物をしめじでしのび

（昨年、黒井に行きし折）

春雨を舞いてみせれば百寿の母の

思わぬ拍手に家族ら笑う

（孫をうたう）

孫七人の喜ぶ顔の浮びきて

年玉袋に一行つつ書く

孫の名で、月々積立て卒業の

祝と手渡し ころろ足りたる

ゲートボール、孫みてあれば格好よく

見せんとせしも打ち損じたり

入院の息子おもえば楽しみの

ゲートボールも今はひかえつ

（新潟にある娘よ）

新潟にきびしき寒さ耐えているや

冬は指先 痛しという娘

二〇数年前の母の日 糸巻きを

作りくれし娘も 人の子の母

(またしても亡き夫を思いつつ)

いとし夫よ 今年いませば金婚を

祝うにしばしを 待たで逝きたり

亡き夫の思い出返る 救急車

耳をふさぎて行き過ぐを待つ

東京タワーの展望台より 深川の

亡^{っ*}夫と住みたる辺りを探す

茅場町門前仲町 木場の名は

夫と住みいし ぬくもりのあり

かつて住みしマンションの五階見上ぐれば

「ヤア」と手を挙ぐ 亡き夫のかげ

かつて住みしマンションの部屋窓いくれば

他人の表札 つめたくかかる

カナダに旅して

秋元 多美子 (氷上町)

夕刻に成田を発ちてジャンボ機は

カナダ目指して一路飛びたり

大陸の横断鉄道ひた走り

行けどもつづくロッキーの山

コロンビア大氷原に立ちていま

氷河時代の氷見つめて

カピラノの溪谷よぎるつり橋に

こわごわ渡るツアーの人々

自然林残るカナダの山々に

野生動物ちらほらと遊ぶ

うっそうと茂りし樹海みどりして

雪をいたたくロッキーの山

広大な土地に花園築きたる

ブッチャード氏の心ゆたけき

西崎祥さんの晴舞台 国立劇場に郷友つどう



昨年九月六日、西崎祥さんがついに国立劇場の舞台を踏んだ。ついにである。柏原から上京し、日本舞踊に三〇年の研鑽を積み、文字通り檜舞台に立った。

花道中央にしずしずとせり上った西崎さん長絹に透立烏帽子の公卿姿、はた目にも緊張が伝わる。阿倍野の月―松虫―の曲、作詞演出は由井宏典氏、名匠藤間寿右衛門氏と藤間勘千代さんが賛助出演し、二〇余名の演奏者もみな第一流。

……月も夜毎に照り増さり 草葉に宿る露の玉……ツツと舞台中央に進み、ターン、ターン、足拍子の冴えた高鳴りが唄・三味線の間を切りさき、扇と衣がゆるやかにあるいはげしく節度をつけて舞い上る。その軌跡はまさしく伝統の美を象徴するかのごとくである。

固唾をのんで見守る郷友の面々、満席のはざまに有田喜一氏、伴仲信次氏夫妻、渡辺金三氏夫妻、その他二・三〇名も来ていただろうか、いずれも恍惚として時を忘れ、万雷の拍手が鳴りやまない。

次の出しものは本朝廿四孝―奥庭狐火の段―。今度はあでやかな女装（写真）打って変ったおやかな身のこなしで、恋人を想う八重垣姫の情熱を舞う。能面のように表情を固め、きめられた動きの中にあらゆる情念を表現しなければならぬ日本舞踊のきびしさ、それを超えて流れるような西崎さんの至芸を目のあたりにして、この舞台こそ西崎さんにふさわしいと見たのは私だけであろうか。

（玄二）

城北オラトリオ合唱団 都市センターホールで

笹倉 強氏（西脇市）日頃郷友会では色々と御世話になりまして有難うございます。過日一二月二一日には郷友会から「メサイア」の演奏会に誠に華麗な花籠をお贈り下さいまして何と御礼申してよいのでしょうか。千余人の来客がその花を香いで入場され、晴々しい気分演奏

を聴いていただいたのではないかと、心暖まる思いをいたしました。

拙ない演奏であつたかもしれませんが、奏者全員は一生懸命演奏していただき、指揮者として満足致しております。でもまだまだ勉強不足を痛感致しております故、尚一層精進致さねばと存じております。本年もまたよろしく御指導下さいますようお願い申し上げます。

有難うございました。(60・1・1)

常岡幹彦氏個展

来年一月・東京セントラルで開催

一昨年、山種美術館、丹波新聞社、東京セントラル絵画館と三回にわたつて意欲的な個展を開いた常岡画伯は、昨年から今年にかけてはもっぱら取材制作に没頭している。奈良は香落溪の曾弥の村、法隆寺、慈光院、新薬師寺、浄瑠璃寺、長谷寺、法起寺、法輪寺、東大寺、等々を描き、丹後は厳冬の日本海、丹波の風

景など、一〇〇号三点、五〇号一八号までほぼ四〇点を描きあげるといふ。

常岡画伯は近年、個展のたびに斬新な心境の変化を見せているが、歳五〇代もなかば、いよいよ油の乗り切る年令である。来年正月の個展にどのような展開を示すだろうか。近年、白と黒を基調にしたあの手法に、どんな彩りが加わってくるだろうか、楽しみである。

▲次回個展▼

昭和六一年一月七日〜一九日

東京セントラル絵画館・企画主催

「山ざる」会

恒例の「山ざる」会が六月八日、銀座のアサヒビアホールで開催され盛会であつた。

参加者は左記三六名(アイウエオ順)足立かをる、足立和巳、足立謙悟、足立誠一、足立正、秋元多美子、上山頭、

小田富士夫、大野善三、岡田一男、梶原清、木村つた江、木呂子恵美子、小谷正己、坂上勝朗、須原清、田中篤郎、田中寛、田原敏男、谷垣正雄、谷口捷、常岡幹彦、鶴田ゆき子、西川政一、西崎祥、波多洋三、伴仲信次、藤田正雄、松山裕、宮野近、村上末吉、山内隆行、山本権一、吉住重造、若森敏郎、渡辺隆男尚、ご返信の中からいくつかを左に掲出します。

足立 徹

脚の調子が良くないので欠席させて頂きます。第一五号の出来栄は美事だと敬服しています。在冥府松山先生も必ずや欣喜していられると存じます。

芦田律子

いつもすばらしい山ざる誌ですが第一五号も又々立派なものが出来上りほんとうに御目出とうございます。故人となられました松山様の記事は味わい深いものが多々あり信念の生き方を五体でしめし

て下さった様に受けとめさせていただき
ました。又たまごの油の作り方は大変嬉
しいプレゼントでした。楽しみにしてお
りました郷友会の皆様とはお別れするこ
とになり今度福知山市小牧へ帰ることに
なりました。有難うございました。ご発
展をお願い致します。

岡林逸男

新緑が目にしみる候、益々ご健勝の段
お慶び申し上げます。本日はご丁重なる
「山ざる」の会のご案内を頂きありがと
うございました。「山ざる」一五号大変
楽しく拝読致しました。誠に残念ながら
五月末より海外へ出掛けますので欠席致
します。ご出席の各位によりしくとお伝
え下さい。

音無太美子

先日は山ざるをお送り頂きましてうれ
しくなつかしく一頁も残さず拝見させて
頂きました。松山様の御逝去は誠に惜し
まれてなりません御冥福をお祈り申し上
げます。かつて私如きに「原稿頼む」と

直接仰って下さったにこに顔が目には浮
びます。拙文載せて頂きましてどうせ下
手なうたながら、

道の端に歩みをとめて腰のばす老いの
姿のわれとなりたり……「姿の」が抜
けております。次の、

腰のばし舞踊に扇持ち立つ……を「舞
の踊」としてあります「の」は不要、
私書いてなかったのですが。

次に本人様に意向聞いていませんが名
簿に氷上郡出身の人をとのことなので、

植田恭代（旧姓井口はつゑ）春日町黒

井出身 大正四年生れ 〒425 焼津市石

津町二一四七 ☎五四六二一四一四六
九八

吉田節子（旧姓田中）春日町黒井出身

〒341 三郷市彦成三一一四一二二〇三
☎四八九一五八一四八九八

笹倉 強

「山ざる」第一五号、「山ざる」の会の
御通知ありがとうございます。実は六
月一五日、渡米を前にしてコンサートを

開きます。仲々の難しさの中を行ないま
すので、時間が作れず当日は欠席させて
頂きます。皆様によりしく、御盛会を御
祈りします。

関東氷上郷友会

昭和六〇年度 新春役員会

昭和六〇年度の新春役員会は、二月七
日午後六時より八時まで・日本橋精養軒
において行なわれた。

出席者は左記の二八名（敬称略）であ
った。

有田喜一、西川政一、伴仲信次、村上
末吉、渡辺隆男、須原清、萩野武、藤
田正雄、西山敬次郎、足立和巳、常岡
幹彦、西崎祥、田中篤郎、吉住重造、
足立正、芦田重秋 宮野近 上山頭、
坂上勝朗 谷垣正雄 小田富士夫、山
内隆行、田中寛、若森敏郎、足立源治、
鶴田ゆき子、波多洋三、満浦謙之

渡辺副会長の司会で先ず伴仲会長より新春の挨拶と昨年十一月に行なわれた「氷上郷友会米寿の会」の成功に謝辞を述べられた。又「氷上郷友会青年部・婦人部」等の創設を提案され、今後役員会で協議したい旨の表明があった。

つづいて有田名誉会長の乾杯の音頭の



後議事に入った。

「氷上郷友会米寿の会」の実行委員長であった渡辺副会長より「米寿の会」の会計報告、又山ざるの進行状況があった。出席者が昨年よりも多く、それぞれの話に花が咲き、活気に満ちた会であった。

(写真は二次会の若者?たち)

柏中第四八期生同期会

昭和六〇年一月一七日、表記同期会を東京青山の「動燃青山」で行いました。

我々は中学三年の時に終戦を迎え、又その二年後には学制改革で新制の高校が発足し、その第一期生でもあります。現在東京地区には一八名おりまして、今回は左記の一名が集まりました。

各自の自己紹介の後、酒を交しながら歓談しましたが話題はやはり戦争末期の苦しかったころの思い出が中心です。鐘ヶ坂の山奥まで毎日炭焼きに行ったこと、

学校にベアリング工場が出来て動員にかり出され二直交替でしぼられた事等話は尽きません。

今後は少なくとも年に一度はこの会を開くことを約束しました。(写真左より)

前田和秀、常岡幹彦、田中篤郎、神田敏博、水船隆昌、梅田重二、大垣忠男、小笠勝啓、鶴田宏、山本権一、池上亘泰



囲碁同好会の報告

五九年度は、例会を三回催しました。対戦成績は別表の通りです。ご参考までに各人の段級位を入れました。なかなかの打ち手揃いで充実した同好会になったと自負しています。年度中の新参加は、

* 左勝、右負

	段級	4/14	7/14	12/22
源正川	五	—	2—2	1—2
立川	四	3—3	6—2	3—2
足石	四	—	—	3—2
奥川	二	—	—	2—2
川上	五	2—3	4—1	—
坂上	初	—	3—4	1—3
坂上	三	—	—	3—0
勢谷	三	—	—	1—2
中井	四	4—1	—	2—0
永新	二	—	—	2—3
藤島	六	1—2	—	1—4
前川	二	1—3	3—4	3—1
前川	三	4—3	2—5	2—3
松三	二	4—4	5—3	2—5
	1級	—	2—3	—
	三	—	3—2	—
	六	—	2—2	4—1

奥原、石川、前川(弟)、松山二世の各氏。久々の参加が、坂上(弟)、勢川、中井の各氏でした。会員中の同好者はまだかなり居られるので新人のご参加を望みます。ご希望の方は足立正までご連絡下さい。

ゴルフ同好会報告

五九年度のゴルフ同好会の成績を御報告致します。

本会も回を重ねて満四年となりました。会員総数四八名、一回コンペに参加した方四一名、延べ参加人数二六三名の多きに達しました。

最近の成績(入賞のみ)

第15回	59・4・24	湘南C C
1位	神田敏弘	2位 松下文雄
3位	渡辺貴美子	B B 岡林京子
第16回	59・6・22	府中C C
1位	佐々木宏	2位 川畑明光
3位	広瀬五男	B B 足立正

第17回 59・9・13 長竹C C

1位 川畑明光 2位 水船隆昌

3位 神田敏弘 B B 松岡昭宏

第18回 59・12・7 300 C C

1位 田中篤郎 2位 岡林逸男

3位 中井良平 B B 足立正

以上

柏高第七回卒業

三〇周年記念行事

親善ゴルフコンペ

日時 四月二十七日(土)

午前八時五〇分集合

場所 山南カントリークラブ

午後五時より表彰式・パーティー

イ

三〇周年記念同窓会

日時 四月二十八日(日)

受付 午前一〇時から一〇時五〇分

まで柏原高校で

記念撮影会 午前一一時から柏原高

校で、終了後バスで式典会場

に移動

記念式・パーティー 午後一二時半

から午後四時 円応教修練場

(四階)で

会費 一〇〇〇〇円

柏陵同窓会東京支部

総会のおしらせ

関東在住（新潟県・愛知県以東の地域）の県立柏原中等学校、同高等女学校（いずれも旧制）同高等学校の卒業者で組織されている柏陵同窓会東京支部は、この秋で発足三〇年を迎えることになりました。

現在同窓会支部会員名簿には約七〇〇名の人達が登録されておりますが、発足当時は二三〇名。支部結成発起人には、芦田均（元首相）秋山徳三郎（元陸軍中將）などのお名前が並んでいます。第一回総会は昭和三〇年一〇月二七日（木）、

芝公園内の郵政会館で開かれ、母校からは植杉校長、本部から植木会長の出席を得て、旧職員、会員、学生あわせて六四名の出席があったと記録されています。事務局の労をとられたのは、八八周年記念総会において祝寿を受けられた上山顕氏で、四八年に村上末吉氏に引き継がれるまで、お世話いただきました。

村上氏は五八年までの一〇年間、赤字財政と闘いながら、会運営を支えて来られました。が、会員名簿の整理、会費徴収、通信事務など実質上の会務は奥様のご奉仕によるところが大きく、改めてお礼申し上げます。

因みに初代支部長は芦田均氏、二代目は秋山徳三郎氏（いずれも故人）三代目は有田喜一氏（現支部長）です。

前置きが長くなりましたが、恒例により、支部総会を左記の通り行います。結成三〇年の節目に相応しい会にすべく、挙ってご参集くださいますようお願い致します。

記

日 昭和六〇年七月一三日（土曜日）

時 午後一時より

所 九段会館

※詳細は、改めてご通知を差しあげます。お問い合わせは、293—二九六一
内線二九〇 坂上まで。

以上

兵庫県人会だより

兵庫県人会では、毎年秋に総会、懇親会、物産展、ふるさとツアー……などを行っています。三年前には新宿のホテルセンチュリーハイアットで、一昨年は東京駅の大丸で、昨年は渋谷の東横ホールで、それぞれ行事が催されました。

関東に在住の兵庫県人には一年に一度、郷土の近況を知るいい機会であると思います。私は昨年で連続三回出席し、多くの県人の有識者を知ることができたこと

を喜んでいきます。われらが伴仲会長も、世話役として活躍されたり、対談にも出ておられます。季刊「ひょうご」では女流陶芸家の可部美智子さん、日本画家の常岡幹彦さん、ディーゼルの足立和巳さん

……等のエッセイが紹介されていて親しみを感じます。
関東水上郷友会の皆さんも、年に一度ぐらいいは、「オール兵庫」の立場から丹波を考えてみる機会を持たれてはいかがでしょうか。

なお、入会を希望される方は左記まで。

〒102 千代田区平河町二一六―三 都道府県会館内 兵庫県東京事務所

〇三（二六一）四二六六

満浦謙之さんか打越信男さんへ

（宮野）

関西水上郷友会第七五回

総会で田季晴氏が

第六代会長に就任

関西水上郷友会は昨年十一月八日、大阪厚生年金会館で第七五回総会を開き、来賓二一名、会員六五名が出席した。

当代会長は荻野益三郎氏（弁護士・元大阪高裁長官・八六歳・青垣町出身）で

あったが、五十九年三月死去のため、副会長であった田季晴氏（初代会長・田艇吉氏の本家筋）が推されて第六代会長に就任した。なお関西水上郷友会の歴代会長は、田艇吉、有田邦敬、上田要、永井幸太郎、荻野益三郎氏の諸氏であった。

また当日は水上郡内の小・中学生の絵画優秀作六四名を表彰、会場に展示して観賞、うち七点をカレンダーに印刷して郷里へ寄贈、柏原ボーイスカウトに野外用テントも贈ったという。

丹波の祭典を成功させ…二世

紀の丹波を創造するため…

郷友会の皆さまのお知恵を!!

兵庫県では、全県緑化運動とあわせて、地域活性化のための施策を次々と打ち出しています。

今年は、四月二一日（日）～八月三一日（土）の一五〇日間、「くにうみの祭典」



が淡路で、また「ユニバーシアード」が神戸で開かれます。その他、「北播磨テクノポリス構想」、さらには、丹波・但馬と神戸をヘリコプターで結ぼうという案まで出ています。

ところで、六三年には百億円を投入し、「丹波の祭典」が計画されています。当然、丹波各町を主体に商工会・青年会議所・産業界など、住民全体にまで輪を広げた幅広い祭典を予定しています。

さて、関東在住の郷友会の皆さん!! 二一世紀の新しい丹波を創造するためにはどうすればよいか今年一年間、丹波と共に考えてみようではありませんか。丹波を活性化するためのアイデアなど、どしどし事務局までお寄せください。

大納言小豆考

丹波黒豆黒ダイヤ、大納言小豆は赤ダイヤなどと新作民謡も生れて来そうなほ

どに、このところ、評判急騰のわが丹波原産の豆でもあります。かつては「丹波は山奥の代名詞」とまで教科書にも書かれたほどの寒村地帯に、どういう風の吹きまわしか、中央からのスポットが当てられ、たいへんなにぎわいようですが、そろそろニセものもあらわれだしたとのウワサも出ていますから、購入の際は産地直送システムを利用されるのが安全かと思われまふ。

それはさておき、大納言小豆の品名由来について、春日町農業協同組合井上四郎組合長より、楽しい文献をいただきました。現在春日町にて生産される大納言小豆の販路は、法人需要が優先で、個別販売については今後の課題となっているようですが「綿花の栽培衰微後（生産量が）減少していましたが、スイートコーン（栽培）の導入後、その跡作々物として小豆栽培を取り入れ、五九年集荷量約三トン（二三〇石）にまで生産を回復することができました」（井上氏のおたより

から）ので、やがては個人需要にも応じられるようになるのではないかと考えられます。

さて、この小豆になぜ大納言という名が冠せられているのかについてですが、諸説あつてきめてとなるものはなさそうながら、「宝永二年領主青山下野守（当時亀山藩主）本郡国領村東中（現春日町東中）に産する小豆は他に比類のない優秀さを賞揚し、特に庄屋に命じ精選種を納めしめ、更にその内より特選して幕府に献納す。幕府はその幾分を京都御所に献ず。是れ即ち小豆献納の起源にして明治維新に至るまで継続する。京都御所も多くの特長をもった小豆を賞味し、『大納言は殿中で抜刀しても切腹しないですむ』ところから煮ても腹の割れないこの小豆を『大納言』と名づけたといわれている」（春日町農協、大納言小豆のしおり）のが、いちばん有力なものようです。ほかに、原産地が尾張愛知郡であるところから、尾張徳川氏の官位大納言にあや

かったものとか、その形が公卿の烏帽子に似ているからというものもあるようです。

いずれにしても昔のひとは、なかなかの知恵者で、洒落も一流。

春日町農業協同組合のご協力に感謝します。
(坂上記)

丹波の四季をいかが

柏原町農協が会員制の領布会

近ごろはなにかにつけて自然への回帰志向。産地直送のおらがいなかの素朴な味に、都会暮らしの人達の関心が集まっています。過る八八周年記念総会にも郷土物産の一部をあっせんして好評を得ました。

こうしたことに鑑み、編集部では郡内六農協に特産品領布についての資料提供を依頼していましたが、柏原町農協から「ふるさと丹波の四季会員」のご案内をいただきましたので、こゝに紹介いた

します。

「ふるさと丹波の四季会員」とは、霧深い、丹波の自然が育んだ特産物を会員の方々に、四季折々の旬の味、つくりたての味をそのまゝお届けする事業です。

会員には私達の町出身の方に限らず、丹波にゆかりのある方、ふるさとの味と心を楽しみたい方、特産物をお求めになりたい方、どなたでもなることができます。バラコース||三万円、サクラコース||五万円のいずれかの会費を納めていただきますと、ふるさと丹波の四季会員として登録し、(中略)コース別メニュー表に記載された特産物をお届けいたします。なお、お届けする産物の品質と鮮度を保つため、会員となっていたゞける地域を(柏原町を出荷)翌日配達可能地域に限らせていただきます(現在では東京及びその近郊までが限界かと思われまゝ||編集部注)。(ふるさと丹波の四季会員のおさそいより抜粋)

会員への特典は、希望コースの特産品

サクラコース 50,000円

バラコース 30,000円

12月

丹波山の芋・丹波黒大豆・丹波さる酒・干し柿・鍋もち・切りもち
生しいたけ・しめ飾りユズ

丹波山の芋
干し柿・切りもち
生しいたけ・しめ飾りユズ

2月

ぼたん鍋材料
(猪肉・生しいたけ・春菊・ネギ)
(ゴボウ・人参)
地酒(しぼりたて)・かきもち

ぼたん鍋材料
(猪肉・生しいたけ・春菊・ネギ)
(ゴボウ・人参)

6月

アマゴ煮・丹波漬
番茶・新ジャガイモ
新玉ネギ

丹波漬
番茶・新ジャガイモ
新玉ネギ

8月

丹波山の芋入そば
トマト・ナス・キュウリ・カボチャ
青トウガラシ・枝豆・スイートコーン
マクワウリ・さんしょ漬

丹波山の芋入そば
トマト・ナス・キュウリ・カボチャ
青トウガラシ・枝豆・スイートコーン
マクワウリ・さんしょ漬

10月

丹波松茸・丹波栗
丹波米・土しょうが・里芋

丹波栗・丹波米
土しょうが・里芋

を送るほか、機関誌「ふるさと」、お中元お歳暮用品の特別コース案内などの提供、柏原町での宿泊二〇パーセント割引、山菜摘み、芋掘り、稲刈りなどの催しへの参加など、盛沢山のものが用意されます。

サクラコースには、山のダイヤ松茸も入っており、食卓の話題も一段と弾むことでしょう。

会のサイクルは年十二月から翌年十月まで、領布回数は五回となっています。

申込み締切りは十一月末日。お問い合わせ先（資料請求先）は、左記の通りです。

〒669―33 兵庫県氷上郡柏原町柏原一一

二 柏原町農業協同組合ふるさと丹波の四季係

☞〇七九五七―二―一一〇八
※因みに本年度のコース別メニューを掲載しておきます。次年度も基本的には変らないそうです。現在会員数約五〇〇名。

（坂上記）

柏原農協から

最近、全国各地で田舎の特産物を都会の食卓へ届ける「ふるさと宅急便」がブ

ームを呼んでいます。私たちも五八年から「ふるさと丹波の四季」と名付けて会員を募り、四季折々の丹波の特産物をお届けする一方で、会員の方々を柏原へお招きし、史跡巡りや、山菜摘み、芋ほり、栗ひろいなどで交流をはかっています。

米の生産調整や、農産物の輸入自由化などにより、農家が失いかけている農業への希望を取り戻し、町の活性化を図るために始めたこの事業も二年目を迎え、毎回多くの会員の方々から、喜びと励ましのお便りをいただいています。

先日、大阪に嫁いで二〇数年になる主婦の方からお便りが届きましたので、その一部をご紹介します。

『この一年は、毎年毎年一つの繰り返しの一年とは随分と違って、楽しさが五倍にも増した一年でした。丹波柏原に生まれ育って二〇数年、大阪に来て二〇数年、これほど丹波を懐かしく思ったことはありませんでした。』

四季折々の特産物を見るにつけ、我がふる里柏原を見直し、大きな勉強もさせていただきました。

ふる里便が届くと、その度に子供の頃が頭いっぱい浮んできました。

緑豊かな山々、子供のころよく遊んだ天神さんや、八幡さん……。

子供たちも私の小さいころの話を楽しそうに聞いてくれて、いつまでも話は尽きません。

忙しい仕事の都合で、山菜摘みや、サツマ芋の植え付けなどの行事には一度も参加できませんでしたが、丹波新聞を見て、うらやましく思ったのは私たちだけではなかったと思います。』

お手紙はまだまだ続きますが、紙面の都合で省略させていただきます。私は、このお手紙を読ませていただいて、ふるさと丹波を懐かしく、誇りに思っておられることを感じるとともに、私たちにあって、ふるとはあまりにも身近すぎて、今まで気付かなかったことを教えていた

だくことさえあります。

また、都会で生まれ育ちふるさとを持たない世代の方々までが、丹波に愛着を持っていただけることを知り、私たち農協が、ふるさとの豊かな自然や澄みきった清流を大切に守りはぐくみ、次の世代へ引き継がなければならないことを痛感しております。

柏原町農業協同組合
組合長理事 荻野武

出版

『但馬・丹波・淡路風土記』全三巻

A4判四〇〇ページ・定価二二〇〇円

兵庫県教育図書販売株式会社刊

本書は『播磨・摂津風土記』につぐ第二集として、昨年十二月に刊行された。

「歴史と人物」「美しいふるさと」「年

表」「文化財一覽」の三巻で構成された豪華な美本である。歴史上の人物や事件が四〇市町（丹波地方は柏原・氷上・青垣・春日・山南・市島・篠山・西紀・丹南・今田の各町）ごとに、それぞれの文化財、祭、芸能や風土、郷土料理などを、美しいカラー写真とわかりやすい文章とで紹介している。

「丹波の歴史と人物」では車塚古墳と八木契三郎、野々間遺跡と七日市遺跡、三ツ塚廃寺跡、大山荘と中沢基員、大國寺と丹波茶、石龜寺と足利氏、ハッ子大夫と丹波猿樂、丹波三嶽の修験道、達身寺と仏師たち、高源寺と弘厳和尚、古丹波と立杭焼、八上城と波多野秀治、黒井城と赤井直正、篠山城跡、柏原陣屋と田捨女、夜明けの人々など、いずれも興味深い題材である。「年表」は原始時代から現代までの歴史の流れを一覧できるような豊富な写真をそえて編集、「文化財一覽」も建造物、絵画、彫刻、工芸品、墨跡、考古資料、有形、無形文化財等に分

類して詳しい。

編集・執筆には郷土史家を含む五四名の専門家があたり、それぞれに健筆をふるっている。お申込みは左記へどうぞ。

神戸市西区王塚台一―五五・兵庫県教育図書販売株式会社・電話（〇七八―九二七―二三五八（代）

谷垣正雄著『時の流れに』

A5判一六三ページ・私家版

一昨年、日中事変回想記『水と兵隊』を出版した著者の、これは第二篇。副題に『梵久良人生前半記』とあるように、日露戦争の翌明治三十九年、柏原町大新屋に生まれた著者が、前半生四〇年間を回想する克明な記録である。

谷垣姓の由来、祖父母の思い出から筆を起し、小学校時代、中学校時代、神戸高工時代、大倉土木入社、入営、応召、日中事変、大東亜戦争、被爆、終戦、帰郷……と、赤茶けたアルバムを眺め、日

記・資料をひもときながら、昨日のことのようによみがえる記憶を、印象を、心境を、そのままトットツと語っている。

夢多き青春の情熱を苛酷に流し去る戦争の宿命、すべてが破壊され、無一物で投げ出された敗戦の日々、それにもめげず再起をめざす一丹波人の行きついた心境は、人の行く裏に路あり花の山の一句であったという。

私のように各地に転住、晩年になって東京を定住の地とし、身内や墓地まで移した者の子孫にとつて、丹波は無縁の土地となる。いろいろな幼時の想い出を持つ友人知己と語りあう何事もないことは淋しいことと思われる。そのために、できるだけわかつていることを書き残すことは、私達世代の責任である。と前書きして、谷垣氏は目下続篇の後半生、『今ふりかえる』を執筆中とのこと。

本書をご希望の方は、杉並区高井戸西一―二四―一七・谷垣正雄氏宛お申込み下さい。

△兵庫ふるさと散歩13 V

たんば歴史のみち

岡本丈夫著・伊藤太一絵地図

新書刊一九四ページ・八〇〇円

第一部・巻頭の四〇ページほどを「絵地図で歩きたんば」として、丹波各地の名所旧跡をイラストで見せ、道路や目印を付してわかりやすく案内する。

第二部が「歴史を歩きたんば」で、篠山町、今田町、丹南町、西紀町、柏原町、山南町、春日町、市島町、氷上町、青垣町に分け、それぞれの名所旧跡をカット写真入りで説明する。ポケット判、丹波観光ガイドといった小冊子である。

寄付金

自昭和59・1・1
至昭和59・12・31

●明治生命氷上会代理店手数料

五〇〇〇〇円

●渡辺隆男殿

二〇〇〇円

●千種倫幸殿

一四〇〇〇円

●田 英夫殿

一〇〇〇〇円

●堀井隆川殿

一〇〇〇〇円

●梶原 清殿

一〇〇〇〇円

●村上大憲殿

六〇〇〇円

●西山敬次郎殿

五〇〇〇円

●斎藤陽子殿

二〇〇〇円

合計

五七七〇〇〇円

会費領収報告

自昭和59・1・1
至昭和59・12・31

●59年度分まで 足立高彦、足立俊亮、田村克典、十倉忠司、安井三義、横田公子、吉田勇司、久安敏夫、村上忠紀、足立明子、芦田あつ子、芦田昇吾、岩村文子、鴻谷喜代治、久石幸太郎、本田みさ子、足立正、足立眸、足立元美、芦田重秋、芦田坦、天野清子、石田勝彦、有田潔司、有田毅、井上陽一、生田正輝、池

上忠志、石田修三、石田専太郎、泉審子、岩曾豊明、上村邦子、鶴沢洋子、上田三四二、上田譲、上山頭、植木伍鹿、大岡弘、小田茂、小川敏、織田信和、大竹博美、大槻作治郎、大西修三、岡洋子、岡吉明、岡原裕泰、荻野勲、山本一志、荻野一雄、荻野吟逸、荻野泰次、荻野武、影山朱実、河本幸子、兼田和憲、川見千恵子、木下清史、岸田勇、北山素純、久下重子、久保豊、河野正美、小西保、小谷崇、佐々木良作、近藤田治、佐藤菊子、斉藤要、坂本正幸、酒井重男、杉上能章、祐安夏恵、塩見つるゑ、須原逸郎、菅野きぬゑ、勢川雅弘、勢川真澄、田中省三、鈴木恒子、田原敏男、勢川武彦、荘克衛、荘正衛、田中茂雄、田中憲雄、高木幸子、高桑良弥、高野康慶、谷達雄、千葉和子（平塚市）、千葉和子（横浜市）、谷垣博、田敏夫、東後一美、東郷茂、豊島昭男、羽賀澄代、萩原庸三、橋本俊宏、平野淑子、松山裕、松本金吉、待場康平、森田宏、宮城あい、最上次郎、百木雅崇、山

岸幸子、山田八重子、山本権一、山中一郎、山本八重子、義積保、小寺逸八、広瀬すがの、西山敬次郎、足立源治、綾木健、有田興司、井本義一、大江範子、大西三鈴、岡本庄太郎、下中昭男、高見安亮、堂本修、宮野近、矢本博一、安田喜代子、横溝初子、渡辺久子、春日町役場
◎60年度分までⅡ足立勝、高橋博子、高橋通也、畑穰、阿江ひさ子、生田清弘、上田正己、尾松滋友、大石佐代子、奥原隆、加藤信太郎、梶浦浩二郎、貴志典子、岸本真輔、北村貞子、久米裕、小西寛明、児玉安正、田中寛、常岡千紗子、鶴田宏、堂本晃、中村正之、林谷集、東田実、福井謙三、藤田千春、藤田正雄、船越祥郎、堀井隆川、松本栄二、村上良男、村上昇、村上久夫、吉住重造、上村愛子、片岡恭子、木村つたゑ、須原清、西垣秀正、藤原岩市、藤原ふみ子、松枝勝、宮本はるゑ、足立真一、荒木司郎、大西泰子、久保田元子、豊島幹雄、
◎61年度分までⅡ柿原陽、木寺昭三、大

地富美子、永井希代子、能勢次郎、石倉軍二、植木英吉、池上碩郎、神野妙子、足立忠三、上野重喜、大垣忠男、岡林逸男、小糸イキ、近藤勇、清水正男、相田廣子、田健一、中井良平、西畑建一、細見英介、本部真之、南勝行、由良八朗、小野智恵子、大西俊治、安原三智子、若栗すぎ子
◎62年度分までⅡ安達陽一、正呂地群治、足立治、足立謙悟、足立順治、神田敏博、常岡昭、広内光正、小林剛、西尾久之、前田和秀、森田節子、渡辺隆男、渡辺貴美子、
◎63年度分までⅡ大野善三、梶原やす子、梶原清、小谷正雄、田英夫、井上和三、坂本重雄、
◎64年度分までⅡ大木正徳、近藤哲夫、村上豊、菱田ふみ子
◎65年度分までⅡ足立誠一、秋山一男、斉藤陽子、中川四郎
◎66年度分までⅡ足立徹
◎68年度分までⅡ片山日幹、千種倫幸

昭和58年11月11日

会 計 報 告 書

(昭和58年10月1日～昭和59年9月30日)

関東永上郷友会
会計理事・足立和巳

収 入 の 部			支 出 の 部		
科 目	金 額	摘 要	科 目	金 額	摘 要
繰 越 金	1,618,971	現金15,190円 小切手20,000円 定期預金1,460,015円 振替貯金123,766円	出 版 費	1,104,250	“山ざる15号” 製作および発送代
年会費収入	451,000	延 209名	通信・印刷費	241,768	総会通知発送代 88周年発起人依頼状等発送代
総会費収入	165,000	33名	総 会 費	284,288	於 “竹橋会館”
役員会費収入	110,000	22名	長 寿 祝 費	87,000	祝品75,000円 花束12,000円
編集会費収入	175,000	35名	会 議 費	395,805	役員会127,515円 88周年委員会32,000円 編集会議175,000円 他
寄 付 金	315,000	延21名	慶 弔 費	0	
広告料収入	488,000	延53件	支払手数料	10,820	郵便振替手数料
受取手数料	500,000	明治生命代理店手数料	消耗品費他	16,200	丹波新聞新年広告、ゴム印代
雑 収 入	57,206	預金利息	繰 越 金	1,740,046	現金109,452円 定期預金1,072,643円 振替貯金547,951円 普通預金10,000円
合 計	3,880,177		合 計	3,880,177	

88周年総会 特別会計報告

60年1月31日

収入の部			支出の部		
科目	金額	摘要	科目	金額	摘要
大会費	609,000	203名	総会費	1,675,010	九段会館
学生会費	18,000	9名	会議費	102,720	摩天楼, 今清他
来賓祝儀	158,000	14名	長寿祝品	68,710	伊万里焼, 小沢生花
寄附金	1,923,000		賞品代	61,900	カラーTV, カメラ
物品販売代	80,900		丹波物産代	150,700	山の芋他賞品及販売分
額縁販売代	22,500		記念品代	149,500	色紙
			額縁代	80,000	来賓贈答及販売分
			通信印刷代	363,300	案内状, 発起人名簿印刷送付
			消耗品費	3,580	模造紙, 筆他
			一般会計繰入	155,980	
合計	2,811,400		合計	2,811,400	

監査の結果上記の通り正確なることを認めます 2月12日 吉住重造

住所変更

電話番号の
変更を含む

足立鐘平 〒186 国立市東三―一六―二〇
足立源治 〒176 練馬区豊玉上一―一堤マ
ンション五〇四
足立誠一 〒248 鎌倉市手広字峰四五七―
一
足立政繼 〒229 相模原市二本松二―一二
―九 ☎〇四二七―七四―五五七〇
足立護 〒105 港区南青山七―四―二
(一五号名簿には足立譲となっていま
す。ご訂正ください)
足立三義 〒236 横浜市区金沢区富岡西五―
四二―二五
秋山一男 〒185 国分寺市日吉町一―四四
―一六 ☎〇四二五―七七―三七八三
大島信子 (旧姓高見) 〒274 船橋市大穴
六〇四―一八二
岡田一男 〒530 大阪市北区芝田二―一―

一八

桑谷曉円 〒980 仙台市錦町一―一〇―一
〇メゾン仙台七〇九 ☎〇二二二―六
二―四四五四 住友商事仙台支店 ☎
二二二―六二―一三三一 (単身赴任・
留守宅は不変)
小山清子 〒233 横浜市区港南区港南台四―
五―二二―二〇二
古藤 一 〒238 横須賀市平作二―一三―
一
田村 豊 〒301 竜ヶ崎市古城三一八五―
一
竹内恵美子 (旧姓村上) 〒160 新宿区高
田馬場二―一四―八
千種 昭 〒144 大田区本羽田三―二―一
一六デック東多摩川一―六〇―一 ☎七四
三―九七五四
徳田八郎衛 〒272 101 浦安市富岡二―二
―一九―四〇四 ☎〇四七三―五一―七五
六七 防衛大学校教官 ☎〇四六八―
四―一三八一〇
西村忠明 〒260 千葉市磯辺四―一九―一

原 功 〒538 大阪市鶴見区横堤五―五―

三六―三二二

原田紀子 (旧姓田中) 〒203 東久留米市

本町一―一〇―五

細見進 〒227 横浜市区緑区市ケ尾五三四

―二〇 ☎〇四五―九七九―九三一六

本庄 暁 〒182 調布市柴崎二―一三―三

―B―五〇四

本庄 悟 〒247 横浜市区戸塚区尾月一七―

八

前田 亘 〒136 江東区南砂七―二―六―

四〇四 ☎六四五―八六六八

松本栄二 ☎〇四二九―四四―〇七九二

八木重光 〒980 仙台市三百人町一―七青

葉ハイツ五〇二

山内健次 〒281 千葉市長沼一八五―一五

新 会 員

※は前号記載もれ

※足立敦子 (昭20柏原町) 〒024 北上市有

田町五—二 〇一九七—六四—〇五
〇五

※足立 眸 〒272—01市川市田尻四—一

四—一三朝倉商事社宅三〇—一 〇

四七三—三二—七三三

足立吉雄 (氷上町石生新町) 〒270—14

千葉県印旛郡白井町堀込一七—一七—

六〇四 〇四七四—九—二七七七

チッソ朝日肥料㈱福岡支店 〇九二

—七七—四五三—

吾孫子岩身 (氷上町柿柴) 〒259—13秦

野市堀西三六八—一 〇四六三—八

七—一六七〇 日本インターナシヨナ

ル整流器㈱ 〇四六三—八二—一

—一内二八二

青木 潤 (昭19市島町中竹田) 〒112文

京区大塚六—二六—八—三四— 兵庫

県東京事務所 〇二六—四二六六

赤松義明 〒158世田谷区奥沢六—三—一

—一自由ヶ丘パインクレスト二〇二

〇七〇—二—五四四四 大阪銀行東京支

店 〇二七三—一〇二—

芦田一郎 (氷上町) 〒227横浜市緑区た

ちばな岡二—五—一四 〇四五—九

六二—四二九五 塩野義製薬㈱ 〇

四五—三一—五八二—

芦田 浩 〒227横浜市緑区鴨志田町八〇

六—一七

芦田昇吾 〒561豊中市豊南町東二—六—

四 〇六—三三四—二四四〇 豊済

会小曾根病院(留次氏遺族)

荒木和之 (市島町梶原) 〒190立川市幸

町五—九六—一五 〇四二五—三五

—四四〇九 三菱銀行本店国際営業部

伊藤まち子 (旧姓木下 昭和12市島町)

〒356上福岡市福岡一六〇七 〇四九

二—六三—〇二—

池上忠志 (昭9氷上町石生) 〒270—01

流山市松ヶ丘—一四五五—七—二三二

第一生命

磯尾 元 (昭14柏原町) 〒215川崎市麻

生区百合ヶ丘二—二—三 〇四四—

九五四—五二四二 つくばクリーニン

グ 〇四四—九五四—六三九五

※市原このゑ (旧姓芦田 明 36市島町

下竹田) 杉並区下高井戸四—四三—二

一伊藤澄磨方 〇三二九—二〇三三

岩井 要 〒213川崎市宮前区菅生二—一

〇—二 自衛官

岩本順一 (昭15柏原町室谷) 〒235横浜

市磯子区東町一八—三二ソフトタウン

根岸二—六〇四 〇四五—七五五—

二九四六 セノ(㈱西関東支店) 〇

四五—六四—一八三五三

植田恭代 (旧姓名井口はつゑ 大4春

日町黒井) 〒425焼津市石津中町二—

四七 〇五四六—二—四—四六九八

打田宏志 (氷上町) 〒270松戸市二ツ木

一六七〇 〇四七三—四四—二九八

四 東芝本社 〇四五四—七—一内

線二八—一九

小川 敏 〒310水戸市元吉田一本松二八

五 〇二九二—四七—六六六四

大木健次 (山南町谷川) 〒275習志野市

袖ヶ浦四—一九—六 〇四七四—五

三—〇七八二 クボタ鉄工㈱

大木美美代 (山南町谷川) 〒275 習志野

市袖ヶ浦四一九一六 ☎〇四七四一

五三〇七八二

大島喜好 (氷上町) 〒257 秦野市皆屋六

八〇一三 マルヒロ商店 ☎〇四六八

一八二一四三〇〇

大塚秀弐 (昭15氷上町市島) 〒374 館林

市成島一七二一〇二 ☎〇二七六一七

四一〇八二 大利根町教育委員会

☎〇四八〇一七二一五四八八

岡田昌子 〒154 世田谷区下馬二一〇一

一二〇一 ☎四二二一八二二四

荻野美穂子 (市島町白毫寺、小学校四年まで柏原町に在住) 〒107 港区赤坂七

一五—四九一〇五 ☎五八九一五三

五六

笠島友美 〒168 杉並区浜田山一—二八—

二三 ☎三〇四一—三八七

河内一郎 (昭16春日町多利) 〒189 東大

和市奈良橋二—三五六—二九 ☎〇四

二五—六五—六五一五

小口貢子 (昭13柏原町) 〒177 練馬区西

大泉一—二六—六

小西寛明 (昭19春日町松森) 〒176 練馬

区豊玉中四—一二 国際電々練馬社宅

三—四〇五

佐伯盾比古 (昭14春日町黒井) 〒174 板

橋区坂下二—四—五—五〇二中銀マン

ション 佐藤産業㈱ ☎八一四—七八

三一

斉藤英和 〒274 船橋市高根台七—一七—

二

塩見五夫 (昭13青垣町) 〒168 杉並区方

南町二—一〇—A—一〇四

洪江澄江 (旧姓梅垣 柏原町古市場)

〒359 所沢市緑町二—一四—四第一火災

社宅四F ☎〇四二九—二五—二二二

〇

祐安夏恵 (旧姓足立 昭2氷上町井中)

〒112 文京区小日向四—二—九 ☎八一

二—三六五七 ㈱明和代表取締役 ☎

八八四—五一六五

鈴木智文 〒430 浜松市旭町一—一法雲寺

☎〇五三四—五四—一〇四一

勢 正彦 (氷上町石生新町) 〒280 千葉

市小倉町一—七六—一 ㈱日本航空

関 裕三 (旧姓佐伯 昭14春日町黒井

仲町) 〒197 秋川市瀬戸岡二—一—七

☎〇四二五—五八—三八二四 日本電

信電話(株)日野電報電話局 ☎〇四二

五—八一—二九九一

田辺光平 〒140 品川区北品川三—六—一

三北品川サンハイツ—三〇五 大沢商

会自動車用品部課長 ☎四五五—六一

一—

田村恒俊 (柏原町) 〒332 川口市飯塚二

一—九—七—二〇三 ☎〇四八二—五五

一—八三—三三 昭和ローディア ☎四三

一—八七八六

高見忠義 (春日町) 〒165 中野区新井三

一—〇—二—一〇三 法務省 ☎五八

一—五—一—(内)二七一—

竹内 健(氷上町) 〒180 武蔵野市吉祥寺

東町二—四—二七 ☎〇四二—二二—

七六五六

谷口浩章 〒227 横浜市緑区田奈町一八—

二九 〇四五—九八三—二四六四

日本長期信用銀行 〇四五—二一一

—五一—(内)四〇五一

仲 一 聡 (昭15山南町) 〒177練馬区石

神井台四—三—二四扇山ハイッス〇三

中江悦子 (旧姓梅垣) 〒173板橋区小茂

根一—八—一三 〇九五八—六四六〇

中村睦子 〒180武蔵野市吉祥寺東町二—

一三—六ビラ吉祥寺一〇五

長尾貴美代 (昭7氷上町上新庄) 〒187

小平市喜平町三—八—二一四

長尾幸男 (氷上町成松) 〒242大和市西

鶴間八—四—八 〇四六二—七四—

六一—二 東芝府中工場 〇四二三

—六六—一—(内)二六七〇

西田寿夫 (昭25青垣町) 〒227横浜市緑

区青葉台二—三—二〇 ヨーポ青葉二

〇二

船越昭紀 (氷上町) 〒336浦和市太田窪

三〇二〇—一 和気産業 〇四八八

—六四—一四一—

細見順昭 (山東町) 〒192—03八王子市

堀之内四〇小柳荘二—二 〇四二六

—七五—五九八九 西山事務所

増井 攻 (山南町) 〒231横浜市中区本

牧元町三六七—一サニウエル三溪園

二〇二 〇四五—六二二—四五二三

海上自衛隊技術本部 〇四一一—〇一

五—(内)六一八

松本 譲 〒222横浜市港区太尾町一—〇

—五大倉山シユロス七〇九 〇四五

—五四二—六五七五(金吉氏遺族)

水谷正寛 (昭26) 〒257秦野市東田原二

〇〇—八〇 〇四六三—八二—三四

五三 食品薬品安全センター秦野研究

所

宮 和子 (旧姓佐々木 青垣町) 〒356

上福岡市大原二—四—三四 〇四二

九—六二—二八七七

向笠悦子 (旧姓多田 春日町) 〒274船

橋市芝山一—七—七 〇四七四—六

二—三〇六五

村上栄宏 〒235横浜市磯子区中原三—一

四—二六 〇四五—七七二—五〇四二

村上益三 〒104中央区京橋二—二—一四

今井ビル ㈱マースト商会内(但馬出

身)

森田 宏 (昭11市島町中竹田) 〒206多

摩市貝取三—四—一—三〇六 〇四

二三—七四—五一二三 自衛隊東京地

方連絡部課長 〇二六九—〇七一三

森田とみゑ (旧姓余田 昭17市島町梶

原) 〒206多摩市貝取三—四—一—三〇

六 〇四二三—七四—五一二三

八尾 嶺 (山南町) 〒185国分寺市西町

四—一 けやき台団地三五—一—〇二

〇四二五—三五—五四二九 ㈱シス

テムコンサルタント 〇三五三—四六

三一

山口泰男 (氷上町上新庄) 〒981—31泉

市加茂一—三七—一五 〇二二二—

八—三一〇—一 東北大学金属材料研究

所助教授

山根直之 (氷上町) 〒211川崎市中原区

下小田中一四五—第四田辺荘 〇四

四—七六六—一一六四

山本権一 〒277 横浜市緑区荏田北三―一

―七 近電工荏田寮 ☎〇四五―九一―

―三七五一 近畿電気工事 ☎〇四五

―三三三一―二二一

山本充裕 〒272 市川市鬼高―一四―一三

小野莊 ☎〇四七三―七七―四四〇八

山本裕子 (昭14春日町国領) 〒189 東村

山市萩山―一三四―四六

吉成千鶴子 〒356 川越市大中居一九六―

六〇 ☎〇四九二―三五―四四一七

吉見徳政 (市島町) 〒180 武蔵野市西久

保二―二二―三 コーポ杉本一〇一 ☎

〇四二二―五三一―八一七

吉積敏和 (氷上町大崎) 〒278 野田市三

ツ堀九六九―一六〇 ☎〇四七一―三八

―〇二一八 栗原電気

お便り・短信

足立明子さん(氷上町方町)中野に嫁し

て二五年になります。去年は父(八八歳)母(八一歳)と続いて他界いたしました、大変な一年でございました。我家も節目でございます。(59・2・4)

芦田茂男氏・律子さん(前略)この度、通信委員会調査室長を最後に、約三五年間の衆議院事務局の生活に別れを告げ、定年退職することになりました。

思えば昭和二四年、郷里を後にして勇躍上京、夢と希望に胸を膨らませて、委員部に勤務したのが、つい昨日のように思い出されます。その後、委員部調査課長、副部長となり、商工委員会調査室主任調査員、物価問題等に関する特別委員会調査室長を経て通信委員会調査室長を務めさせていただきました。

私は、最高機関たる立法院の議事運営、調査業務をライフワークとして誇りをもって情熱を注いでこられたことを今、改めて幸せに存じております。その間、よき上司、先輩、同僚、後輩、友人、知己

の方々のおかげで充実した毎日を送り、大過なく職を務め終わることができました。本当に長い間ありがとうございました。心からお礼申し上げます。

今後は、思い出多い東京を離れて、郷里において新しい第一歩を踏み出すことになりましたが、家事整理をととのえた上で、永年にわたって得た貴重な経験、教訓をもとに情報時代の新しい社会秩序づくりに些かでもお役に立つよう、私なりに頑張っていくつもりです。(後略)

※大変楽しい思い出を創らせていただき誠にありがとうございました。お体には充分お氣をつけて下さいませ様お祈り致します。郷友会の皆様によろしく。

律子(59・6・1)

上田 譲氏(春日町棚原)西山敬次郎議員とは同級生(旧制柏原中学校)で、今回の当選を心から喜んでおります。

(59・5・1)

久保 豊氏（山南町）堅い銀行生活から
ファッション業界へ転じてもう五年経ち
ました。一〇年若返って今、第二の人生
に活気のある毎日を過しています。

（59・5・7）

小林武治氏（春日町）学校法人国学院大
学理事長に選任されて一年半近く無事勤
めましたが、あと二年半余の任期中、な
すべき仕事が多く努力しております。そ
の上、この度全私学代表者会議で満場一
致、財団法人私学研修福祉会の理事長に
推挙せられ、未熟ながら引受けました。

今市ヶ谷に建設中の私学会館は来年二月
末竣工。その運営に又既建設の新館も併
せて運営して参ります。皆様方の御鞭撻
を願います。二百万人私学人のため努力
します。

（59・7・26）

小林 剛氏（市島町）開腹手術をしてか
ら満三年を迎えようとしています。体調
は日々よくなっていますが、酒は禁止、

残念です。馬はそろそろ再開しようかと
思っています。

清水正男氏（山南町）名簿や寄稿文中に
は、私にとりましては種々なつかしいお
名前を見付けたり、又それに関連して懐
かしい昔の故郷を思い出して、楽しさに
浸っています。

私も古稀を過ぎて三年になりますので、
昨年十月会社を退き自由の身となりまし
た。頭の体操としてゴルフと囲碁に時間
を費しております。

（59・5・4）

田中憲雄氏（柏原町）昨年十一月二三日、
同窓会出席のため、久しぶりに宝塚に参
りました。私共の同窓会は旧制最後の関
係もあり、柏原中学校、柏陵女学校が併
合され、昭和二四年三月の併設中学卒と
昭和二七年三月の柏原高校卒の両方で構
成しております。従って会員数六二九名
と大世帯であります。二年おきに会場を、
ふるさとの柏原、阪神間のローテイショ

ンで開催しています。懐しい顔、思い出
の顔、いい出会いでした。年齢も五〇を
過ぎ、お互いに熟年の健康を喜び合いま
した。また、若くして物故された二六名
の会員のため、初めに黙とうご冥福を祈
りました。恩師の谷口、小西、舟川、岸、
吉見、安達、阿部、の諸先生方と男子三
八名、女子四九名、計九四名の出席者が
ありました。

首都圏在住会員も三四名あり、東京で
も隔年親睦会を開催しています。今年は
開催年ですから関東水上郷友会に未加入
の同窓生にその存在と加入を勧めたいと
思っております。

塩見つるゑさん（旧姓森本 市島町）故
郷を遠く離れて長く、すっかり変わったこ
とと思いますが、懐かしく思い出をよみ
がえらせております。昨年一月夫を亡い
ました。

会費も滞っているかと思いますが少々
同封いたしました。お納めくださいませ。

八六歳になり病臥のこのみ多い日々ですが、母校の限らない発展を祈っております。

(59・5・8)

細見英介氏 どこにいても郷里ほどなつかしいものはありません。山ざるを通して故郷の山河を思い浮べつつ皆様の消息を知るのを楽しみにしています。

(59・7・13)

森田信三氏(県立氷上農校々長) 過日は関東氷上郷友会八八周年記念大会にお招きいただきありがとうございます。同郷の関係者が多数ご参加されて盛大な会に出席させていただき感謝しております。

(中略)

色々なかたにお目にかかり、お話を聞かせていただき、皆様が郷土の若い青年をご期待されていることを身を感じ、より努力して教育に力を注ぎ、ご期待に応えたいと覚悟を新たにしております。(後略)

(59・11・17)

森田宏氏(市島町) 上京以来一三年めに貴会のことを知りました。夫婦とも市島町出身です。二人で「山ざる」をなつかしく読ませていただきました。柏高三〇年卒業生の同期会次回開催時にはぜひ参加し旧交を温めたいと思っております。

計 報

つつしんで御冥福を祈ります

芦田留治氏(氷上町) 59・3・22
植木伍鹿氏(山南町) 59・11・2
川勝小里さん(旧姓荻野・氷上町) 59・

9・17

田辺善人氏(柏原町) 58・6
常岡 亮氏(柏原町) 58・11・16
萩原庸三氏(水戸市) 58・10
堀川万次氏(柏原町) 59・10・25
本田啓右氏(青垣町) 59・7・5
松本金吉氏(柏原町) 59・6・30
由良洋太郎氏(市島町) 59・7・9

山中一朗氏(青垣町) 60・1・4
山口 隆氏(春日町) 59・10

'84 丹波の動き

丹波新聞の見出しから

昭和五九年一月一日特集号

二一世紀の丹波に向けて田園文化都市建設

○着々進む近舞線工事 スローペースだが福知山線電化も

○観光資源に恵まれ動き出した篠山を中心とする丹波伝統公園

○高速道建設で脚光を浴びる三ツ塚史跡(白鳳時代の寺院跡) 公園整備仕上げの年に

新春に寄せて

○「丹波の発展のために」佐々木良作氏(衆議院議員民社党委員長)

○「若者が安住する郷土に」西山敬次郎

氏

(衆議院議員)

○「郷土の要望を国政に」谷洋一氏

(衆議院議員)

○「幸せつかむ調整と防衛」中西一郎氏

(参議院議員)

○「平和と自然を守ろう」田英夫氏

(参議院議員)

期待の芸術家

○彫刻 大作に若き爆発 磯尾隆司さん

(柏原町)

○陶芸 自分の途一筋に 佐伯幸胤さん

(青垣町)

○絵画 片隅の世界へ愛着 中野健夫さん

(春日町)

政治行政

○多紀郡四町合併を考える 行政の一本

化強調 (篠山青年会議所) (1・12)

○丹波地区全農協でCD稼働 (1・12)

○丹南町の「都市計画」用途地域近く提

示 (1・15)

○篠山町六〇年から都市計画税を新設

(1・22)

○丹波栗百科を編集 (柏原農林事務所)

(1・22)

○山南町菓草試験場の設置を県議会へ陳

情 (1・29)

○地域空港の時代に備え 町長、担当課

長ら参加して柏原で研修会 (2・2)

○丹波一〇町五九年度予算編成 交付税

ダウン(前年比二年連続)で苦心

(2・9)

○遂に豪雪対策本部を設置 防火重点に

警戒強める 連日町職員や住民が除雪

(2・12)

○丹南町「用途地域」案を発表 五地域

に分け線引き市街地整備へ 第一歩は篠

山口駅周辺の一五四ヘクタール

(2・23)

○菊正宗酒造工場進出を断念し用地を篠

山町に寄贈 (2・23)

○市島町「十郎野」の開発進む ゴルフ

場建設具体化で県知事に事前協議申し入

れ (3・11)

○新年度予算案続々と登場 水道使用料

引き上げ 柏原中学校舎増築 (3・11)

○水銀含有量が多いボタン型電池回収で

各町が住民PRや販売店へ依頼

(3・15)

○柏原町駅前周辺開発計画で国鉄用地払

い下げを町幹部、福祉局と交渉し合意

三月末には売買契約 (3・25)

○町職も六〇歳停年時代 丹波各町議会

で条例可決へ (3・25)

○市島町議会が衆院兵庫五区の選挙区定

数現状確保に関する意見書を関係方面へ

送付 (3・25)

○山南町和田中学校舎完成を祝う

(3・29)

○財団法人「二一世紀兵庫創造協会」の

提言 望ましい丹波の姿は地域まるごと

公園化構想 観光の目玉に「水系祭」文

化会館や大学の誘致 若者が定着する町

に 高齢者には生きがいを (4・8)

○柏原農林事務所調べ 丹波の松くい虫

防除今年は五町で薬剤散布 実施面積は

三〇七二ヘクタール (5・24)

○春日町国領地区に体育施設 近舞線周

辺整備事業で山林(一六〇〇〇平方メー

トル)を先行取得 (5・24)

○青垣町で情報化社会に対応してニュー

メディアや遺伝子工学研修会(5・31)

○氷上郡に文化ホールをと二〇〇〇〇人

を目標に積極的な署名運動 (6・21)

○氷上町が来丹の中西国務大臣に観光開

発で達身寺周辺整備を陳情 (6・28)

○西山敬次郎代議士後援会「やよい会」

の創立総会は約七〇〇人の会員が参加、

会長には拝野文子(氷上)さん

(7・12)

○市島・氷上・柏原三町の海洋センター

建設の今年度認可は見送り 市島町は実

現へさらに努力 (7・26)

○氷上郡の五九年産米品種別作付面積の

トップは断然「日本晴」「コシヒカリ」市

場競争に強く伸びる (8・12)

○丹波の人口一七三五〇人(8・19)

○丹波一〇町の五九年度の普通交付税初

めてマイナス 柏原など七町で減り、氷

上・青垣・今田町は増 (9・6)

○氷上・多紀郡六〇年度の町職員新採用

ゼロが増加 (9・6)

○多紀郡でもっと国鉄に乗りうと利用増

進協議会が発足 (9・13)

○市島町が全町地籍調査に着手 まず下

竹田地区から測量 (9・27)

○青垣町の平岩町長(六二)無投票で六

選を飾る「長年の経験を生かしふるさと

青垣の安らぎと活性化に尽したい」

(11・22)

事業

○六二年完成めざし川代ダム建設工事進

む (1・8)

○阿草トンネル(丹南町)貫通 (1・22)

○達身寺公園化事業スタート (1・22)

○石生と市島駅で荷物取扱い廃止 (1・29)

○篠山町で「歴史の散歩道」着工 城跡

南の廃川敷利用 建設省指定で三年計画

(2・5)

○進修保育園のモダン園舎完成 近舞線

建設で移転 (2・5)

○篠山町尊宝寺―黒岡間の県道「魔のカ

ーブ解消」 (2・9)

○国鉄古市駅無人化でこ線橋建設 福鉄

局管内九四駅中四八駅が無人化、民間委

託に (2・19)

○山南町の海洋センター順調に建築工事

進む (2・19)

○県道谷川バイパス(山南町)完成 (3・4)

○県篠山川農業水利事務所大事業を終え

閉所 ダム建設などに一八年 二〇〇〇

ヘクタールの水不足解消 (3・22)

○県立柏原病院名実ともに総合病院 四

月中旬に産科開設 五九年度中に小児科

も (3・22)

○新井工業団地三立製菓の工場四月から

操業開始 (3・22)

りに着工 六三年供用開始めざす

(4・8)

○近舞線二三日に大内トンネル・二七日に多紀連山トンネル開通

(4・8)

○篠山町後川―川西間六往復 阪急バスが乗り入れ

(5・10)

○山南町梶遺跡は記録保存 埋め戻して工場用地に

(5・10)

○山南町牧山バイパス完成

(6・7)

○福知山―青垣町―津山市(岡山県)を結ぶ一二〇キロの内陸部振興開発を期して国道昇格へ運動展開

(6・10)

○山南町アラヤ工業用地へクリヤマが進出 医療器ゴムなど製造

(7・29)

○国道三七二号八上バイパス六年ぶりに完成 待望の開通式

(8・23)

○氷上町で井上電機株式会社は先端技術の工場建設 パワー・IC(半導体)を生産

(8・30)

○全但バスが十月一日から和田山―佐治間を休止

(9・27)

○春日町小多利の「日ヶ奥トンネル」が

貫通 近舞線では四番目 (9・30)

○国道一七五号横田トンネルの物件移転問題が解決し開口部の工事始まる

(11・4)

○市島町で坂井知事を迎え花と緑の町づくりへ丹波全土公園化シンポ開く

(11・4)

○篠山町後川新田「芦谷橋」が完成 交通の難所を解消

(11・15)

○国鉄ダイヤ改正合理化で福知山鉄道管理局管内での荷物取り扱い廃止

(11・18)

○山南町梶「躍進する山南工業団地」のパンフレットを京阪神に配る

(12・9)

○県道稲畑―柏原線の二つの国道(一七五号・一七六号)を結ぶ改良整備工事が完了

(12・20)

○新塩津トンネル(福知山―丹波竹田間)開通

(12・23)

○青垣町の芦田橋の架け替え工事完成 町内最長の九六メートルに

(12・23)

○丹波電報電話局ダイヤル方法を改善

市外局番「〇七九五」に統一 市内局番を二ケタに六〇年三・四月が切り替え実施の目途

(12・23)

○西紀町遠方「おおたにばし」歩道橋つり橋渡り初め

(12・27)

教育・学校

○柏原高校野球部七〇キロの耐寒歩行を走破

(1・12)

○早いペースで就職決定(丹波の五高校二分校)

(1・19)

○和田中の校舎完成

(1・22)

○氷上農高で情報処理や電算室も

(1・26)

○どうなる柏高の行方 将来単独普通科高校か

(1・29)

○小学校は一〇―一学級減 氷上郡教委の異動方針 今年も厳しい人事に 中学校は若干の学級増 小学校教員の転入まず無理

(2・2)

○篠山産高で定員割れ

(2・23)

○丹波地区五八年度の県教育功労者三氏

倉垣柏原高校長・滝沢進篠山産高校長

小川泰弘西紀中学校長

○氷上郡教委が部落公民館の実態調査

建物はあるが広さが不十分 参加者の固定化 人集めに苦勞 財源に乏しい悩みも

○氷上郡教委「偏見ありませんか」同和

学習の資料に冊子を発刊 (3・29)

○篠山町教委車塚を総合的に考察 周庭

帯の発掘報告書 (3・29)

○氷上郡教委まとめた定期異動 校長級

大幅に動く

開田齊氷上中学校長・松田昭一青垣中校

長・小山忠男今田中学校長・足立五郎兵衛

神楽小学校長・中野卓郎芦田小学校長・足立

栄八郎遠坂小学校長・荒木満進修小学校長・

大西之晴竹田小学校長・黒田一夫崇広小校

長・芦田泰嗣久下小学校長・宮崎昇西小校

長・婦木馨春日部小学校長・松本静夫船城

小学校長・芦田松治大路小学校長・芦田有行

新井小学校長・平野静夫今田小学校長・小林

久義福住小学校長

柏原高校長内橋昭(加古川北高から)

氷上農高校長森田信三(有馬高校から)

篠山鳳鳴高校長足立登喜夫(県立淡路ろ

う学校から) (4・1)

○氷上郡教委調べ 小学校は六六七七人、

芦田・黒井などで増加。中学校は三一一

九人。 (5・13)

○氷上西高校創立一〇周年を記念して同

窓会結成へ名簿づくり (6・10)

○柏原中学生徒増加で校舎一棟を起工

(7・22)

○氷上農高と篠山産高東雲分校は県学校

農業クラブ大会で最優秀賞六つ獲得

(8・2)

産 業

○青垣町老人クラブ連合会の生きがい生

産活動研スタート まず中国野菜の栽培

料理講習会も計画 (2・2)

○篠山町「レタス」を集団栽培で大産地

化をめざす 一年目は五〇ヘクタール目

標 (2・5)

○青垣町大名草の雑木林を高度利用し

「しきみの里」づくりへ三〇〇〇〇本の

植栽計画 (2・9)

○氷上額縁産地の実態調査 産地体制の

整備と付加価値のアップ (2・23)

○丹波農協のピーマン栽培規模拡大はか

る 一億円突破が目標 (3・1)

○肉用牛団地造成し年間一〇〇頭出荷め

ざす市島町喜多地域の一貫生産方式

(3・4)

○カツラマルカイガラムシ(クリの害虫)

今田町で発見 早期駆除を呼びかけ

(3・15)

○氷上町農業後継者を育てる 経営状態

のは握など「人気」の簿記講習会

(3・18)

○春日町古河 三五年ごろの農業に帰れ

複合経営で安定化を (3・25)

○間伐材でミニハウスづくり 丹波木材

協組考案 素人でも簡単にでき日曜大工

ファン増える (4・1)

○氷上青年会議所「今後の丹波の経済を

考える」と題しパネルディスカッションを開く

土谷柏原町商工会長「量販店の出店以来、後継者のない店にはあきらめムード、駅前ショッピングセンターを建設し商店街との Docking を図り町の活性化を促したい」

井上昌一郎氷上町商工会長「人の定着が地方の時代を実現する 地域産業の雇用拡大、生活の安定化、都市と地方の格差縮小の三点に取り組んでいくべき」

岩本青垣商工会長「豊かな山林資源を生かすのが鍵」

荒木正己山南商工会長「町を通勤圏内にし人をとどめおくことが必要」

村上春日商工会長「近舞線の開通で阪神経済圏と距離が近づくことで大きな変化があらう。黒井を第一商業ゾーンにし、第二商業ゾーンをインター付近に持つていく」

吉田市島商工会長「市島町は企業意欲の欠如している面がある。サラリーマン

の町、地価の安さを開発に生かしていきたい」 (4・5)

○柏原町商業振興協組が懸案の共同店舗構想 都市的な感覚集めて駅前再開発の一端を担う (4・12)

○西紀町でシャクナゲ祭り 咲き誇る鉢物約五〇〇点ズバリと展示 (5・6)

○氷上町中小企業振興資金全体に大幅な伸び 設備投資目立つ (5・10)

○山南町商工会が観光パンフ作成 (5・31)

○柏原町石戸河村さんの丹波初のリング園今秋に待望のオープン (6・10)

○今田町 白ウリを生産から加工「こんだ漬」を特産に素朴な味を売り出す (6・24)

○篠山町宮代に「丹波学生村」自炊歓迎季節の野菜も用意して農家丸ごと貸します。 (6・28)

○春日町観光協会が観光マップ作る

○氷上町の山下弘さん 阪神間中心にシ (7・15)

イタケの原木を貸し家庭で栽培の楽しめをとレンタル事業始める (8・23)

○丹波材のブランド化の確立をめざし流通システム整備へ 林業産地圏推進会議が発足 (9・2)

○氷上郡和牛せり市低迷相場を脱する宮崎日向農協へ六頭 (9・9)

○山南町和田地区へ中国から薬草視察団将来は取り引きも? (9・16)

○春日町野瀬で成鶏三〇〇〇羽飼育の養鶏団地の建設進む (9・23)

○市島町の上牧の小谷さん 観光土産煎餅一手に引き受け製造 素朴な味が好評 (10・21)

社会・文化

○円心教本部に五法閣 鉄筋九階建て二五億円 六一年完成予定 (1・26)

○吟道大雅流頌風館氷上支部が新春の発表会 (1・26)

○山南町の石龜寺に豪華な自然石の総門 (1・26)

○篠山ABCマラソンの参加者七六〇〇人 (1・29)

○丹波に“大雪”通勤・通学など影響
三八年豪雪いらい、鐘ヶ坂は一時通行不能 (1・29)

○山南町のアラヤ工業団地の埋蔵文化財の発掘調査 (2・2)

○氷上郡西国礼所会が仏像三八体を西楽寺(柏原町)で出開帳 (2・5)

○立杭焼ずらり展示 陶友会中堅層が新作展 柏原町北中の県立丹波文化会館で (2・9)

○春を呼ぶ柏原の厄神さん 一七日に藤田まことショー 雪空の下を人出三〇〇〇人 (2・19)

○昔の遊びがブーム 竹トンボやおじやみ 青垣町遠坂小 雪の影響、室内で活動 (2・19)

○山南町カントリークラブ一か月近く雪で閉店状態 (2・23)

○氷上郡で初めて山南町梶遺跡から勾玉の原石など出土 弥生中期―古墳時代の

石すいやクイの跡も (3・1)

○鎌倉期の“穴窯”ついに完成 立杭焼の原点求めて待望の火入れ 丹波陶友会で説明会 (3・1)

○氷上郡の道標二〇七件の碑文確認や形態調査 旧道を後世に伝承 (3・4)

○篠山藩の資料を公開 土蔵を「版木館」などに改修 青山会が四〇周年を記念 (3・4)

○早春の丹波路ひた走る篠山ABCマラソン 約六八〇〇人が出走 (3・8)

○今に語る戦争の悲惨「苦戦シ死傷山ノ如ク」日露戦争の従軍日誌見つかる 一兵士(氷上町の伊藤亮一さんの父)が戦場の様子こまやかに記す (3・11)

○生の英語で関心を ユーモアたっぷり指導 春日中でマイケルさん特別授業 (3・11)

○柏原署が中学生五人を補導 單車盗と車上ねらい (3・15)

○健康生活調査の結果現代人は歩くことが少ない 体力づくり活動の日常化を三

つの目標を掲げ積極的に啓発 (3・15)

○松の本古墳群(春日町多利)発掘で大型短頸ツボが出土 県教委が二〇日現地

で説明会 (3・18)

○県立丹波文化会館で丹波立杭焼現代作品展 伝統工芸を中心に重厚な立杭焼三

三点を展示 (3・22)

○丹波陶友会 穴窯で初の“窯出し”四〇〇点の作品 古丹波の復元とともに現代感覚をミックス (3・25)

○春日をどり保存会 名音頭を後世へ前田太鼓をつくる (3・29)

○春日町保月城の石垣崩れの復旧策をと北垣氏(奈良県立橿原考古学研究所の研究員)を招き現地調査 (3・29)

○丹波自然友の会が第一七三回例会を開き氷上町葛野地域の早春の花と清住の達身寺を訪ねる (4・1)

○丹南町で丹波茶の苗木四六〇〇本を植え住吉台斜面にPR文字を描く (4・1)

○氷上郡青少年少女合唱団がミュージカル (4・1)

「白雪姫と七人の小人たち」を熱演

(4・12)

○青垣町が結婚や雇用調査などで「聞き合せ」をしない運動を展開 (4・15)

○柏原税務署管内高額納税者(一千万円超)は二八人 一億円以上も一人 税制改正で公示者は大幅減 医師が約八割

(5・3)

○氷上郡の窃盗犯罪一五六件も増加し逆に検挙件数減る (5・6)

○氷上町の達身寺公園化事業が完成し二〇日にボタン祭り (5・13)

○氷上町日本一低い分水境「水分れ」PRに大看板 (5・24)

○丹波志懸話会が「丹波史」第四号を発行 定価四〇〇円で五四ページ 氷上・多紀両郡の書店などで取り扱っている

(6・3)

○氷上農高女子バレエ部は県高校総合体育大会で四年連続優勝を飾る (6・14)

○春日町出身の零氏 世界巨匠の版画や書籍などのコレクションを春日町に寄贈、

国領地区に近代美術館建設か (6・21)

○柏原町農協と西武百貨店が提携 中元に稲刈りいかかとギフト券を発売

(6・28)

○柏陵同窓会で小寺逸八会長留任 (6・28)

○西紀町でラッパイチョウ(植物界では生きた化石といわれる) 丹波で二番目の発見 (6・28)

○青垣町佐治の八柱神社でラッパイチョウを近所の小学生が発見 (7・8)

○近畿高校バレエボール大会女子で氷上農高は準決勝で破れ、柏原高校は四回戦で涙をのんだ (7・26)

○青垣町公民館が丹波布の保存へ「後継者育成」に力こぶ (7・26)

○柏原町の西楽寺で田捨女を偲ぶ句会 (7・26)

○春日町国領遺跡 鍛冶か鋳物の生産地か丹波で初の生産遺構 (7・29)

○西紀町の寺ヶ谷遺跡 旧石器が大量出土 ナイフ型など四〇〇点 (7・29)

○青垣町大名草で体長一メートル近くもあるオオサンショウウオ見つかる (7・29)

○篠山町のボランティアグループ「ディスカバーささやま」が観光案内所を開設なんでも聞いてネ! (8・5)

○青垣町の佐治川祭り 仕掛け花火も復活 (8・12)

○市島町表大師まつり 一〇〇周年を祝って立江堂や大師仏像も改修 (8・12)

○篠山町「デカンショ祭」盛大に 総踊りの輪ふくらむ (8・19)

○春日町黒井ふるさと祭り 会場中央に保月城を型どったやぐら 約一〇〇〇人の伝統の黒井おどりの輪が幾重にも広がる (8・19)

○柏原町夏まつりは南多田グラウンドで盛大に 山南町の夏まつりは雨天で中止

○柏原町西楽寺の滝川住職のダルマ像が日本墨相展で入選 (8・19)

○市島町の大杉ダム満水量の九分の一に

激減、断水・ワカサギにも影響が心配

(9・6)

○春日町七日市遺跡で堅穴住居跡一五棟を確認 初の土製「男根」有舌尖頭器など続々と出土

(9・9)

○急成長の「宅配便」に郵便局・駅は深刻な打撃 丹波に約六〇〇の取扱店

(9・13)

○五八年度に丹波へ訪れた観光客 前年比三%減る 氷上郡へ六二万六千人、多紀郡へ七三万七千人

(9・23)

○春日町野村の県重文化財の春日神社の本殿改修完成

(9・27)

○児童文化研究家吉岡たすくさんが氷上郡民会館で講演 子どもに優秀はなし

(9・30)

いい顔が子育ての秘訣

(9・30)

○青垣もみじの里健康マラソン 参加者過去最高の一七六七人

(10・4)

○俳句通じて日中友好 中国から蔡さんが市島町の西山謙三さん方へ(10・4)

(10・4)

○生誕四五〇年を迎えて滋賀で第一回「織田信長サミット」に柏原町長ら出席

次回は柏原町で (10・11)

○兵庫パルプは山南町へスポーツ振興に二百万円を寄付

(10・11)

○氷上郡教委は山垣の「吉野屋日記」(入会山の訴訟を克明に記録)を青垣町指定文化財に決める

(10・14)

○各地の秋祭りにぎわう 市島町梶原の鴨神社の祭礼で五九年ぶり屋台が登場 山南町小畑の牧山神社では小学生の奉納相撲やもちまき 青垣町西芦田栗住野では午前中例祭午後は運動会

(10・14)

○柏原町の「ふるさと」講読希望者を募る 近く民話集を出版 三〇〇〇部を印刷、本は一五〇〇円、カセットテープは五〇〇円、取り扱いは柏原町農協(〇七九五七②二〇六)

(10・14)

○春日町立歴史資料館一般公開 入場料大人二〇〇円、開館時間は午前九時から午後四時半まで、休館木曜日。

○柏原町奥村川の川底から明治中期に設けられたと思われる防火用水の送水管

(10・28)

○「彫刻一家」三人喜びの日展入選 父磯尾柏里さん・長男隆さんと弟関口寛治さん (10・28)

○柏高(男子)が丹有駅伝で五年ぶり優勝、女子は鳳鳴に栄冠 (11・1)

○丹有中学駅伝で男子は七年ぶりに篠山が優勝、女子は柏原に栄冠 (11・11)

○関西氷上郷友会が郷里の中学生の絵でカレンダー三〇〇枚を作る 氷上郡から町長らを招き第七五回総会を盛大に開く (11・11)

○関東氷上郷友会が八八周年記念総会を東京九段会館で氷上郡から町長らを招き盛大に開く。ふるさとの特産品の販売も (11・11)

○山南町金屋の一三塚 文化庁などから現地調査 由来の解明は至難?

(11・15)

○柏原で箏曲演奏会 新箏社・大岡照子さん社中が今年の総仕上げ (11・18)

○青垣町東芦田の高座神社境内に俳誌「風」創刊四〇周年で細見綾子さんの句

碑建立計画

(11・22)

○「丹波達身寺」を出版 春日町の船越昌さんが著者・細見克郎さんが写真を担当、大阪市東区保育社B五判大、九七ページ、定価二五〇〇円 (11・22)

○氷上農高女子バレーボール県高校新人戦で五年連続優勝 (11・25)

○篠山城跡(国の史跡)の東門跡北側石垣復元工事に着手 (11・29)

○山南町常勝寺の観音立像(国の重要文化財)の腕や台座は「要修理」文化庁から事前調査 (12・2)

○全国屈指の篠山ABCマラソン(六〇年三月三日開催)申込受付(期間五九年一月一日から六〇年一月一日まで) (12・6)

○氷上町市辺の二宮神社境内にある経塚の龜を小森さんが一年がかりで復元 (12・9)

○青垣町大名草の朝倉姓の人たちが先祖のルーツを訪ねて越前朝倉氏の一乗谷へ史跡や資料館見学 (12・16)

○岡本丈夫さん(丹波県民局次長)が「たんば歴史のみち」を神戸新聞出版センターから出版、小B六判で一九六ページ。定価八八〇円。各書店で販売 (12・23)

○春日町七日市遺跡 子どもの木棺から碧玉製管玉五五個が出土 生産地がわかると文化交流の貴重な資料 (12・27)

▼丹波女性の意気と面目をかけ、春の選抜高校バレー・全国制覇を目指して猛練習をつづける氷上農高女子バレー部の可愛い魔女たち



**桂建築総合研究所
一級建築士事務所**

感性の時代、感覚が優先する時代に、住いも、商店も、ソフトな、心にうったえるデザインが要求されています。

丈夫さを求めたハードの時代よりも、自分の居住空間を快適にすることが、生活を楽しく、心を豊かにしてくれます。

経済的なノウハウを駆使して、美しいモダンな空間をデザインするそれが弊社の願いです。

株式会社桂工務店

最近職人の手間が高騰し、予算をオーバーします。造作は能率的に省力化をはかることがコストダウンになります。

弊社は施工技術を練磨して、高効率、迅速、確実をモットーに、厳選したノウハウによって施工を行います。

株式会社 商店建築社

商業施設は市民文化の支えとして、各都市でイノベーションされています。弊社は月刊誌商店建築の外、臨増、別冊等を編集し、全国に発売しています。

有限会社桂研究所

商業施設の立地、経営等で相談がふえています。
コンサルタントを業とする会社です。

東京都世田谷区南鳥山 2-33-11

村 上 末 吉

T E L - 308 - 8820

(春日町中山出身)

建築材料販売工事

建設大臣許可 第 1834 号

中央建材工業株式会社

取締役 荻野 武
東京支店長

(市島町出身)

本社 名古屋市千種区高見 1—6—1
電話 052 (761) 6181 (代表)

東京支店 東京都中央区銀座 7—14—3
電話 03 (543) 8106 (代表)

大阪営業所 大阪市西区江戸堀 1—8—15
電話 06 (443) 6665

仙台出張所 仙台市高松 2—11—15
電話 0222 (73) 5724

札幌出張所 札幌市中央区南一条西 7—12
電話 011 (271) 3961

新潟出張所 新潟市米山 5—1—25
電話 0252 (45) 1705

松本出張所 松本市渚 1—1—42
電話 0263 (25) 0351

広島出張所 広島市西区中広町 1—4—16
電話 082 (291) 3780

◆エレクトロニクスパーツの専門商社◆

株式会社 三 誠

東京都文京区湯島2-24-13 (834) 3171 (代表)



取締役社長 足立 誠一

☆主要取扱メーカー

日本航空電子工業株式会社

多治見無線電機株式会社

株式会社フジソク

日本開閉器工業株式会社

ライン精機株式会社

本多通信工業株式会社

Sonnenschein



Slider® BASEBALL UNIFORMS

あらゆるスポーツウェアのご相談は当社へ



園児服・園児用品
スクールウェア・スクールブラウス

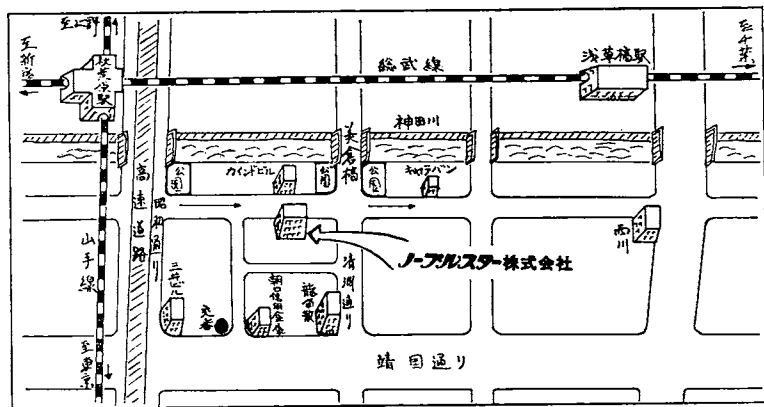
Roble **ノブリスター株式会社**

取締役社長 吉住重造

(春日町中山出身)

本社 〒101 東京都千代田区東神田 2-4-7

電話 03 (866) 9121 (代表)



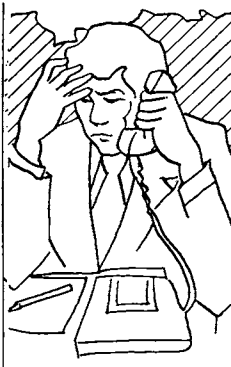
交通事故

もし、あなたが加害者だったら……

水かけ論の
あげく……



仕事中また
電話がくる……



いったい誰に
相談しよう……



AIUの自家用自動車保険

貴方の財産を守る

火災保険から

万一の災害・病気に備えて

生命保険まで

あらゆる保険について お気軽に ご相談ください



代理店 **永愛友商事** 代表者 **KK前田和市**

〒107 東京都港区赤坂 3-1-2 AIUビル 電話585-0740(代)

美味無比 木の实酒

栗の三年酒

くり

さん

ねん

しゆ

この木の实酒「小鼓くりの三年酒」は、純粹の丹波産栗の实、梅の实など山野の木の实を原料として秘醸したもので、常用すれば胃腸を整え健康と美容と活力を増進します。

ストレートでお飲みいただきますと、さわやかな梅の香りがひろがり、あと口にはコクのある栗の味が残ります。

お正月のお屠蘇には、縁起のよい「小鼓栗の三年酒」をお用い下さい
キット好評です。

◆丹波焼壺詰
◆徳用びん詰

(	1、	)
35	50	
00	00	
00	00	
ml	ml	ml

小鼓の西山酒造場

氷上郡市島町中竹田
電話(〇七九六)⑥〇三三二一代

日本海運振興会会長

日華観光協会会長

漆川学園名与学園長

日本長老会代表理事

有 田 喜 一

東京都千代田区平河町二丁目四番

電話 (二六三) 九四一七番

東京都世田区成城四ノ一ノ一五

電話 (四八三) 一二〇九番

兵庫県氷上郡氷上町谷村

電話 〇七九五八(二)〇〇〇八番

日本メキシコ協会会長

日本バレーボール協会会長

アジアバレーボール連盟名誉会長

国際バレーボール連盟副会長

日商岩井株式会社相談役

西 川 政 一

(住) 東京都杉並区善福寺二ノ三五ノ一六

電話 (三九〇) 一三一六番

(寓) 静岡県岡部伊豆高原

電話 〇五五七一五三一二五六〇番

学校法人国学院大学理事長

国学院高等学校々長

学校法人国学院大学幼児教育専門学校々長

財団法人日本私立大学連盟理事

財団法人私学研修福祉会理事

小 林 武 治

東京都武蔵野市境南町一―三〇―二〇
電 話 〇四二二(三二)四七九六番

株式会社 つるや洋装店

株式会社 東逗子駅前ビル

東 海 産 商 株式会社

代表取締役 小 谷 正 己

逗子市逗子 1―6―4

電話 0468・71・3075

71・6449

調布市社会福祉協議会理事

調布市豊かな老後のための市民会議実行委員

老人問題研究所

木村 つた江

東京都調布市東つつじヶ丘2-39-5

電話 東京(300) 1505番

のびのびベビー・こどものファッション 白井

株式会社



本 社 〒158 東京都世田谷区瀬田1-22-19
TEL 03-700-3121 代表
ファッション センター 〒158 東京都世田谷区玉川台1-13-12
TEL 03-708-1151 代表

代表取締役 山 本 清 士

高級婦人服製造卸

つるや産業株式会社

取締役社長 足 立 三 治

東 京 店 品川区西五反田 7 - 22 - 17

東京卸売りセンター12階

電 話 (03) 494 - 3285 ~ 7

本 社 川崎市中原区新丸子 701

電 話 (044) 722 - 6371 (代表)

社長室直通 711 - 3324

南海工業株式会社

社 長 石 亀 義 明

本 社：東大阪市大蓮東 2 - 12 - 4

J I S 工 場：電話 06(721)5454 / 5455

柏 原 工 場：氷上郡柏原町拳田小字浅川160-1

電話 07957 (2) 3744

株式会社 近藤写真製版所

取締役社長 近 藤 勇 夫
(国領出身)

東京都新宿区下宮比町8番地
電 話 (260) 6 2 8 1 番 (代表)

株式会社 三 葉 水 道

代表取締役 橋 爪 忠
(氷上町黒田)

千葉県八千代市八千代台西 7-5-29
電 話 0474-84-7121番

郷友の皆様 生命保険に加入されるなら
ぜひ当会をご利用ください

明治生命保険相互会社 代理店

ひ か み 会

代表 伴 仲 信 次

東京都千代田区飯田橋2丁目9番 春日建設(株)内
電話・東京 264—4011(代)

昭和還暦60年。激動の歴史とともに
自分の歴史をメモってみる。

記入式 私の昭和史

B5判
160頁

●記入しやすい横書き ●自分史づくりに最適 ●定価1,300円(送料250円)

《自分の歴史》を書いてみませんか。

人生記録
共著シリーズ

私の歩んだ道

自費出版を安い費用で豪華愛蔵本に●案内書進呈

株式会社 **ホンゴ出版** 東京都中央区日本橋茅場町3-3-4坪井ビル
〒103 TEL 03(666)1922(代表)

松 尾 フ ル ー ツ

上 田 鉄 太 郎

(春日町野山出身)

〒102 東京都千代田区麴町6丁目

(国電四ッ谷駅前)

電話 自宅03 (261)―2830番 店舗 (264)5060―1番

東急建設株式会社

専務取締役 芦 田 重 秋

〒150 東京都渋谷区渋谷一丁目十六番十四号

渋谷地下鉄ビル内
電話東京〇三(四〇六)五一一一(大代表)



ディーゼル機器のカーエアコンは国内はもちろん、
世界に気持のよい風を送っています。
お子様の学力向上には公文式の算数・国語教室で

足 立 和 巳

自宅 府中市栄町一―一五―二七

電話(〇四二三)六四―七三二七

ミワ電気工事株式会社

代表取締役 足 立 謙 悟

〒220

横浜市西区岡野一丁目八番地八号
電話 〇四五(三二二)五二九一番(代表)

川汽企業株式会社

足 立 勲 平

勤務先 東京都港区西新橋虎ノ門高木ビル
電話(五〇四)一一三八一
自 宅 藤沢市鵜沼藤谷一七四
電話〇四六六(二二)六四六一

交通毎日新聞編集部

次 長 足 立 静 雄

東京 交通 毎日 新聞 社
東京都港区赤坂二ノ四ノ一(白亜ビル)
電話 六四二一三四一四番 丁107
札幌・仙台・高崎・横浜・名古屋
大阪・広島・岡山・高松・福岡

明治生命保険相互会社
認定生命保険士

足 立 正

事務所(〇三)一六六三一四二三一、五
自 宅(〇四二七)一二六一八一四九

トーヨーサッシ株式会社

相取 締 役 足 立 徹

〒100 東京都千代田区内幸町二丁目二番二号
電話〇三(五九一)三三八八番(大代表)
電話〇三(五九一)三六三三番(直通)

弁 理 士 芦 田 坦

事務所 芦田 後藤 池田 特許事務所
東京都港区西新橋一ノ四ノ一〇
第三森ビル (郵便番号一〇五)
電話東京(〇三)五九一・一五〇七・一五二三

専務取締役 綾 木 健

〒150 東京都渋谷区神宮前二一二三 IGCビル
TEL(〇三)四二三一一二七一、三

TELEX IGC-J-27969
FAX(03)423-1384

新明和工業株式会社

常務取締役 生田清弘

〒100

東京都千代田区大手町二丁目六番一号

朝日東海ビル十八階

電話(〇三)二四二二―二四四一(代)
テレックス二二二―五一九〇

有限会社井上商店

社長 井上和三

電話

三鷹市深大寺三八〇六
〇四二二―三二―三四八八

植木紙工所

代表者 植木一夫

東京都文京区白山三丁目一ノ十三
電話(八一―)八五七三番

小田富士夫

日製産業株式会社

取締役社長 大木正徳

〒105

東京都港区西新橋二丁目15番12号
(日立愛宕ビル)
電話(〇三)五〇四―七〇〇二番

パイオニア株式会社
人事部人材開発課

課長 大西修三

本社

153 東京都目黒区目黒一丁目四番一号
電話〇三(494)一一二―一番(大代表)

埼玉日産モーター株式会社

取締役社長 大西俊治

本社 与野市上落合九三五番地
電話〇四八八(59)五一〇三番(代表)

(株) パンオーディオシステム

代表取締役 岡林逸男

〒330 大宮市盆栽町五一四(押田ビル)
TEL(〇四八六)六五―三六九四(代表)
〒167 東京都杉並区善福寺四―八一―九
TEL(〇三)三九四―六八四四

株式会社大丸東京店
営業特販部

課長 荻野泰次

〒100 東京都千代田区丸の内一丁目九番一号
電話 大代表 03 二二―二八〇―一
内線 二八四〇・二八四一
直通 03 二七一―三〇二五番

丹波興産株式会社

代表取締役 柿原陽

〒150 東京都渋谷区桜丘町三十一番十五号
住友生命渋谷ビル
電話(03)四六四―一七七(代表)

参議院議員

梶原清

同和火災海上保険株式会社新宿支店

支店長 神田敏博

東京都新宿区歌舞伎町一丁目一番一五号
〒一六〇
電話(〇三)二〇九―七六〇―一

文芸局担当部長(吉川英治全集担当)

小 杉 仙 生

株式会社 講談社 文芸局
〒112 東京都文京区音羽二―一二―
電話 東京〇三(九四五) 大代表一一―

日本学士院会員

理 学 博 士 小 谷 正 雄

自宅
東京都大田区山王三ノ三六ノ四
電話 東京(七七―) 六六五二

D・M・Sダイレクト・メール・サービス株式会社

取締役 業務推進本部長 坂 上 勝 朗

本社 〒101 東京都千代田区神田小川町一ノ十二
電話 東京(293) 二九六一番(代表)

静岡大学教授

坂 本 重 雄

自宅
静岡市小鹿三丁目四―五(〒四二二)
公務員住宅八―二六
電話 〇五四二(八二) 八〇五八番

銀座店のご案内

丹波さき山
山家のお酒

さ さ

ざんざ 6―2 第13金井ビル2F
電話 (五七一) 四四二二三

須 原 清

東京都中野区南台五の三〇の六
電話 (三八一) 一六二二番

勢川 武彦

〒164 中野区東中野二ノ一七ノ二〇
TEL 三六一―八六七六番

高見産婦人科

医学博士 高見 嘉都司

東京都板橋区熊野町四〇番地
電話（九五六）〇六〇〇番

田中 篤郎

高見 齒科

高見 幸男

〒176 練馬区錦町二―八―三
電話 九三三―六七三一番

大菱印刷株式会社

田中 寛

〒101 東京都千代田区神田東松下町十
電話（二五六）九三五七番

谷垣 正雄

東京都杉並区高井戸西一―二四―一七
電話（三三一）一〇七六番

株式会社 環境計画コーオペレーション

取締役 谷 口 捷

〒150 東京都渋谷区道玄坂一丁目一五〇一七
ブリメーラ道玄坂ビル八〇四
TEL(〇三)四七六一一〇四〇

参議院議員

田 英 夫

江南ハウジング株式会社

常務取締役
営業本部長 千 種 倫 幸

〒102 東京都千代田区麴町五丁目七番地
紀尾井町TBR七二二号
電話代表(一一三〇)三六三一

東亜国内航空株式会社
整備本部 整備工場

次 長 豊 島 幹 雄

〒144 東京都大田区羽田空港一丁目七番一号
空港施設第二綜合ビル
電話〇三(七四七)六九七五番
座席予約受付(七四七)八一(一番代)

株式会社日本製鋼所

監査役 中 井 良 平

〒100 千代田区有楽町一丁目一二
三井日比谷ビル9F
電話(〇三)五〇一六一(代)

常 岡 幹 彦

ザ・カード株式会社

取締役社長 西尾久之

郵便番号 一〇四
東京都中央区銀座二丁目四番一号
銀楽ビル七階
電話東京(03)(561)八〇〇二番(代表)

日本舞踊教授

西崎祥

〒223 横浜市港北区大柵町五〇〇一八
電話(0四五)五九一六六五五
西崎祥舞踊研究所 電話七八一八六〇三

衆議院議員

西山敬次郎

日本行政書士政治連盟 常任幹事・会計責任者
東京行政書士政治連盟 幹事長
東京都行政書士会 副会長

行政書士 畑光

事務所 東京都港区虎ノ門五丁目八番八号
第三文成ビル三〇二号 電話(三)四七五七番
自宅 東京都練馬区土支田一丁目五番一九号
電話(0三)九二五八七七〇番

黒川木徳証券株式会社

畑秀夫

本社 東京都中央区日本橋一丁目一六―三
電話 東京(0三)二七八一七八四六番

波多洋三

文京区春日二丁目一七一―二
電話(0三)八一―二八六〇番

下北沢商店街振興組合

副理事 旭

弘

子供服 アヤ 東京都世田谷区北沢二丁目二四一九
電話 (四六七) 七四二八
電話 (四六〇) 七七四七
ニューメディアハウス AYA SUN 電

安達 健一郎

〒188 保谷市中町三三三ー三
電話 〇四二四(二二)三四四六

船舶事業部

参与部長 有田興司

東京支店 東京都港区浜松町一丁目二七番一七号
東京都港区浜松町一丁目二七番一七号
〒105 TEL (〇三三) 四三四一七八二(ル)
〒105 TEL (〇三三) 四三四一七八二(ル)
〒590 神戶市中央区加納町六丁目二番一七号
本社 TEL (〇七八) 三三二ー九三八一(代)

損害保険のコンサルタント

日本損害保険協会 特販(一般)資格 第特一三五八六号

飯田保険事務所

飯田 光雄

自宅 四街道市旭ヶ丘三一九ー二
〒284 電話 〇四三四(三三)二二二一三

日本リーファーズ株式会社

常務取締役 池上 亘 泰

〒230 横浜 市鶴見区弁天町三番地
電話 横浜 〇四五(五〇四)〇八一(代)

NHK家庭部・医療番組班
チーフ・ディレクター

大野 善三

〒150 東京都渋谷区神南二丁目二一ー一
自宅 〒228 (〇三三) 四六五一ー一内線三二九七
神奈川県相模原市相模台七二五ー八
(〇四二七) 四六八七九〇

株式会社テラモト
東京支店営業部

次長 広瀬 五男

〒272-01 市川市湊新田一ノ六ノ八
Tel ○四七三―五八一―二二〇―番

都営八王子霊園・東京霊園正門前

青葉山 眞照寺 住職 堀井 隆川

〒193 東京都八王子市元八王子町三一―三三九七
電話 (○四二六) 六三一―八四〇三

藤田 正雄

自宅 〒215 川崎市麻生区王禅寺六七八―四
電話 (○四四) 九五四―四九五七番

エクステリア専門商社
株式会社 大洋

代表取締役社長 松下 文雄

本社 〒351 埼玉県朝霞市膝折三一七―五
電話 (○四八四) 六六一―一五五一(代)

船越 祥郎

東京都昭島市郷地町五四九―一四
電話 (○四二五) 四四―五九九七

動力炉・核燃料開発事業団
広報室長

水船 隆昌

〒107 東京都港区赤坂一丁目九番十三号
(三会堂ビル)
電話 五八六―三三一―(大代表)

株式会社興水タイヤ商会

取締役経理部長 三宅良夫

〒210 川崎市川崎区元木一ノノ一
TEL 〇四四・三三・六三二(代)

東京トヨペット株式会社
企画室

課長 宮野近

東京都豊島区東池袋三ノ三ノ五
〒171 電話(03)九八七一・一四二一

曹 禅 寺 住 職

村 上 大 憲

東京都大田区池上七丁目二二番十号
電話 〇三・七五一・〇六七八番

フライダルファッショ
(株) シャルム商会

常務取締役
東京店店长 村 上 昇

東京店 〒164 東京都中野区弥生三ノ五ノ三
電話(〇三)三七四一〇二一五(代)
本社 〒604 京都市中京区間之町通竹屋町上ル大津町六四五
電話(〇七五)二二二一〇二一五(代)

株式会社 スズヤ洋装店
株式会社 イイダスズヤ

取締役社長 村 上 豊

電話〇三(七三三)四〇四八・(七五一)四七九八

エイ・エム・ティ株式会社

取締役社長 百 木 雅 崇

東京都港区浜松町二ノ三ノ二二三
フクダビル
電話(四三一)三五五一番

だいふく
大七証券株式会社

投資顧問部
安 田 功

〒103 東京都中央区銀座三丁目一〇番九号
電話 東京(五四五)九二一一(代)

紳士服地・毛皮・仕立て…等のご相談は
鷹岡株式会社東京支店
営業第二部

課 長 村 田 年 彌

〒103 東京都千代田区神田須田町一丁目三番地
電話 東京 03(255)六六一一(代表)一九番

伊藤忠エレクトロニクス株式会社
営業第七部長

山 内 隆 行

〒150 東京都渋谷区渋谷二丁目一五番一号
東邦生命ビル7階
電話(〇三)四八六一五八五〇

社団法人日本ブランド・技術部
プロジェクトマネジャー

技術士
(電気部門) 若 森 敏 郎

〒100 東京都千代田区有楽町一丁目八番一号
日比谷パークビルディング(三階)
電話 東京(213)八五五一番(代表)

技術士(電気部門)

部 長 山 本 権 一

近畿電気工事株式会社営業本部技術部(横浜駐在)
〒240 横浜市保土ヶ谷区和田二丁目一番二号
電話 〇四五(三三三)一一二一一

青木末吉

割 烹 青 木

〒542 大阪市南区疊屋町二四清流会館二階
電話(〇六)二二一一四七八二番

佐々木盛雄

自民党 東京都千代田区永田町一―十一
〒100 電話五八―一六二―一(内)二六五
事務所 東京都新宿区新宿五―十七―六
〒160 電話(〇三)二〇九―三二七六―七番
自宅 東京都新宿区中井二―十一―十八
〒161 電話(〇三)九五―一―二八五八番

川鉄商事株式会社
プロジェクト開発室主査

副部長 杉浦

〒105 東京都港区浜松町二―四―一
世界貿易センタービル二七階
電話(〇三)四三五―四〇三九
FAX(〇三)四三五―三三四四

丹波総合開発促進協議会長
阪神丹波行政連合協議会長

柏原町長 谷口

務

兵庫県水上郡柏原町柏原一番地
電話(〇七九三七)二―〇五四四番

旭タンカー株式会社
営業二部

次長 田原敏男

〒100 東京都千代田区内幸町一丁目二番二号
(大阪ビル二号館)
電話(〇三)五〇八―一―二八―一番
テレックス 二二二―一五六七七番

兵庫県東京事務所

所長 板野英彦

〒102 東京都千代田区平河町二丁目六―三
都道府県会館内
電話(〇三)二五一―四二六六

自衛隊中央病院
高等看護学院長
理学診療科部長

前田和秀

病院 東京都世田谷区池尻町一ノ二ノ二四
〒154 電話(〇三)四一―一―〇一五一

編集後記

▼編集部に今年、足立源治さんがオッ取刀で助っ人、抜けば玉散る氷上の文刃、企画校訂に抜群の才あり、再来竹水翁の評。当文学老青年また酒豪の誉れ高し。

▼財源番大目付に足立克巳さん。渉外彦左は足立正さん。報道・デスクは読売新聞の本職小田はん。情報・通信のコントロールもまたDMS社の本職坂上はん。TVCM界の鬼才田中篤さんと日本画壇の異才常岡はんは、いずこも丹波弁で通すほどの愛郷家でユニークな企画マン。紅一点の文学少女？鶴田はんは原稿整理・調査に内助の功あり。偉駄天の飛車角、宮野はんは取材の先鋒。かくいう小生神田村育ちの出版屋。総十名、背水の陣屋。▼各々方、仕事のハネた時刻に集い、ケンケンガクガク、ときに深更、山ざる、赤鬼、青鬼、酒天童子、なぜか気が合い、とめどなく夢がふくらむ。いずれ劣らぬ武者ぞろい。▼八八周年を機に郷友会の年表をつくろうと宮野さん、だが現長老たちも生れてない頃からの郷友会、あきらめていた矢先、足立正さんが大阪の余田さんから古い資料を発掘。驚いたことに郷友会は東京が本部でしかも若い学生たちがつくった、とか。

(玄二)

▼時の流れを忘れるような悠々たる丹波の美しい自然の中に育ち、木枯しもとまどいそうな砂漠ともいわれる都会のビルに囲まれて暮しておられる郷友会の皆さん、身も心もせわしない毎日を過していらつしやることと存じます。人は一片の葉書に自分の消息を書く暇さえ失ってしまったかのようにも思えます。▼年月はいろいろなことを生み続け、消し去ってゆきます。墓碑・口碑はその人だけのもの、その人とともに消えてしまします。ひとときはテレビを消して、通り過ぎてきた道、未来に託すすばらしい夢を、文章に、うたや俳句にのせてみてはいかがでしょう。▼山ざる誌は、皆さんの暖かい日だまり、やさしくなごやかな憩いの場であるはずで。本誌を手にして、そこに知友の名を見つけた懐きさを、あなたも友人に差し上げて下さい。働く、寝る。働く、見る。働く、飲む。人さまさま、それに、ちよっとだけ書く、を加えてみてください。

▼松山名編集長が残して逝かれた、ひょうたんならこまが出たか、編集を手伝うことになりました。竹水老とは短期間ではありましたが、基と酒の仲立ちで親しくして頂き、編集のみことな切り口を拝見して、ひそかに舌を巻いたこともありました。とても継ぐという

わけには参りませんが、おしかりを受けながら少しでもお役にたてばと思います。

▼私も、三回の東京暮しで、かなり長くなりませんが、いまだに「裏」と「後ろ」の言い分けができず、ときには丁寧言葉のつもりで、「しよってや」とか、「だへん」とかいって笑われています。それでは少しいただいて、あんばよ酔うて寝るとします。皆さんおしまいなはれ。

春めくやたたみはう手の指えくぼ (源)

山ざる 第16号

昭和六〇年四月一五日発行

編集委員

足立克巳 足立正 小田富士夫

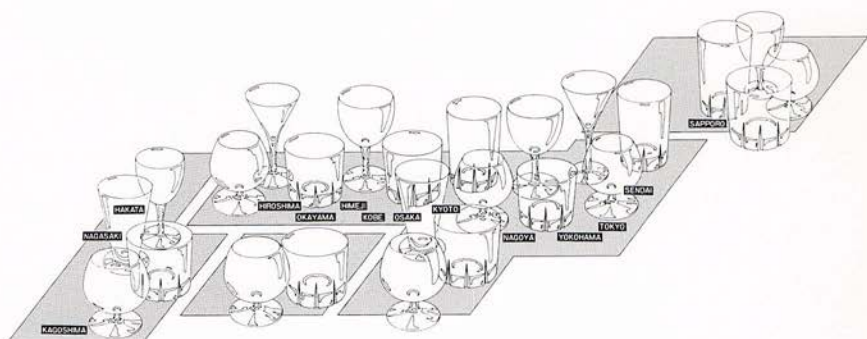
坂上勝朗 田中篤郎 常岡幹彦

鶴田ゆき子 宮野近 渡辺隆男

発行者 関東水上郷友会々長 伴信次
〒102 東京都千代田区飯田橋二丁目九番
春日建設株式会社内・〇三(二六)四二一番
振替・東京一三三三番・製作 関二玄社



エスカイヤクラブを頂点に、札幌から鹿児島まで
全国主要都市をネットする大和実業グループ。
たえず移り変わるニーズに、一歩先じたシステム&サービスで、
常にパーフェクトな店舗展開をめざします。



- エスカイヤクラブ
- ザ・ロイヤル
- 檜(やぐら)茶屋
- グランドパブ
- ギャルズ
- クラブVO
- VOキューティ
- VOローズルーム
- セブティックラブ
- ザ・トップクラブ
- ザ・トップクラブ
- ミュージックサルーン
- 舞妓
- やぐら亭
- スイートクラブ
- ザ・セラーズ
- ラジオシティ
- ザ・ワインバー
- ジェファールソングラブ
- BAC
- プカプカ
- カフェバー 5/6
- やぐら寿司
- 曙
- YAKINIKU HOUSE 298

本社/〒530 大阪市北区芝田2丁目1番18号 西阪急ビル10階 ☎06(372)8571(代)



横浜 東光寺 客殿及庫裡 昭和59年当社施工

綜 合 建 設 業

建設大臣許可第233号

春日建設株式会社

取締役会長 伴 伸 信 次

取締役社長 伴 伸 信 義

東京都千代田区飯田橋2丁目9番3号・電話03(264)-4011番(代表)